

2019年度

【詳細版】

東洋大学 社会貢献センター一年報

TOYO University Center for Social Contribution 2019 Annual Report



東洋大学

目 次

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長	1
---------------	---

社会貢献センターについて

東洋大学社会貢献センター規程	3
2019年度 社会貢献センター運営委員会名簿	5
社会貢献センター運営委員会活動記録	6

生涯学習部門

生涯学習部門の歴史的背景	9
2019年度 公開講座と講師派遣事業の概要	13
公開講座	
2019年度 公開講座実績一覧	17
公開講座アンケート結果	22
公開講座分野別受講者数推移	32
PICK UP	39
講師派遣	
2019年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告	46
2019年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧	49
PICK UP	55

社会貢献部門

社会貢献情報収集	
社会貢献情報収集の概要	61
2019年度調査 社会貢献活動一覧	63
PICK UP	84
地域活性化活動支援事業	
地域活性化活動支援事業の概要	92
2019年度 地域活性化活動支援事業一覧・活動報告	93
社会貢献活動助成・表彰制度	
社会貢献活動助成・表彰制度	129
2019年度 採択団体および表彰者	131
被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業	
被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業	135

社会貢献センター 外部評価

社会貢献センター 外部評価	137
---------------	-----

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長
森田 明美

東洋大学社会貢献センターは、東洋大学の創立 125 周年を記念した事業の一環として構想され、2013（平成 25）年 4 月より本学が目指す「哲学・国際化・キャリア」という 3 つの柱に加えて社会貢献という第 4 の柱を構成するための拠点として位置づけ、開設されたものです。

大学は、次代の社会の中核を担う人たちの養成という重要な役割を担う非営利の組織であり、その役割をこれまでも担ってきました。また、なにより本学は創立者井上円了による「大学の教育を広く民衆に届ける」という思想を有しています。そうしたことから、その具体化を大学生に対してのみならず、広く社会に押し広げるということは、今後の大学の在り方を探る重要な改革です。

その志をどのように具体化するのかということについては、学生と教職員のたゆまない挑戦と法人の理解と協力がなければ、こうした手探りの改革は発展しません。

社会貢献センターは、それまで生涯学習センターが担当してきた公開講座や講師派遣事業等のいわゆる生涯学習部門を一つの軸とし、社会貢献事業の掌握とその促進に関わる情報収集・提供等の役割をもう一つの軸として、関係教学部局と全学部からの参加による運営委員会方式で事業を推進してきました。

近年、こうした活動に社会貢献活動を直接応援する事業として、2015（平成 27）年度に急ぎょ実施したネパール地震支援に加えて、2016（平成 28）年度は熊本地震応援活動を実施しました。また、2016（平成 28）年度には、地域活性化事業を学生と教員が一緒になって実施する活動を支援する事業を始めました。

そうした活動を踏まえて、2017（平成 29）年度はボランティア支援室を開設する運びになりました。念願であった学生のボランティア活動を大学全体として応援する仕組みをつくることができました。ボランティアコーディネータとして配置された専門家の力を借りながら、専門性を持たれる先生と学生の協力で大きな活動が生まれました。事務局は、エクステンション課の職員が担っています。2 年目の 2018（平成 30）年度には学生主体のボランティア活動を進めるために、災害時の故郷の復興を学生が応援する際の助成金制度、東洋大学学生課外活動育成会の支援を受けて学生たちが主体になって企画実施をするボランティア活動も始まりました。

そうした意味では、これまでの事業を継承しながら、事務局と教学が一体となって、大学における社会貢献の在り方を探る新たな段階を迎えたといえます。

この年次報告書では、社会貢献センター 6 年目の事業についての報告をさせていただきます。生涯学習部門の事業の概要と、社会貢献活動についての情報収集結果を中心にまとめています。

今後、本学において、すでに其々の教職員や学生たちが行っている膨大な社会貢献活動の集約や、大学としての支援方法を考えていかなければならないと考えています。

どうぞ、皆様の忌憚ないご感想とご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

社会貢献センターについて

改正 平成27年6月1日 平成28年6月1日

平成29年4月1日

東洋大学生涯学習センター規則（平成8年規則第131号）の全部を改正する。

（設置）

第1条 東洋大学学則第8条第1項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）に「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 社会貢献センターは、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与し、もって社会に開かれた大学としての本学の発展に資することを目的とする。

（構成）

第3条 社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第4条 社会貢献センターは、第2条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

2 生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 生涯学習プログラムの開発
- (2) 公開講座等の開催
- (3) 生涯学習に関する広報活動及び案内
- (4) 生涯学習に関する資料の収集
- (5) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

3 社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 社会貢献プログラムの開発
- (2) 本学各部局で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信
- (3) ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項
- (4) その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

4 前項第3号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第5条 社会貢献センターに、センター長を置く

2 センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

3 センター長は、本学の専任教授のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

4 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第6条 社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教授のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は2年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(社会貢献センター運営委員会)

第7条 社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(運営委員会の組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 各学部及び大学院が推薦する専任教員 各1名
- (3) 学長が推薦する者 若干名
- (4) 通信教育部長
- (5) 学生部長
- (6) 教務部長

(委員の任期)

第9条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生涯学習プログラムの基本方針
- (2) 社会貢献プログラムの基本方針
- (3) 社会貢献センターの事業計画に関する事項
- (4) 学長から諮問された事項
- (5) その他社会貢献センターに関する重要事項

(議長)

第11条 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第12条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事業計画)

第14条 センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(事務の所管)

第15条 社会貢献センターの事務は、エクステンション課が所管する。

(細則)

第16条 この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則(平成9年4月1日施行)は、廃止する。

附 則(平成27年規程第153号)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則(平成28年規程第90号)

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年規程第2号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

2019年度 社会貢献センター運営委員会名簿

2020年3月31日現在

No.	役職	学部等	氏名	規程
1	センター長	社会学部	森田 明美	第5条、第8条第1号
2	運営委員	文学部	相楽 勉	第8条第2号(各学部及び大学院推薦)
3		経済学部	澁澤 健太郎	
4		経営学部	松村 良平	
5		法学部	今井 雅子	
6		社会学部	平島 みさ	
7		ライフデザイン学部	名取 発	
8		理工学部	及川 康	
9		総合情報学部	小瀬 博之	
10		生命科学部	藤村 真	
11		食環境科学部	佐藤 順	
12		国際学部	志摩 憲寿	
13		国際観光学部	黒崎 文雄	
14		情報連携学部	浅野 泰仁	
15		大学院	吉田 明子	
16		国際学部	藪長 千乃	
17	ライフデザイン学部	山本 美香	第8条第4号(通信教育部長) 第8条第5号(学生部長) 第8条第6号(教務部長)	
18	文学部	菊地 義裕		
19	ライフデザイン学部	中原 美恵		
20	法学部	高橋 豊美		

※規程は「東洋大学社会貢献センター規程」を指す。

社会貢献センター運営委員会活動記録

2019年度 社会貢献センター運営委員会

<p>第1回：2019年4月3日(水)【書面会議】 検討依頼事項： ① ボランティア支援室運営委員の立候補について</p>
<p>第2回：2019年5月14日(火) 12：20～12：50 報告事項： ① 2019年度 春期公開講座開講状況(文化公演の追加実施) ② 2019年度 資格取得対策講座開講状況 ③ 2019年度 講師派遣申込状況 ④ ボランティア支援室活動報告 ⑤ その他 審議事項： ① 2019年度 地域活性化活動支援事業追加申込みの選考について ② 2019年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成追加申込みの選考について「用途指定型支援」寄付金の使用について ③ その他</p>
<p>第3回：2019年5月22日(水)【書面会議】 審議依頼事項： ① 地域活性化活動支援事業(第二次募集)について 〈地域活性化活動支援事業 選考依頼〉 〈その他〉</p>
<p>第4回：2019年6月21日(金)【書面会議】 報告事項： ① 秋期公開講座について ② 地域活性化活動支援事業について</p>
<p>第5回：2019年7月19日(金) 12：20～12：50 報告事項： ① 2019年度 春期公開講座開講状況 ② 2019年度 講師派遣申込状況 ③ ボランティア支援室活動報告 ④ 「東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業」追加募集分の選考結果について ⑤ その他 審議事項： ① 2020年度 公開講座開講方針について ② 2020年度 講師派遣方針について ③ 2020年度 予算要求について</p>
<p>第6回：2019年9月10日(火)【書面会議】 審議依頼事項： ① 予算要求について ② 全国講師派遣の3年連続後1年休み後の対応(生涯学習支援プログラム 大学予算による提供)</p>
<p>第7回：2019年11月25日(月)【書面会議】 審議依頼事項： ① 2020年度 地域活性化活動支援事業について(教員と学生が一緒に活動) ② 2020年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰について(学生のみ活動) ③ 資格取得講座について(学生資格講座に関するアンケート結果添付)</p>

第8回：2019年12月20日(金)【書面会議】

審議依頼事項：

- ① Webによる資格取得講座について
- ② 2020年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成募集について(一部追加提案)
- ③ SDGs 学生活動支援について

報告事項：

- ① 公開講座開講に伴う学内教員、名誉教授の謝礼について

第9回：2020年1月10日(金)【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 東洋大学における社会貢献事業の実施状況調査について

報告事項：

- ① 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 取り下げについて
- ② 2019年度 公開講座の実施報告
- ③ 2019年度 資格取得対策講座の実施報告
- ④ 2019年度 講師派遣事業の結果報告
- ⑤ 2020年度 春期公開講座企画
- ⑥ ボランティア支援室活動一覧および「ボランティア WEEK」実施報告

第10回：2020年1月30日(木)【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 学校法人東洋大学中期計画(案)策定について

第11回：2020年2月6日(木)【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2019年度 自己点検・評価について
- ② 社会貢献センター(ボランティア支援室)における学生 SDGs 活動支援について

第12回：2020年3月5日(木)【※書面会議】 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面会議に変更。

審議依頼事項：

- ① 2020年度 講師派遣事業「SDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラム」(小・中・高校、特別支援学校対象)実施に伴う「講師派遣テーマ」の募集について
- ② 2020年度 東洋大学学生団体による社会貢献奨励プロジェクト助成選考について

報告事項：

- ① 2020年度 地域活性化活動支援事業選考結果について
- ② 社会貢献センター(ボランティア支援室)における学生 SDGs 活動支援について

第13回：2020年3月24日(火)【書面会議】

審議依頼事項：

- ① 2020年度 社会貢献センター予算執行計画について

報告事項：

- ① 2020年度 学生団体による社会貢献活動助成 選考結果について
- ② 社会貢献センター、ボランティア支援室に対する外部評価について
- ③ 課外活動育成会費等、学内における学生ボランティア活動について

生涯學習部門

■ 公開講座

■ 講師派遣

生涯学習部門の歴史的背景

1. 公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向けて仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、新しい情報として入手していたアメリカ等で行われていた「サマースクール」とその日本版とも呼ぶべき通信講学会でその実施を経験していた夏期学校等に影響を受けつつ実施されたものであると思われる。日本でも非常に早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果そうとしてきたことの証でもある。

第2次世界大戦後、多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ、その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回も開講したという歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起され、地域のひとびとに、大学の持つ知的な資源を提供する社会貢献事業は一貫して重視されてきたものであった。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への要求はますます高いものとなり、その期待を受けて、1980年代後半（昭和55年頃）になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の拡張を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史があった。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成2）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり、人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであったため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置においては大学自身の方が早く対応していたことになる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成9）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経ながら発展して現在に至る。

2. 講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学の講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888（明治21）年、井上円了は1年間の欧米視察に出かけたがそのことを通じて、「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至る。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し大学設立のための開設資金を得るために、全国を巡回し講演をすると共にその後募金をお願いするという計画を立てる。既に卒業生を輩出していたことや講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そ

して、いよいよ1890(明治23)年11月より、円了は自らが全国各地に赴いて講演をする教育活動に着手したのである。欧米への視察により、ケンブリッジ大学を起点としてイギリス各地及びアメリカにおいて急速に発展していた大学の構外講義、いわゆるユニバーシティ・エクステンション事業をつぶさに見聞して来た円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったと言えよう。

その後、1898(明治31)年～1902(明治35)年、1906(明治39)年～1919(大正8)年と講演旅行を続け、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。講演は、村や町の小学校の講堂やお寺等で開催され、延べ130万人を超える人々がその講演を聴いたとされる。この偉業は、今日まで、誰も手の届かない回数の講演である。受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎したとされる。当時こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子が、円了による記録のみならず、全国各地で記録され今日まで保存されている。こうした講演をきっかけとして、ご寄付を頂くこととなり、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたと言っても過言ではない。

1997(平成9)年に設立110年を迎えていたこともあり、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999(平成11)年度には創立者井上円了の没後80周年を記念した事業が構想された。そのひとつが、創立時に社会から受けた支援(寄付金)への御礼と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。同年度から始まった講師派遣回数は、21年間で2,294回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、この事業は今後も継続し続けなければならないものである。

1999(平成11)年に開始された講師派遣事業は、21年間で全国各地に2,294件の実績を残すことができた。本事業は、長く高校生を対象とした内容と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校では2000(平成12)年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によると、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」(文部科学省HPより引用)とされており、現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。講師派遣事業の存在が知られると、2001(平成13)年度には100件もの依頼が殺到した。ただし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で喧伝されるにつれて、総合的な学習の時間への評価は二分されるようになり、2011(平成23)年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減る。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導することとなり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動するかのようになり、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012(平成24)年度より激減した。

一般成人を対象とした講師派遣は、公民館などの社会教育施設及び関連施設において開催される住民対象の講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学等、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多様であった。

そして2015(平成27)年度、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に役立てていただくことを目的に新たに「企業研修支援プログラム」を

スタートさせた。本プログラムについては2016（平成28）年度より有料とし、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と名称を改め、企業のみならず各種団体でのスキルアップを目的とした研修に対応できるものとした。

さらに、2016（平成28）年度では、新たに都内の小中高等学校、特別支援学校に向けて、オリンピックをはじめスポーツに関する講義を行う地域連携事業として「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設けた。

1999（平成11）年からの講師派遣実績

※2014年度：一般（社会人）と高校を「生涯学習」支援プログラムに一本化。

年度 / 種別	関東	東北	甲信越 / 中部	近畿	九州・沖縄	北海道	北陸	中国	四国	年度計
1999	96	27	30	20	15	12	10	15	6	231
一般	90	21	30	20	13	12	10	13	6	215
高校	6	6	0	0	2	0	0	2	0	16
2000	24	11	13	4	8	4	8	3	3	78
一般	20	11	13	2	8	3	8	3	3	71
高校	4	0	0	2	0	1	0	0	0	7
2001	52	11	19	12	11	6	9	11	4	135
一般	11	2	19	4	5	3	9	0	0	53
高校	41	9	0	8	6	3	0	11	4	82
2002	50	20	22	10	13	6	13	11	2	147
一般	16	5	22	2	5	5	13	3	0	71
高校	34	15	0	8	8	1	0	8	2	76
2003	71	11	8	8	5	5	5	4	2	119
一般	20	2	8	8	5	2	5	4	2	56
高校	51	9	0	0	0	3	0	0	0	63
2004	56	9	7	7	3	5	4	3	2	96
一般	29	3	7	7	3	4	4	3	2	62
高校	27	6	0	0	0	1	0	0	0	34
2005	43	8	6	4	1	4	1	1	1	69
一般	25	6	4	4	1	4	1	1	1	47
高校	18	2	2	0	0	0	0	0	0	22
2006	57	5	5	7	4	4	3	2	1	88
一般	39	3	3	5	3	2	1	0	1	57
高校	18	2	2	2	1	2	2	2	0	31
2007	56	9	7	5	2	1	4	1	1	86
一般	40	7	2	4	2	1	2	0	0	58
高校	16	2	5	1	0	0	2	1	1	28
2008	61	8	7	6	6	4	2	2	0	96
一般	42	6	4	6	6	2	1	0	0	67
高校	19	2	3	0	0	2	1	2	0	29
2009	44	9	7	6	4	5	4	1	0	80
一般	31	8	7	6	3	5	3	1	0	64
高校	13	1	0	0	1	0	1	0	0	16
2010	49	8	8	7	4	2	2	4	1	85
一般	39	5	7	6	4	2	2	4	1	70
高校	10	3	1	1	0	0	0	0	0	15
2011	54	8	11	8	6	5	6	1	1	100
一般	37	7	10	8	6	5	4	1	1	79
高校	17	1	1	0	0	0	2	0	0	21

年度 / 種別	関東	東北	甲信越 / 中部	近畿	九州・沖縄	北海道	北陸	中国	四国	年度計
2012	50	5	9	9	8	5	0	2	2	90
一般	45	5	9	9	8	5	0	2	2	85
高校	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2013	45	7	5	4	7	6	1	7	1	83
一般	42	7	4	4	7	6	1	7	1	79
高校	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4
2014	49	11	11	7	3	7	6	4	1	99
生涯	49	11	11	7	3	7	6	4	1	99
2015	59	14	4	5	6	7	8	5	3	111
企業	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
生涯	53	14	4	5	6	7	8	5	3	105
2016	70	16	12	9	5	5	5	5	3	130
オリパラ	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9
企業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生涯	61	16	12	9	5	5	5	5	3	121
2017	73	14	15	11	12	9	6	7	2	149
オリパラ	8	0	2	0	0	0	0	0	0	10
企業	5	0	1	2	0	0	0	0	0	8
生涯	60	14	12	9	12	9	6	7	2	131
2018	63	13	11	9	6	10	8	4	3	127
オリパラ	7	0	1	0	0	0	0	0	0	8
企業	6	2	0	0	0	0	1	0	0	9
生涯	50	11	10	9	6	10	7	4	3	110
2019	53	10	9	6	7	5	1	4	0	95
オリパラ	10	0	1	0	0	0	0	0	0	11
企業	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
生涯	41	10	8	6	7	5	1	4	0	82
合計	1,175	234	226	164	136	117	106	97	39	2,294
オリパラ	34	0	4	0	0	0	0	0	0	38
企業	19	2	1	2	0	0	1	0	0	25
高校	282	58	15	22	18	13	8	26	7	449
生涯 / 一般	840	174	206	140	118	104	97	71	32	1,782

生涯学習部門

2019年度 公開講座と講師派遣事業の概要

1. 公開講座

以下の5区分で実施した。それぞれの概要は次の通りである。

1) オープン講座(無料)

「市民大学講座」「学術講演会」として開講された無料講座は、2016年度より「オープン講座」の名称に統一し、各キャンパスにて実施している。

本年度は、国連子どもの権利条約採択30年に関する講座、企業が取り組む社会貢献・CSR講座、健康・地域づくりまちづくり、文学作品に関する内容等、非常に幅の広いテーマが取り上げられた。講座は8本実施され、申込者数は全体で797名であった。

2) エクステンション講座(有料)

受講生を有料にて募集するエクステンション講座は、講師1名による「講座A」、テーマに基づいてオムニバス形式で複数講師が担当する「講座B」、2017年度に外部団体との連携講座として開設した「講座C」の種類がある。

本年度は、講座Aは14、講座Bは11、講座Cは2講座が設定され、受講者は合計676名(講座登録者数)であった。なお、各回の受講者の延べ人数としては、2,500人以上である。今年度は、全て白山キャンパスにて実施した。

講座Aの「『源氏物語』全巻を読む」、「万葉集講座」などは、春期と秋期で実施される文学領域の講座として定番となっており、リピーターの多い講座である。

講座Bは、現代的な課題を取り上げ、それに関わる研究や実践を進めている教員がそれぞれの角度から考察を加えるオムニバス方式の講座であり、学際性を生かしたチーム編成による講座は、本学における研究の特徴を示すものでもある。

「アーティストをサポートするプロフェッショナルたち」、「最新・観光学講座」、「生と死の哲学」、「世界史の中のオリンピック」、「ドイツ語圏の祝祭と文化」、「復興を生きる一東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦」等、総合大学として多彩なテーマを提供することができた。

講座Cは、春期に舞鶴市との連携講座「明智光秀の時代と丹後地方」、秋期に文京区立森鷗外記念館との連携講座「荷風と鷗外」を開講した。

3) 文化公演

文化公演は、実演を伴う文化・芸術に関する公演を無料で提供するもので、本年度はチリ大使館の協力にて、ゲストを招いて「アンサンブル・トランスアトランティコ・デ・フォーケチレーノ演奏会」を井上円了ホールにて開講し270名が受講した。

4) 資格取得対策講座

2016年度より始まった「資格取得対策講座」は、社会人の学び直しによるキャリアアップ

や再雇用、学生には就職活動時や就職後に必要な資格取得を目的としている。

春期は7講座を募集し、催行人数に達した4講座〔FP技能検定3級対策講座、MOS Excel 2013講座、宅地建物取引士講座、社会福祉士講座(社会学部主催で卒業生のみ社会貢献センターで受付)〕を開講した。

秋期は6講座を募集し、3講座(FP技能検定2級対策講座、MOS Excel 2013講座、社会保険労務士講座)を開講した。

今後は、学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

5) その他

今年度は本学創立者井上円了の没後100周年であることから、記念講座として学長による「東洋大学の創立者・井上円了の哲学・思想」を全5回、隔月で無料開催した。それぞれ多くの参加者があり、のべ1,640名が受講した。その他にも井上円了没後100周年記念講座を春期2講座、秋期2講座開講し、さまざまな角度から、本学創立者の教育理念や生涯教育・哲学教育への思いを知っていただく機会となった。

また、今年度も公益財団法人文京アカデミーの委託事業である「文京アカデミア講座」には、前期に「江戸、城と町の歴史」と題する3回連続講座と、後期に「異文化としてのドイツ」の5回講座を白山キャンパスにおいて実施した。特に、後期は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて文京区がドイツのホストタウンとなっていることを受けて企画し、文京区民の学習要求の広がりに対応するものであった。

さらに川越キャンパスでは、「小・中学生サマースクール」が6コース実施され、ロケット体験教室や速乾コンクリートでのオブジェづくり、キャンパス内の「こもれびの森」での生きもの観察をした。理工学部・総合情報学部の立地するキャンパスの豊かな自然と、大学の有する専門的な資源とを融合させた地域貢献でもあった。

2. 講師派遣事業

1999年より21年間実施された本年度の事業は、2,294件の実績であった。

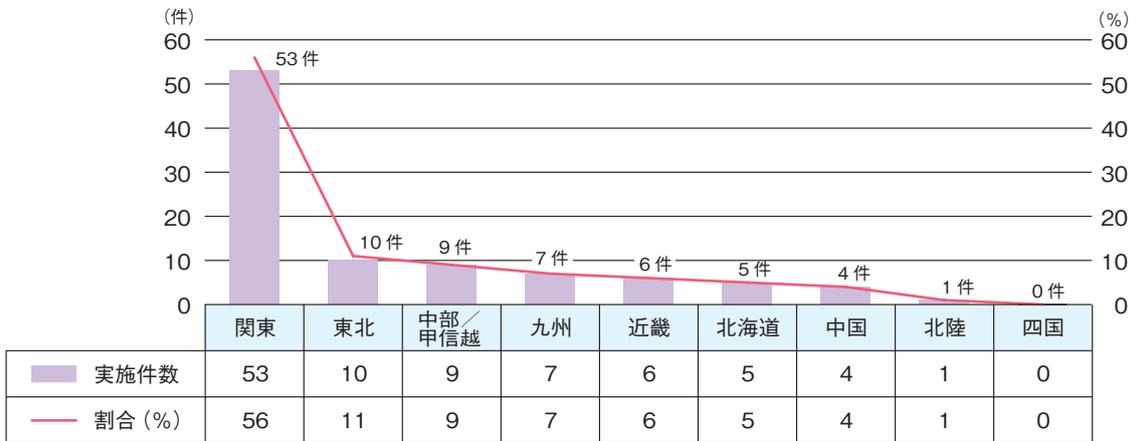
本年度は、3つのプログラム全体で99件の申込であったが、天候不良による中止などがあり、派遣実績は95件(含むオリンピック・パラリンピック学習支援講座11件、研修支援プログラム2件)であり、前年度に比べ32件ほど減少した。

地域的な分布は、下記の図-1に示すように、関東地方が約50%を占めている。ただし、西日本からの依頼は今回も少なく、全国巡回を果たした創立者に倣い、今後も改善に向けた努力をする必要がある。

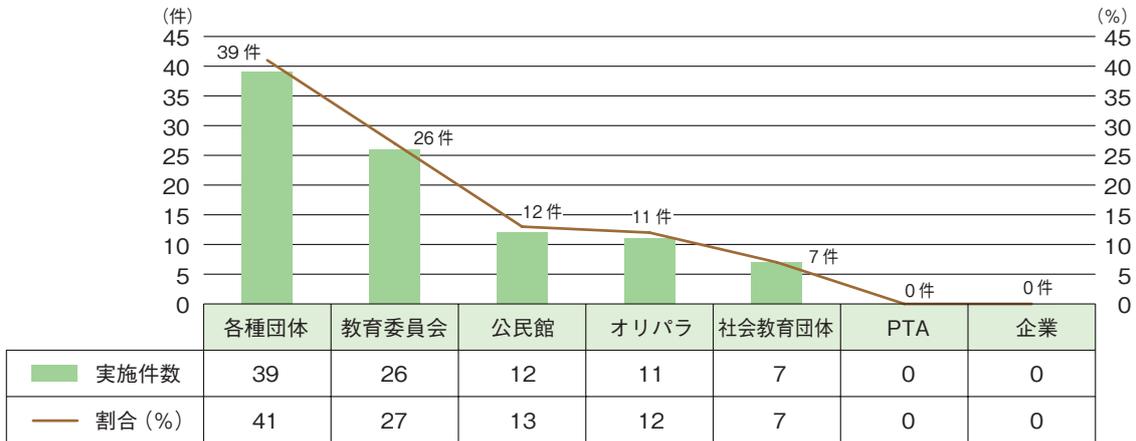
次に、申込された主催団体は、図-2に示すように、教育委員会が26件であり、前年とほぼ同数だった。市民の任意団体やNPO法人等の各種団体が39件であり、前年に比べ減少した。このうち前年度も依頼があった団体は23団体であり、全体の24%にあたる。

また、派遣に応じた講師は、専任教員が74件と圧倒的多数を占めており、本学専任教員にとっても重要な役割として認識されている。さらに、名誉教授10名が18件の講師派遣を実施し、当事業にご協力いただいた。なお、講演内容は全区分において要請があり、地域社会からの期待に応えたテーマ設定であったと考える。

図一 1 【地域別】2019年度 講師派遣



図一 2 【主催団体別】2019年度 講師派遣

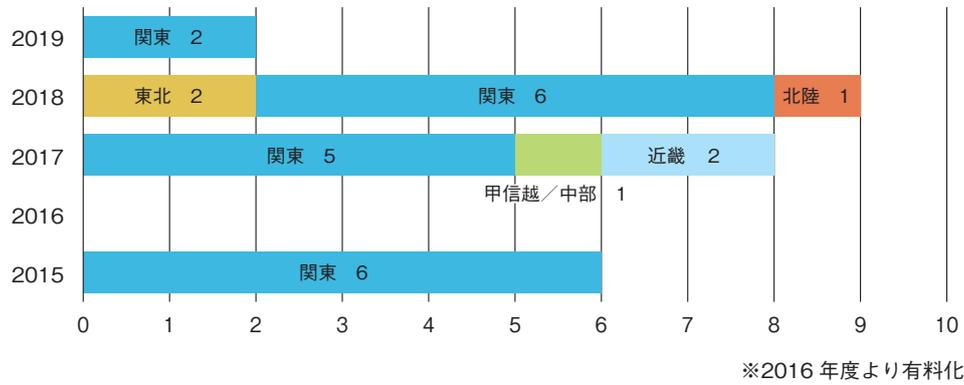


※オリパラは「団体」ではなく「講義種別」にて算出

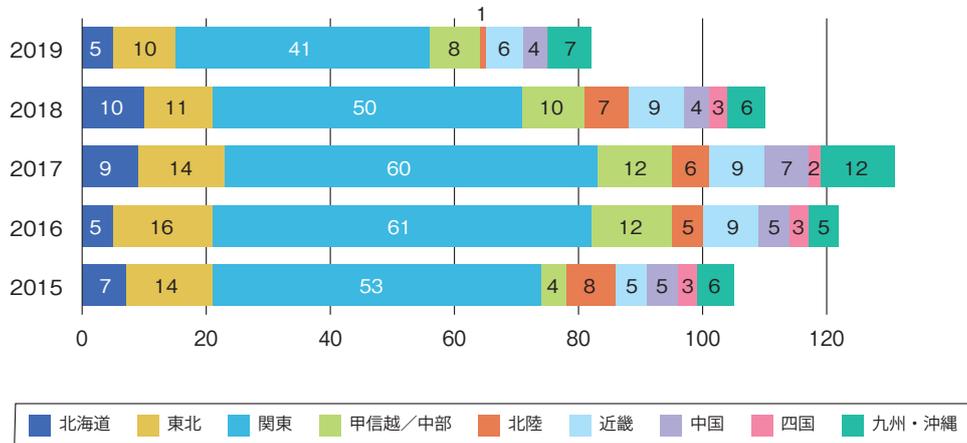
図一 3 過去4年間のオリンピック・パラリンピック学習支援講座(地域別)



図ー４ 過去5年間の研修支援プログラム(地域別)



図ー５ 過去5年の生涯学習プログラム(地域別)



公開講座

2019年度 公開講座実績一覧

(エクステンション講座A・B・C(連携講座)・オープン・その他の講座)【春・秋期】

〈オープン講座春期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
朝霞	アイデア創出の仕組み—アタマを活性化するテクニク—	柏樹 良	2019年5月25日	1回	64名	無料	90
川越	コミュニティデザインとまちづくり—みんなの思いをカタチに—	二宮 仁志	2019年5月11日	1回	81名		90
板倉	読み継ごう、日本の名作古典『源氏物語』の名場面を原文で読み、楽しむ—「若紫」巻—	河地 修	2019年6月8日	1回	70名		120

〈オープン講座秋期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	申込者数	受講料	総時間/分
白山	～国連子どもの権利条約採択30周年～世界中の子どもたちの人権が守られるために—国連子どもの権利委員会の活動と挑戦—	大谷 美紀子	2019年10月30日	1回	439名	無料	90
	富士ゼロックスの環境への取り組み	宮本 育昌	2019年10月11日	1回	20名		90
	プロスポーツチーム・柏レイソルの社会貢献	河原 正明 兵頭 康二 吉田 克弥	2019年10月18日	1回			90
	新生銀行による次世代の育成(金銭基礎教育プログラム)	石井 博司 深谷 友美子	2019年10月25日	1回			90
	企業が取り組む社会貢献・CSR～社会的トレンド編	伊藤 佐和	2019年10月19日	1回	30名		90
	ファッション業界のCSR	藤井 綾美	2019年10月26日	1回			90
	CLASSIC RAILWAY HOTELが取り組む官民連携による無人駅前開発	中島 秀豊	2019年11月9日	1回			90
私たちが暮らす町はどう変わる?～グローバル化時代の地域づくりと財政	沼尾 波子	2019年11月16日	1回	60名	90		
朝霞	人生の喪失を乗り越えるヒントを考える～リカバリーとレジリエンス～	吉田 光爾	台風のため中止				
板倉	シニア世代の健康体力づくり講座	佐藤 征夫	2019年10月5日	1回	32名	無料	120

〈エクステンション講座A春期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	詩を楽しむ	近藤 裕子	2019年5月18日 ・6月1日	2回	一般：13名 学生：3名	一般：3,240 学生：1,080	180
	『源氏物語』全巻を読む—「総角」・「早蕨」・「宿木」— ～大い君の死後、尽きせぬ悲しみの中の君、二条院へ～	河地 修	2019年5月13日 ～7月1日	8回	一般：24名 学生：1名	一般：12,960 学生：4,320	960
	万葉集講座—万葉の歌・生活・文化—	菊地 義裕	2019年5月15日 ～6月19日	6回	一般：53名 学生：5名	一般：9,720 学生：3,240	540
	「般若心経の世界」	渡辺 章悟	2019年5月25日 ～6月8日	3回	一般：38名 学生：3名	一般：4,860 学生：1,620	270

白山	「幕末維新の古文書」を読む	岩下 哲典	2019年6月21日 ～7月19日	3回	一般：32名 学生：1名	一般：4,860 学生：1,620	270
	「思いやり」を科学する	浅間 正通	2019年6月29日	1回	一般：46名 学生：2名	一般：1,620 学生：540	120
	論語から社会人力を考える	吉田 善一	2019年7月6日 ・7月13日	2回	一般：14名 学生：0名	一般：3,240 学生：1,080	180

〈エクステンション講座A 秋期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	一向一揆と民衆	神田 千里	2019年10月26日 10/12台風のため 延期	1回	一般：27名 学生：1名	一般：1,650 学生：550	90
	東南アジア美術の旅—インドネシア、ジャワ島・バリ島の宗教美術を中心に—	山口 しのぶ	2019年10月19日 ～11月23日 10/12台風のため 延期	4回	一般：8名 学生：1名	一般：6,600 学生：2,200	360
	万葉集講座—万葉の歌・生活・文化—	菊地 義裕	2019年10月16日 ～11月27日	6回	一般：41名 学生：3名	一般：9,900 学生：3,300	540
	高齢社会における医療制度の現状を生活者の視点から理解する	堀田 真理	2019年10月19日	1回	一般：18名 学生：0名	一般：1,650 学生：550	90
	書道実技講座	蓮見 行廣	2019年10月21日 ～11月25日	5回	一般：14名 学生：1名	一般：16,500 学生：5,500	600
	『源氏物語』全巻を読む—「宿木」— ～二条院の中の君、匂宮の婚儀と薫の未練に苦悩する～	河地 修	2019年10月21日 ～12月16日	8回	一般：23名 学生：2名	一般：13,200 学生：4,400	960
	思いやりを科学するⅡ	浅間 正通	2019年11月28日	1回	一般：29名 学生：2名	一般：1,650 学生：550	120

〈エクステンション講座B 春期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	世界中の中のオリンピック	高島 純夫	2019年6月8日	3回	一般：6名 学生：0名	一般：4,860 学生：1,620	90
		村田 奈々子	2019年6月15日				90
		曾田 長人	2019年6月22日				90
	(福祉社会システム専攻シリーズⅣ) 環境問題・エコライフ・持続可能社会—江東区元気高齢者による社会活動の事例	松本 誠一	2019年6月17日	1回	一般：10名 学生：0名	一般：1,620 学生：540	90
		中瀬 勝義					
	アーティストをサポートするプロフェSSIONナルたち	安藤 和宏	2019年6月22日 ・6月29日	1回	一般：22名 学生：34名	一般：8,100 学生：2,700	90
		香山 真吾	2019年6月22日 ・6月29日	1回			90
		松本 大輔	2019年6月29日	1回			90
		三野 善之	2019年6月29日	1回			90
		講師全員	2019年6月29日	1回			90

〈エクステンション講座B 秋期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	生と死の哲学—S. キルケゴールの実存思想の系譜と展望—	中里 巧	2019年10月19日 ・11月16日 (10月12日台風のため中止。両日1時間繰下げ)	4回	一般：11名 学生：1名	一般：8,250 学生：2,750	600
		山館 順	2019年10月26日 ・11月9日				
	(福祉社会システム専攻シリーズV) これからの時代のキャリアデザイン	榊原 圭子 鈴木 亮平 池田 大樹	2019年10月19日	1回	一般：4名 学生：14名	一般：1,650 学生：550	90
	観光庁との連携による地域の観光産業を担う中核人材育成講座 ビジネスリーダーを目指す女性のための「最新・観光学講座」	森下 晶美	2019年10月26日	5回	一般：16名 学生：3名	一般：8,250 学生：2,750	450
		徳江 順一郎	2019年11月16日				
		真柄 徹	2019年11月23日				
		鎌田 直美	2019年12月7日				
		岡泉 幹雄	2019年12月21日				
	復興を生きる—東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦	鈴木 敦雄 垣下 美紀	2019年10月29日	4回	一般：5名 学生：14名	一般：6,600 学生：2,200	60
		三浦 友幸	2019年11月12日				60
		畠山 信	2019年11月26日				60
		加藤 拓馬 成宮 崇史	2019年12月10日				60
	児童文学者・石井桃子の生涯と作品	竹内 美紀	2019年10月29日 ・12月10日	2回	一般：17名 学生：1名	一般：4,950 学生：1,650	270
		尾崎 真理子	2019年11月12日	1回			
ドイツ語圏の祝祭と文化	山室 信高	2019年11月16日	1回	一般：8名 学生：0名	一般：6,600 学生：2,200	360	
	FrankRiesner	2019年11月23日	1回				
	田中 雅敏	2019年11月30日	1回				
	大野 寿子	2019年12月7日	1回				
日本文学文化における「都鄙」	河地 修	2019年11月23日 ・11月30日	2回	一般：15名 学生：1名	一般：4,950 学生：1,650	270	
	中山 尚夫	2019年12月7日	1回				

〈エクステンション講座C 春期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	明智光秀の時代と丹後地方～ NHK大河ドラマ「麒麟がくる」 を契機にして～	神村 和輝	2019年5月18日	1回	一般：49名 学生：2名	一般：1,620 学生：540	90
		佐々木 倫朗	2019年5月25日	1回			90
		吉野 健一	2019年6月1日	1回			90

〈エクステンション講座C 秋期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	荷風と鷗外—文京区立森鷗外記念館連携講座—	嶋田 直哉	2019年10月19日	1回	一般：36名 学生：0名	一般：4,950 学生：1,650	450
森鷗外記念館		池澤 一郎	2019年10月27日	1回			
白山		持田 叙子	2019年11月17日	1回			
白山		石田 仁志	2019年11月30日	1回			
森鷗外記念館		真銅 正宏	2019年12月8日	1回			

〈文京アカデミア(大学キャンパス) 講座前期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	江戸、城と町の歴史	大野 瑞男	2019年6月13日 2019年6月20日 2019年6月27日	3回	115名	1,500	270

〈文京アカデミア(大学キャンパス) 講座後期〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	異文化としてのドイツ	田中 雅敏	2019年11月13日 ～12月11日	5回	53名	2,800	450

〈文化公演〉

場所	講座名	演奏者	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	アンサンブル・トランスアトランティコ・デ・フォークチレーノ演奏会	アンサンブル・トランスアトランティコ・デ・フォークチレーノ	2019年7月16日	1回	270名	無料	90

〈川越：理工学部小・中学生サマースクール〉

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
川越	「飛び出せ宇宙へ！ロケット体験講座」	藤松 信義	2019年7月20日	1回	77名	無料	210
	「とびたて電動ドローン！製作・体験講座」			1回			
	「速乾コンクリートでオブジェを作る」	香取 慶一		1回	27名		180
	「親子で作ろう！宝石の標本」	勝亦 徹 相沢 宏明		1回	109名		120
	身近にいる微生物を観察しよう！	峯岸 宏明		1回	8名		60
	川越キャンパス「こもれびの森」で生きもの観察	小瀬 博之		1回	25名		240

<井上円了没後100周年記念講座>

学長土曜講座

メインテーマ：「東洋大学の創立者・井上円了の哲学・思想」

場所	テーマ	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	井上円了の生涯と、その生涯における仏教や哲学などとの関係について	竹村 牧男	2019年5月25日	5回	312名	無料	80
	井上円了の哲学に対する見方・考え方について		2019年7月27日		326名		80
	井上円了の仏教に対する見方・考え方について		2019年9月21日		318名		80
	井上円了の妖怪学の内容とその意義について		2019年11月30日		315名		80
	井上円了の教育理念、その今日の高等教育における意義について		2019年1月25日		300名		80

その他、井上円了没後100周年記念講座

場所	講座名	講師	期間	回数	受講者数	受講料	総時間/分
白山	勝海舟と井上円了—哲学館の三恩人として	三浦 節夫	2019年5月18日	1回	195名	無料	90
	井上円了の見た世界	野間 信幸	2019年6月15日	2回	148名		90
		山口 しのぶ	2019年6月22日				90
白山	追っかけ井上円了—哲学堂公園と井上円了記念博物館をめぐるスタディ・ツアー	三浦 節夫 北田 建二	2019年10月26日	2回	36名		180
中野区立哲学堂公園		中野区立哲学堂公園事務所職員	2019年11月2日				
白山	旅する哲学者 井上円了—27年間の民衆教育	三浦 節夫	2019年11月9日	1回	63名		120

公開講座アンケート結果

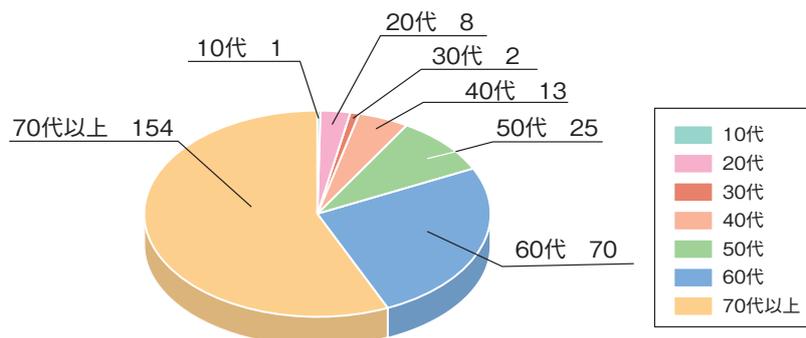
2019年度 A講座総合集計結果

申込総数：420名

回収枚数：280枚

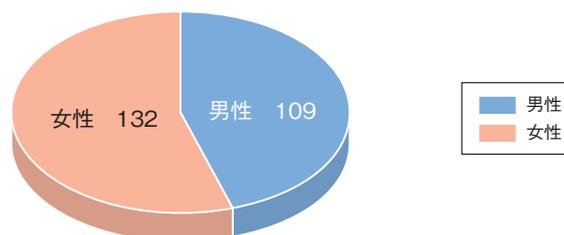
【年齢】無回答：7名

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	8	2	13	25	70	154



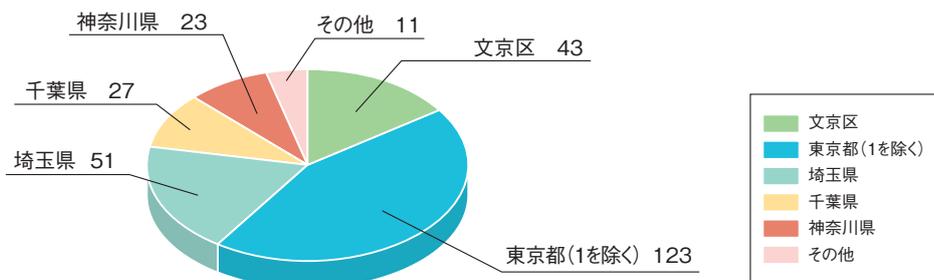
【性別】無回答：39名

男性	女性
109	132



【住所】無回答：2名

文京区	東京都 (1を除く)	埼玉県	千葉県	神奈川県	その他
43	123	51	27	23	11



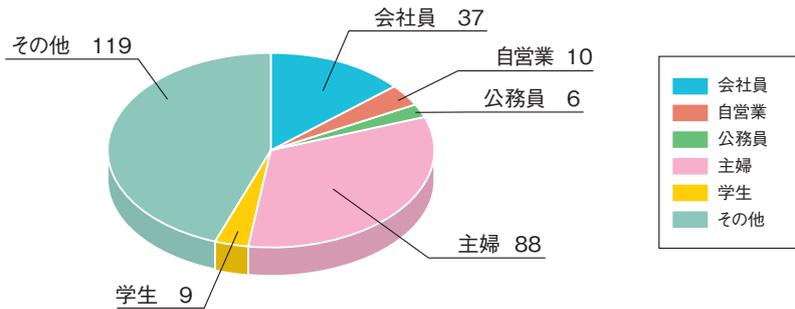
〈参考〉「その他」内訳…茨城県：5名、群馬県：1名、栃木県：1名、静岡県：1名、北海道：1名、無回答：2名

【職業】無回答：11名

会社員	自営業	公務員	主婦	学生	その他
37	10	6	88	9	119

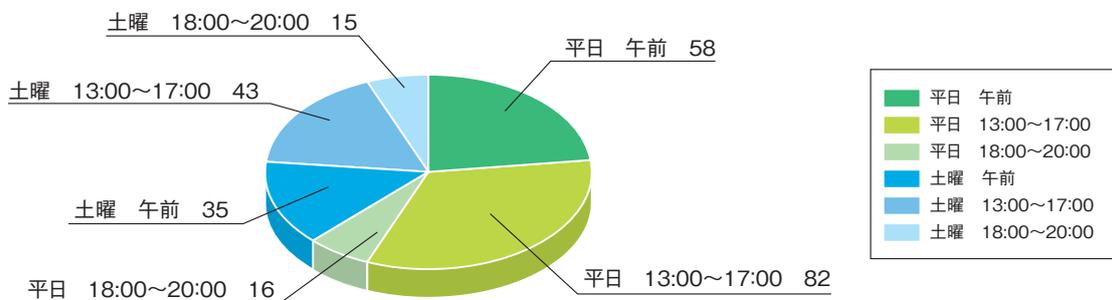
《参考》

「その他」内訳… 無職：28名、定年退職者：8名、パート：7名、会社経営：3名、
 団体役員：1名、保育士：1名、農家：1名、ケアマネージャー：1名
 社有：1名、非常勤講師：1名、講師：1名、塾主催：1名、
 アルバイト：1名、無回答：64名



【公開講座に参加しやすい日時】 ※途中追加項目のため春期はA2、A5、A6、A7のみ

平日 午前中	平日 13:00~17:00	平日 18:00~20:00	土曜 午前中	土曜 13:00~17:00	土曜 18:00~20:00
58	82	16	35	43	15



【この講演会を知った方法】

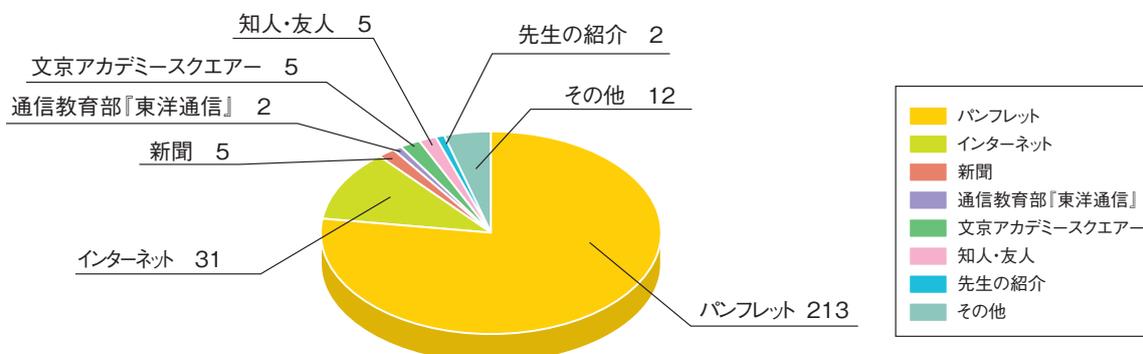
パンフレット	インター ネット	新聞	通信教育部 『東洋通信』	文京アカデミー スクエア	知人・ 友人	先生の 紹介	その他
213	31	5	2	5	5	2	12

《参考》

「パンフレット」内訳… 自動的に送られた：181名
 今回請求した：7名
 書店設置：3名(三省堂1名、無回答2名)
 郵便局：1名
 OB会：1名
 無回答：20名

「先生の紹介」内訳…… 堀田先生：1名、無回答：1名

「その他」内訳…… 他の講座から：1名、文京シビックセンター：1名、Toyonet-G：1名
学報(卒業生)：1名、ネット検索：1名、サイエンスポータル：1名
無回答：6名



【講座の感想等】

[春期：A1 詩を楽しむ]

- ・今まで、文学に興味がなかったのですが、少しずつ楽しさがわかってきたような気がします。ありがとうございました！
- ・素晴らしい講義でした。英語と訳をくらべながらよく読んでみたいです。
- ・初めての参加でしたが、話に関心が深まりました。

[春期：A2 『源氏物語』全巻を読む - 「総角」・「早蕨」・「宿木」 - ～大い君の死後、尽きせぬ悲しみの中の君、二条院へ～]

- ・今回初めての参加ですが、河地先生のお話を直接聞くことが出来、感激しました。毎回とても楽しく2時間がとても短く感じられました。
- ・音読することによってより深く原文を味わうことが出来たと思います。どうもありがとうございました。
- ・今回もありがとうございました。ますます面白くなってきますね。私も楽しみにしています!!

[春期：A3 万葉集講座 - 万葉の歌・生活・文化 -]

- ・いつものながらの菊地先生の名講義、楽しく受講出来ました。次回にも期待しております。
- ・大変良かった。先生の誠意が伝わる講座でした。趣味の講座とは一味もふた味も違う素晴らしい内容でした。
- ・テキストに年表や地図を示して頂き大変にわかりやすかった。各回に取り上げられた歌人の和歌とそのテーマに関連する他の歌人の和歌も併せて紹介して下さったので万葉集への理解が深まって大変良かった。

[春期：A4 般若心経の世界]

- ・今まで知らなかったことを学べた。心経を分かりやすく伝えてきた方の思いがあることを知ることができた。
- ・絵文字の素晴らしさ、また、そこに住む人たちの知識の深さに驚きました。
- ・歴史、風俗に結びついていて、絵・心経に興味をもちました。

[春期：A5「幕末維新の古文書」を読む]

- ・内容もたいへん面白く、先生のお話も楽しくて、勉強になりました。非常に充実していました。ありがとうございました。
- ・江戸時代のほうが現代より日本を一番に考えていることが良く分かりました。
- ・詳しく分かりやすく教えていただいた。

[春期：A6「思いやり」を科学する]

- ・発想力が豊かだと、思いやりの心に通じること。楽しく拝聴いたしました。
- ・フィンランドの事例など大変興味深く良かった。今後に活かせるような講座であり楽しかった。美声でした！
- ・アナログ人間というひげ目を感じながらデジタル社会に違和感を感じていましたが、先生のお話を聞いてアナログ人間もいいものだと思います。秋の講座も楽しみにしております。

[春期：A7 論語から社会人力を考える]

- ・論語をもっともっと自ら学び考え、実生活に活かしていこうという気持ちになりました。ありがとうございます。
- ・論語には答えがないので解釈が難しいが、考えることが大切なのだと感じました。
- ・論語の解説を多角的視点から行うことで理解を深めることが出来た。実社会活動の中で論語の精神を反映させること、参考にすること等々役立った。

[秋期：A1 一向一揆と民衆]

- ・宗教的ではなく、政治的・社会的・歴史的な説明で良かった。
- ・非常に興味深く、又分かりやすい解説で勉強になりました。又、続編をお聞きしたく、よろしく願い致します。
- ・以前より一向一揆に関心はあったので、参加者への解説大変良かったです。

[秋期：A2 東南アジア美術の旅]

- ・訪れたことのある場所の宗教的な意味合いや、文化や美術の移り変わりをそれぞれの宗教を軸にして学んでいくのが面白かったです。インドネシアという多民族他宗教の国だからこそ、興味深い事案も多かったのかなと思うので、ヒンドゥー教の基になったインドやイスラム教徒の多いアラブの国だとどうなのかも伺いたいです。
- ・4回ともとても楽しく聞かせていただきました。20年前に訪れたところですが、先生のお話を聞いた後でしたら、もっと詳しく見られたことだろうなと思いました。ボロブドゥール、立体マンダラ、すばらしい遺跡でした。
- ・大変わかりやすいご講義でとても楽しく受講いたしました。今迄仏教に興味を持ち少し勉強(?)していましたが日頃ヒンドゥー教ってどの様なものかと興味があり、今日の講座で入口に入らせていただきました。

[秋期：A3 万葉集講座]

- ・「吉野」の意味がよくわかりました。ありがとうございました。
- ・菊地教授の講座はとても面白いです。研究者としての知識に加え、先生からにじみ出る人間性が加わって、レベルの高い講義をわかりやすく、滑らかでした。午後一番の時間なのに少しも眠くならず、先生の話に引き込まれていきました。豊富な話ばかりでメモを取るのも忙しく、充実した時間でした。次回も是非、お願い致します。
- ・先生の人柄がにじみ出る声で詳しく説明していただきとても良い時間でした。
- ・先生のお話はいつも多様で深い趣があって、大変勉強になりますし感動を覚えます。普通の本やネットのサイトにはない体験ができます。本当にありがとうございます。

[秋期：A4 高齢社会における医療制度の現状を生活者の視点から理解する]

- ・先のことを考えるきっかけとなり良かったです。これを機会に自主的に学習します。
- ・細かく医療現状を話してくださいました。
- ・医療制度は複雑であり、それを理解するのは非常に困難です。今回の先生のお話は大変分かりやすく有意義でした。
- ・講師の方の身近なお話も交えながら、とてもイメージしやすく、わかりやすかったです。最近、近所施設の利用者さんが訪問診療に代わっていることも今回の内容で理解できました。ありがとうございました。もっと聞きたかったです。

[秋期：A5 書道実技講座]

- ・初めての古筆、入筆、起筆、送筆、終筆、点画、文学の大小、行の構成など参考になりました。興味ある書となり継続して学んでいきたいです。
- ・小学生中心にお手本を書いて居りますので、曾我の寒食詩巻にどの様に臨書して良いか解りませんでした。毎回一生懸命に学習させて頂き、運筆他色々な事を学ぶ事が出来ました。有難うございました。
- ・臨書から創作への筆使いと表現力を具体的に御教示頂き、大変良かった。
- ・曾我黄州寒食詩巻についての講座であったことは、ありがたかった。すごさと、立派さの片鱗がわかりました。

[秋期：A6『源氏物語』全巻を読む]

- ・ありがとうございました。来季を楽しみにしております。
- ・いつも河地先生のお話は楽しく、毎回とても楽しみにしております。「音読」にも段々慣れてきて、抵抗がなくなりました。
河地先生の訳が付いたプリントにはとても理解するのに役立っています。今期もどうもありがとうございました。
- ・朗読してからの説明が大変良かった。
- ・とても楽しく源氏物語を知ることができました。次回もよろしく願いいたします。

[秋期：A7 思いやりを科学するⅡ]

- ・思いやりの奥深さに気付かされました。
- ・春の講座を受けたのに、忘れていたことも多く、再度お聞きして思い出しました。「気付き」を感じる内容で、多方面からのものの見方、受け止め方が必要だと実感しました。職場での人間関係にも生かせる内容もありました。
- ・今の社会で、自分の子供にも、自分が思っている思いやりが伝わらないのを感じていたので、先生のお話を聞いて、納得できることがたくさんありました。ありがとうございます。
- ・希少価値のある講座で面白かった。Do you have a pen? の answer が Here you are! は勉強になった。

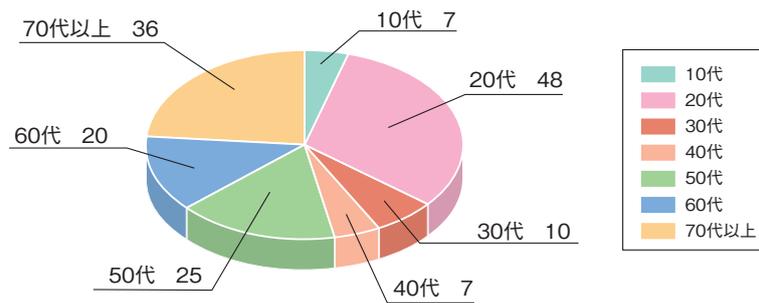
2019年度 B、C 講座総合集計結果

申込総数：201名

回収枚数：156枚

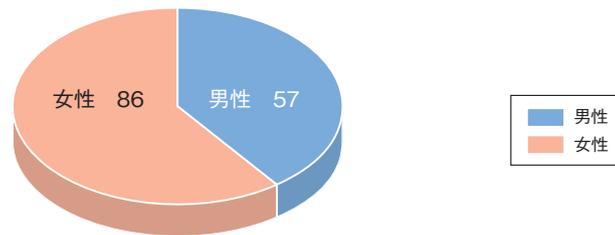
【年齢】無回答：3名

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
7	48	10	7	25	20	36



【性別】無回答：13名

男性	女性
57	86

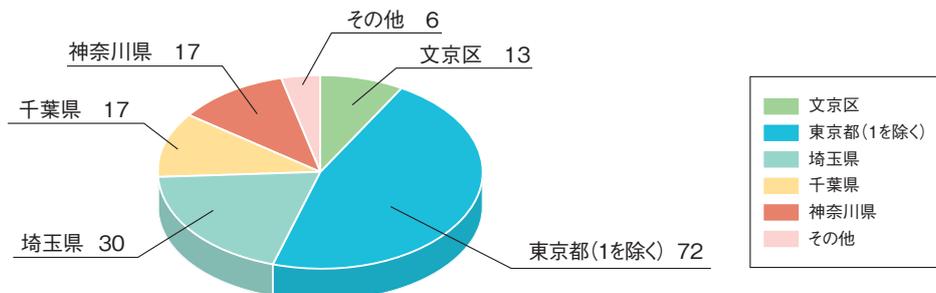


【住所】無回答：1名

文京区	東京都 (1を除く)	埼玉県	千葉県	神奈川県	その他
13	72	30	17	17	6

《参考》

「その他」内訳…茨城県：3名、静岡県：1名、群馬県：1名、無回答：1名

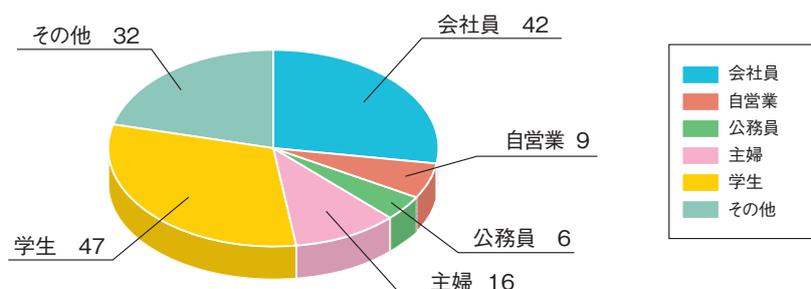


【職業】無回答：4名

会社員	自営業	公務員	主婦	学生	その他
42	9	6	16	47	32

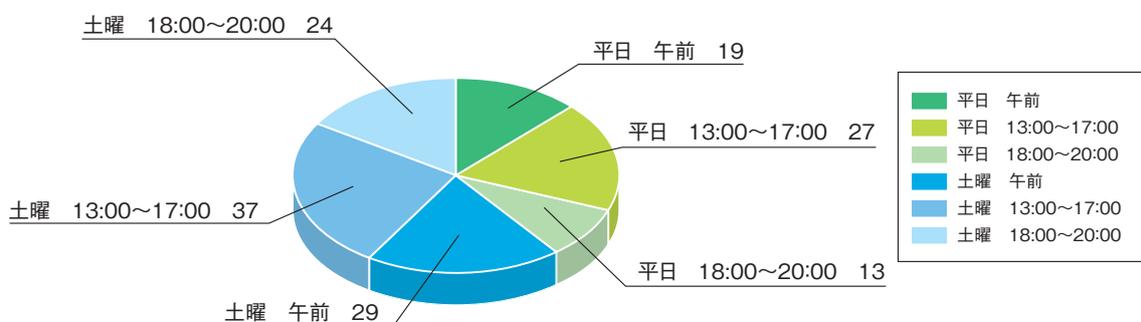
《参考》

「その他」内訳… 無職：6名、パート：4名、通信OG：2名、退職：1名、会社相談役：1名、弁護士：1名、請負業：1名、無回答：16名



【公開講座に参加しやすい日時】無回答：1名 ※途中追加項目のため春期はB1、B3のみ

平日 午前中	平日 13:00~17:00	平日 18:00~20:00	土曜 午前中	土曜 13:00~17:00	土曜 18:00~20:00
19	27	13	29	37	24



【この講演会を知った方法】

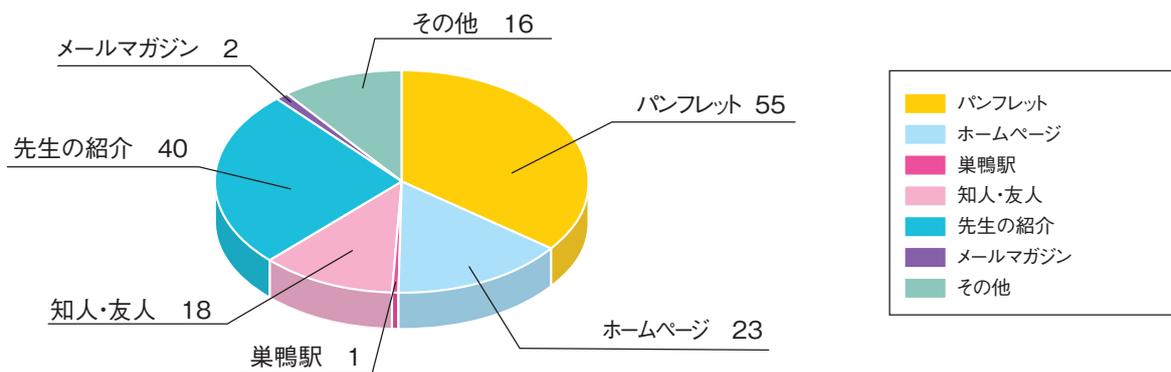
パンフレット	ホームページ	巣鴨駅	知人・友人	先生の紹介	メール マガジン	その他
55	23	1	18	40	2	16

《参考》

「パンフレット」内訳… 自動的に送られた：40名、今回請求した：2名、書店設置：1名、図書館：1名、シビックセンター：1名、当館カフェ横のスペース：1名、無回答：9名

「先生の紹介」内訳… 安藤和宏先生：16名、長津一史先生：12名、榊原圭子先生：5名、
竹内美紀先生：1名、上田知亮先生：1名、
船津幸子先生 & 森下先生 & 徳江先生：1名、無回答：4名

「その他」内訳…………… 学内掲示：6名、鷗外記念館：2名、入学資料：1名、
セカンドアカデミー：1名、インターネット：1名、観光庁 HP：1名、
船津さんからのメール：1名、無回答：3名



【講座の感想等】

【春期：B1 世界史の中のオリンピック】

- ・オリンピックの意義、歴史的背景、時の政治権力者との関係等について、多角的視点からの考察に触れ、オリンピックについての理解を深めることができました。今回の講座に参加して「本当によかった」と思っています。ありがとうございました。

【春期：B2 環境問題・エコライフ・持続可能社会】

- ・多方面のことを教えてもらった。考えるきっかけにしたい。
- ・日本もフランスのように発想の転換で観光立国になれるのでは、と感じた。
- ・大変良かった。素晴らしい活動だと思います。サクセスストーリーをどんどんつくってください。

【春期：B3 アーティストをサポートするプロフェッショナルたち】

- ・時代の流れ、ファンの需要に合わせて、新しいビジネスモデルを作ったり既存のサービスをアップデートしたり、様々な努力、工夫がなされているということを知れて良かったです。
- ・初めて知ることばかりで、とても興味深く勉強になりました。デジタルパンフレットのダウンロードの件は感動しました。ユーザーの気持ちに寄り添って付加価値を生む。素晴らしいですね。
- ・この機会にしか聞けないお話が聴けてとても勉強になりました。仕事に対する考えが変わりました。

【秋期：B2 生と死の哲学 – S. キルケゴールの実存思想の系譜と展望–】

- ・機械文明にひそむ、人間の心の葛藤の何かを考えさせられた。
- ・いつ受けても素晴らしい講義でした。
- ・キルケゴールについて大変良かった。今後も公開講座あれば楽しみにします。聖書キリス

ト教、など少し理解できた。

[秋期：B3 (福祉社会システム専攻シリーズV) これからの時代のキャリア・デザイン]

- ・今後のキャリアをどうデザインしていくか、考えていく上での基準となるような貴重なお話を聞くことができ、自分の人生を構築するヒントになったように思います。”自分の人生を自分でデザインしている”おふたりだなと感じました。悩みながら進んでいくことへの不安はありますが、勇気をもって進んでいきたいなと改めて思いました。
- ・新たな価値観を見出すだけでなく、自分が今持っているスキル・技能からどのようなものを生み出せるのかを常に考えていくことが大切なのだと感じました。何かを行動すると決めたら恐れず挑戦するという精神を持って貫くということも自分のキャリアを考えていく上で必要なのだと思いました。
- ・一歩前へ進むきっかけができました。ありがとうございました。
- ・情報や考え方の講義形式だけでなく、実際に学生側に立った疑問や不安点などを質疑応答の形でお話できる機会を設けていただけたので、とてもインプット、アウトプットともに大切な時間になりました。ありがとうございました。

[秋期：B4 観光庁との連携による地域の観光産業を担う中核人材育成講座 ビジネスリーダーを目指す女性のための「最新・観光学講座」]

- ・とても勉強になりました。次年度以降は現場スタッフにも受講させたい。
- ・たくさんのお話をインプットできるのが良い。そしてアウトプットの難しさを実感。
- ・同じ(近い)志を持った皆様と意見交換できたことが、今回の一番大きな学び・収穫だった。
- ・異業種の方と交流できてよかったです。
- ・現地を体験・感じることができ、より多くの気づきがありました。貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ・毎回異なる話を聞くことができ、よい刺激を受けることができた。

[秋期：B5 復興を生きる ー東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦]

- ・震災の実体験から得られる、貴重な話が聞けて良かったです。気仙沼にまた行きたいです。
- ・気仙沼について、今や昔の多くのことを知ることが出来てより興味湧きました。また気仙沼に行きたいです。
- ・気仙沼に復興についてだけでなく、私の将来についても役に立ちそうな内容でした。また気仙沼に行きたいと思いました。
- ・人の経験を聞ける良い機会だった。
- ・各講師の方のお話は、机上のものだけでなく、実践(現実)を語っていただいていたので、刺激になりました。
- ・とても充実した講師陣でした。贅沢な内容でした。ありがとうございました。
- ・気仙沼市の現状や今後の展望などを学ぶことが出来た。

[秋期：B6 児童文学者・石井桃子の生涯と作品]

- ・半世紀を振り返り、子育て時代をたっぷり懐かしめた。扱われた本を思い出す良い機会になった。絵本への興味が一層強まった。
- ・子供たちとかかわる「声の文化」に改めてその必要性を覚えました。
- ・石井桃子さんの生涯と作品について、基本的な内容から、掘り下げた内容まで、大変わかりやすく勉強になりました。今後、作品を読み解くにあたり、とても手助けになると思います。また先生のおっしゃっていたことに注目して再度読み直す、読み比べるのも楽しそうだなと思いました。
- ・偉大な石井桃子さんを身近に感じたり、より偉大であると感じたり、本当に楽しみな講座

でした。先生おふたりのお人柄が素敵でした。ありがとうございました。

- ・石井桃子氏の作品は知っていても石井さんの生涯を知ることによりその背景を感じながら、さらに作品を楽しむ機会をいただきました。石井さんのことを知らなくても石井さんに親しめる石井さんに触れることが出来ました。ありがとうございました。

[秋期：B7 ドイツ語圏の祝祭と文化]

- ・個人的な思い入れもあり、オーストリアの歴史・文化講座は、とてもよかった。次回も、よろしく。多神教(神々)と一神教(神)の世界は、日本人にとって大変勉強になる。八百万の神々は、有り難い。資料が充実している。
- ・数と土着の宗教の違いなどを学べてよかったです。

[秋期：B8 日本文学文化における「都鄙」]

- ・日本文学・文化・歴史を、一気通貫に確認・学ぶことができた。引き続き、受講したい。
- ・時代別に都鄙の文学の違いが解り良かった。
- ・都会と田舎、遺族と庶民、中古(古代)と江戸の対比がとてもわかりやすくおもしろかったです。文学の流れ、文学の中と現わされる表現の流れもなるほどとわかり、とても良かったです。
- ・庶民文化の発展を印刷技術の導入と街道整備の話を中心にわかりやすく説明していただきました。

[秋期：C1 荷風と鷗外 一文京区立森鷗外記念館連携講座一]

- ・知らないことを知ることは楽しいことであると改めて思いました。ありがとうございました。
- ・話の入り方など新しい感じで特に参考になりました。情報としての知識の多さと深さをこれから見つめようと思います。
- ・どの講座も楽しく聞くことができました。ありがとうございました。
- ・1～5回を通して大変わかりやすく為になりました。こういった講座はぜひ、参加したいと思います。

公開講座分野別受講者数推移

■エクステンション講座 (2015年～2019年)

年度	期	テーマ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師	
2015	春	『源氏物語』全巻を読む-「夕霧巻」前半-～「まめ人」、夕霧の恋、おもしろうて、やがてかなしき～	8 (960)	41	河地 修	
		日本列島-文学文化風土の旅-	6 (720)	32	竹内 清己	
		日本の国際化と多文化共生-増加する外国籍住民といかに共生していくのか-	4 (360)	24	井沢 泰樹	
		特別支援教育のこれから-インクルーシブ教育システム構築への道程-	5 (450)	50	宮崎 英憲、尾崎 祐三、明官 茂 山中 ともえ、岩井 雄一	
		自分史を書く講座	5 (450)	24	矢口 悦子、植野 真澄	
		坂口安吾と現代	5 (450)	52	山崎 甲一、長島 隆、河本 英夫 幸田 国広、三浦 節夫	
		人生を豊かに生きる知恵袋(東洋大学福祉社会システム専攻シリーズI)	5 (450)	108	須田 木綿子、大迫 正晴、若林 浩司、松本 誠一、磯部 幸子 高山 直樹、齊藤 とも子、井上 治代、村上 天悠	
		地方創生への処方箋-市民のための行財政学Ⅲ-	5 (450)	106	沼田 良、八巻 節夫 今村 都南雄	
	秋	日本列島-文学文化風土の旅-	6 (720)	27	竹内 清己	
		『源氏物語』全巻を読む-「夕霧巻」後半-～「まめ人」夕霧の恋の顛末、そして、皇女落葉の宮の運命～	8 (960)	37	河地 修	
		文明の危機とニュー・エコノミクス-「幸福都市」をいかにして築いていくか-	4 (360)	15	八巻 節夫	
		クラシックバレエ鑑賞入門-古典全幕作品を楽しむ-	4 (360)	31	海野 敏	
		ネパール地震の復興支援を考える	5 (450)	17	小林 正夫、木村 万里子、和山 正秀、勝井 裕美、甲斐田 万智子	
		絶望を生き抜く知恵-歴史学・哲学思想・児童文学による現代批判をとおして-	5 (600)	58	中里 巧、山館 順	
		女性の再チャレンジのための講座	4 (360)	10	矢口 悦子、西村 たかこ 内藤 和美	
		ドイツ的なものと日本的なもの-異文化理解を深めるために-	4 (360)	51	斎藤 佑史、フランク・リースナー 大野 寿子、垣本 せつ子	
	2016	春	『源氏物語』全巻を読む-「御法」「幻」- 紫の上の死、哀しみ窮まる光源氏-そして、物語の終焉	8 (960)	40	河地 修
			百人一首を味わう-名歌へのいざない-	6 (540)	27	菊地 義裕
			コーチング講座(ベーシック)	4 (360)	27	室松 慶子
日本の国際化と多文化共生-増加する外国籍民といかに共生していくのか-			4 (360)	13	井沢 泰樹	
東洋思想文化への誘い-東洋思想と民衆文化-			5 (450)	34	山田 利明、川崎 ミチコ 岩井 昌悟、山口 しのぶ	
音楽ビジネスの現状と課題			5 (450)	63	安藤 和宏、原 一博、菅原 隆文 野本 晶	
ヨーガ療法の理論と実践を学ぼう!			5 (450)	13	加藤 千恵子、木村 慧心 菅原 徹、渋谷 英雄	
坂口安吾と現代			6 (540)	13	山崎 甲一、馬渡 憲三郎 小池 陽、高島 純夫 迦部留 チャールズ、河本 英雄	
「社会に生きる」をガクモンする			5 (450)	16	文 貞實、村尾 祐美子、小澤 浩 明、紀 葉子、川口 真理子、藤林 慶子、荻野 剛史	
「海の京都」をめぐる歴史と観光(舞鶴市(京都府)協力、支援事業)			5 (450)	14	釵菱 英明、黒沢 文貴、吉野 健 一、日向 進、須賀 忠芳	
秋		書道実技講座 古典に学ぶ-北宋時代の行書-	5 (675)	14	蓮見 行廣	
		日本の美をめぐる-江戸時代絵画と都市文化の華やき-	2 (180)	48	藤澤 紫	
		個人のライフサイクルを通じた税金との関わり-現在の税金の制度をふまえて、人生のその時々によろしく税金と関わればよいか?-	5 (450)	9	依田 俊伸	

年度	期	テーマ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2016	秋	『源氏物語』全巻を読む-「匂兵部卿」「紅梅」「竹河」、流れゆく時とともに-	8 (960)	36	河地 修
		百人一首を味わう-名歌へのいざない-	6 (540)	32	菊地 義裕
		クラシックバレエ鑑賞入門-20世紀の古典バレエを味わう-	3 (270)	30	海野 敏
		「終活」講座 自分らしい最期をデザインする-基礎編-	2 (180)	23	井上 治代
		音楽著作権ビジネスの基礎知識	4 (360)	48	安藤 和宏
		幸福度と長寿の都道府県格差ランキングを考える-生活環境や暮らし、健康との関係-	2 (180)	18	鈴木 孝弘
		古典に描かれた男女両主人公像-王朝文学と江戸文学を中心に-	5 (450)	19	河地 修、中山 尚夫
		東京2020を考える-東洋大学とオリンピック・パラリンピック-	3 (270)	6	谷釜 尋徳、金子 元彦
		ドイツ的なものと日本的なもの-よりよい異文化理解のために-	4 (360)	16	斎藤 佑史、市田 せつ子 大野 寿子、曾田 長人
		心理学とスポーツ/文学/アートとの融合を学ぼう!	5 (450)	6	加藤 千恵子、渋谷 英雄 マシユーストレッカー、遊佐 雅美
		2017	春	百人一首を味わう-名歌へのいざない-	6 (540)
『源氏物語』全巻を読む-「橋姫」巻、〈宇治十帖〉への招待-	8 (960)			36	河地 修
日本の国際化と多文化共生-増加する外国籍住民といかに共生していくのか-	中止			6	井沢 泰樹
介護する覚悟、介護される覚悟	2 (180)			27	八木 裕子
Google Earth で遺跡をさがす-シルクロード探検隊の報告と現状-	2 (180)			25	西村 陽子
交渉学入門	2 (180)			29	清水 宏
日本の食環境を考える	2 (180)			15	大熊 廣一
坂口安吾と現代	5 (450)			12	山崎 甲一、山田 吉郎、小池 陽、高島 純夫、馬渡 憲三郎
映像と音楽の融合-CM音楽、映画音楽、ゲーム音楽の制作現場-	5 (450)			80	安藤 和宏、戸波 和義 宮地 祐輔、光田 康典
スポーツを楽しもう!	中止			2	加藤 千恵子、浦谷 郁子 渋谷 英雄
アクティブ・ラーニングで福祉社会システムを学ぶ	中止		4	村尾 祐美子 藤林 慶子	
旧海軍鎮守府のまちと日本遺産	3 (270)		39	吉岡 博之、佐藤 明生 櫻井 晃人、須賀 忠芳	
秋	百人一首を味わう-名歌へのいざない-		6 (540)	31	菊地 義裕
	『源氏物語』全巻を読む-「権本」巻、八の宮の死、姫君たちの運命は?-		8 (960)	33	河地 修
	コーチング講座(ベーシック)		4 (360)	14	室松 慶子
	クラシックバレエ鑑賞入門-『くるみ割り人形』再考-		3 (270)	19	海野 敏
	音楽著作権ビジネス講座-契約書編-		4 (360)	68	安藤 和宏
	「終活」講座-子の世話にならずに逝きたい!-		2 (180)	30	井上 治代
	毎日の健康と長寿の決定要因は?		1 (120)	25	鈴木 孝弘
	「モード都市」バリができるまで		1 (120)	9	角田 奈歩
	敦煌文献から見る中国人の死後世界について-『十王経』写本を見てみよう-	2 (180)	11	川崎 ミチコ	
	介護殺人の思想-現代の知的状況・介護の歴史・介護の諸問題とその行方-	5 (600)	7	中里 巧、山館 順	
写本・板本に親しむ-王朝の古典から江戸の戯作まで-	5 (450)	11	河地 修、中山 尚夫		
グローバル化する難民問題-イスラーム教徒の視点から考える-	3 (270)	7	石川 えり、子島 進 クレイシ・ハルーン		
都市と街道を行く-ドイツとスイスをめぐる-	4 (360)	13	山室 信高、斎藤 佑史 曾田 長人、大野 寿子		
森鷗外と慶応3年生生まれの文化人-文京区立森鷗外記念館・東洋大学連携講座-	5 (450)	58	山田 俊治、石田 仁志、岩切 信一郎、出口 智之、神山 彰		

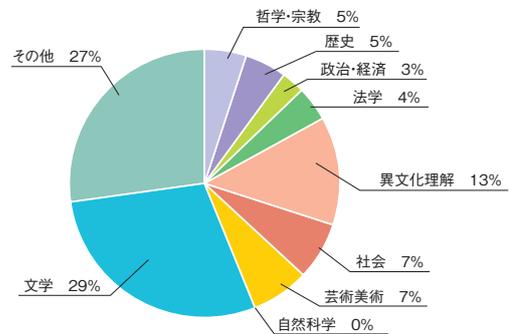
年度	期	テーマ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師	
2018	春	百人一首を味わうー名歌へのいざないー	6 (540)	42	菊地 義裕	
		2020東京オリンピック後の建設経営について	2 (180)	14	鈴木 信行	
		定子後宮と女房たちー『枕草子』の世界を読むー	1 (120)	41	山中 悠希	
		『源氏物語』全巻を読むー「総角」巻(上)、薫と大君ー	8 (960)	30	河地 修	
		交渉学入門(実践編)	2 (180)	11	清水 宏	
		健康維持における免疫の大切さー免疫力を維持するコツー	1 (90)	67	加藤 和則	
		介護保険制度の賢い使い方ー福祉社会システム専攻シリーズⅢー	1 (90)	55	須田 木綿子、斉藤 とも子	
		坂口安吾と現代	5 (450)	17	山崎 甲一、山田 吉郎、小池 陽高 高比良 直美、馬渡 憲三郎	
		ライブビジネスの現状と課題	5 (450)	79	安藤 和宏、遠藤 政伸、石川 篤樋口 寛子	
	海の京都DMOから見る新たな観光	1 (90)	7	今井 伸二、小西 征良 須賀 忠芳		
	秋	人生100歳時代をどう生き抜くーまだまだ成れるなりたい自分ー	1 (90)	33	幸田 浩文	
		『源氏物語』全巻を読むー「総角」巻(中)、匂宮と中の君、そして大君の死ー	8 (960)	25	河地 修	
		万葉集講座ー万葉の歌・生活・文化ー	6 (540)	48	菊地 義裕	
		クラシックバレエ鑑賞入門ーバレエとコンテンポラリーダンスー	2 (180)	26	海野 敏	
		トクホ、機能性表示食品、健康食品の違いと使い分け	1 (90)	27	加藤 和則	
		江戸無血開城の真実を語る	3 (270)	54	岩下 哲典	
		音楽著作権ビジネスの基礎知識	4 (360)	52	安藤 和宏	
		認知症をめぐる最近の話題	1 (120)	42	白石 弘巳	
		激変する朝鮮半島情勢の展望	3 (270)	11	巖 成男、朴 美善、藤本 典嗣	
		75歳からの健康術ー福祉社会システム専攻シリーズⅢー	1 (90)	19	高橋 龍太郎、藤林 慶子	
メディアと社会にむしばまれる子どもや若者ー電子メディアの脅威と学校の再生ー		5 (600)	8	中里 巧、山館 順		
古典文学と旅ー奈良・平安朝・江戸ー	5 (450)	23	河地 修、中山 尚夫			
人生のセカンドステージと大学院進学ー退職後25年間の計は勉学にありー福祉社会システム専攻シリーズⅢー	1 (90)	13	村尾 祐美子、山田 浩			
都市と街道を行くードイツとその周辺をめぐるー	4 (360)	11	山室 信高、田中 雅敏 Frank・Riesner、斎藤 佑史			
森鷗外と歩む近代ー東京150年ー文京区立森鷗外記念館・東洋大学連携講座ー	6 (360)	37	山本 亮介、藤木 直実、石田 仁志、文京区立森鷗外記念館学芸員			
2019	春	詩を楽しむ	1 (180)	16	近藤 裕子	
		『源氏物語』全巻を読むー「総角」・「早蕨」・「宿木」ー ~大い君の死後、尽きせぬ悲しみの中の君、二条院へ~	8 (960)	25	河地 修	
		万葉集講座ー万葉の歌・生活・文化ー	6 (540)	58	菊地 義裕	
		「般若心経の世界」	3 (270)	41	渡辺 章悟	
		「幕末維新の古文書」を読む	3 (270)	33	岩下 哲典	
		「思いやりを科学する」	1 (120)	48	浅間 正通	
		論語から社会人力を考える	2 (180)	14	吉田 善一	
		世界中の中のオリンピック	3 (270)	6	高島 純夫、村田 奈々子 曾田 長人	
		(福祉社会システム専攻シリーズⅣ) 環境問題・エコライフ・持続可能社会ー江東区元気高齢者による社会活動の事例	1 (90)	10	松本 誠一、中瀬 勝義	
		アーティストをサポートをするプロフェッショナルたち	5 (450)	56	安藤 和宏、香山 真吾 松本 大輔、三野 善之	
		明智光秀の時代と丹後地方~ NHK大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にして~	3 (270)	51	神村 和輝、佐々木 倫朗 吉野 健一	
		秋	一向一揆と民衆	1 (90)	28	神田 千里

年度	期	テーマ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2019	秋	東南アジア美術の旅－インドネシア、ジャワ島・バリ島の宗教美術を中心に－	4 (360)	9	山口 しのぶ
		万葉集講座－万葉の歌・生活・文化－	6 (540)	44	菊地 義裕
		高齢社会における医療制度の現状を生活者の視点から理解する	1 (90)	18	堀田 真理
		書道実技講座	5 (600)	15	蓮見 行廣
		『源氏物語』全巻を読む－「宿木」～二条院の中の君、匂宮の婚儀と薫の未練に苦悩する～	8 (960)	25	河地 修
		思いやりを科学するⅡ	1 (120)	31	浅間 正通
		世界史の中のオリンピックⅡ	中止	2	
		生と死の哲学－S. キルケゴールの実存思想の系譜と展望－	4 (600)	12	中里 巧、山館 順
		(福祉社会システム専攻シリーズV) これからの時代のキャリア・デザイン	1 (90)	18	榊原 圭子、鈴木 亮平、池田 大樹
		観光庁との連携による地域の観光産業を担う中核人材育成講座ビジネスリーダーを目指す女性のための「最新・観光学講座」	5 (450)	19	森下 晶美、徳江 順一郎、真柄 徹、鎌田 直美、岡泉 幹雄
		復興を生きる－東日本大震災から8年、宮城県気仙沼の人びとの挑戦	4 (240)	19	鈴木 敦雄/垣下 美紀、三浦 友幸、畠山 信、加藤 拓馬/成宮 崇史
		児童文学者・石井桃子の生涯と作品	3 (270)	18	竹内 美紀、尾崎 真理子
		ドイツ語圏の祝祭と文化	4 (360)	8	山室 信高、FrankRiesner 田中 雅敏、大野 寿子
		日本文学文化における「都鄙」	3 (270)	16	河地 修、中山 尚夫
荷風と鷗外－文京区立森鷗外記念館連携講座－	5 (450)	36	嶋田 直哉、池澤 一郎、持田 叙子、石田 仁志、真銅 正宏		

エクステンション講座
申込者数の推移 (過去5年間)



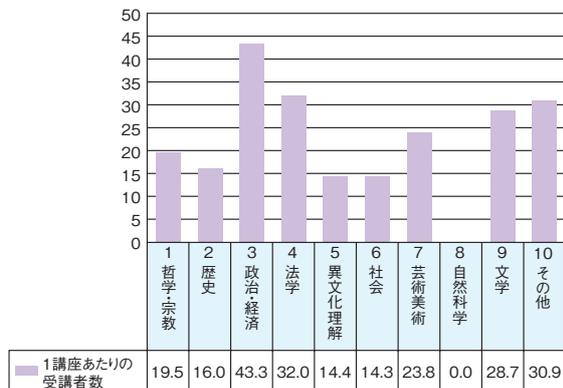
エクステンション講座
開講講座数 (過去5年間)



受講者総数 (過去5年間)



1講座あたりの受講者数 (過去5年間)



■オープン講座 (2015年～2019年)

年度	期	会場	テ マ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2015	春	白山	ロンドンのダンスおよびパフォーマンスアートの最新事情—長期海外研究報告—	1 (120)	102	海野 敏
		白山	公共施設マネジメントから考える都市の未来—東洋大学「ソーシャルデザイン・プロジェクト」の取り組み—	1 (120)	268	工藤 和美、根本 祐二 藤村 龍至
		朝霞	これならわかる！介護保険制度！—「2025年問題」への備え—	1 (90)	189	高野 龍昭
		川越	数学の魅力—趣味の数学のスヌー—	1 (90)	182	山崎 丈明
		板倉	『源氏物語』 「宇治十帖」への招待—紫式部は、なぜ「宇治」を選んだのか—	1 (120)	118	河地 修
	秋	白山	作品と作家の心理を探る	1 (90)	117	加藤 千恵子 マシュー・ストレッカー
		白山	高齢者を取り巻く諸問題—犯罪心理学から見た加害・被害・防犯—	1 (120)	120	桐生 正幸
		白山	東京2020を考える—オリンピック・パラリンピック講座—	6 (560)	87	平井 伯昌、土江 寛裕 谷釜 尋徳、金子 元彦 西村 忍
		朝霞	子育て中のお出かけ環境—家族みんなで楽しめるところってどんなところ？—	1 (90)	40	仲 綾子
		川越	高齢者から子供までの山登り講座 中級編—必要な知識を身につけスポーツ登山を楽しもう！—	4 (720)	45	小河 繁彦、佐々木 亨
		板倉	シニア世代の健康体力作り講座	2 (240)	37	佐藤 征二
		2016	春	白山	学校教育における合理的配慮の提供について—障害を理由とする差別の解消の推進に向けて—	5 (450)
朝霞	2020年の東京大会開催に向けて—オリンピック・パラリンピックムーブメント—			1 (90)	52	松尾 順一、金子 元彦
川越	これからの電力供給システムの姿			1 (90)	58	福井 伸太
板倉	“減び”の視点から読む『源氏物語』 —「紫の上の生涯」を考える—			1 (20)	91	河地 修
秋	白山		シリア・南スーダン・ロヒンギャ、そして日本—グローバル化する難民問題を考える—	5 (450)	80	難民支援協会、渡邊 彰 悟、ワールド・ビジョン・ジャ パン、セーブ・ザ・チルドレン
	白山		〈社会貢献(NPO/NGO、企業の社会貢献等)〉という視点を通して、社会との関係を考える	5 (450)	27	林 大介、文化シャッター 株式会社、株式会社シー ド、文京区ボランティア・ 市民活動センター「ファミ コム」、b-lab 文京区青少年 プラザ
	朝霞		子ども・若者の自己肯定感を育む関わり方	1 (90)	58	内田 塔子
	川越		都市の環境を考える	5 (600)	49	村野 昭人、山崎 宏史 石田 哲郎、小瀬 博之
	板倉		シニア世代の健康体力づくり講座	2 (240)	52	佐藤 征夫
	2017		春	白山	「子どもの貧困」はなぜなくなるのか—当事者と考える—	2 (80)
白山		「NPO/NGO、CSR」という視点を通して考える社会貢献のあり方		3 (360)	54	林 大介
朝霞		電線・電柱は、何故、埋めたくなるのか—電線派配電作法—		1 (90)	80	内田 祥士
川越		住宅過剰社会の行方—人口減少・空家急増でもつくり続ける日本—		1 (90)	58	野澤 千絵
板倉		『源氏物語』を読む子を思う親の愛情～人の親の心は闇にあらねども～		1 (90)	100	河地 修
秋		白山	アクティブな地球人になる	3 (270)	77	小池 アニータ 江藤 双恵、佐藤 郁
		白山	子どもの貧困の解決策を支援者と探る	1 (90)	121	森田 明美、西野 博之 細野 直人
		朝霞	援助場面から学ぶコミュニケーション技法	1 (90)	84	稲沢 公一
		板倉	シニア世代の健康体力づくり講座	2 (240)	17	佐藤 征夫

年度	期	会場	テ マ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2018	春	白山	介護する覚悟—映画「ケアニン～あなたでよかった～」から考える仕事と親の介護の両立のために—	3 (180)	158	八木 裕子
		白山	小学校外国語活動指導のためのポイント講座	1 (120)	16	伊藤 撰子
		朝霞	活性酸素から考える健康のための運動と栄養	1 (90)	120	古川 覚
		川越	雷—安心、安全な生活のために雷を理解しよう—	1 (90)	104	加藤 正平
		板倉	鴨長明と『方丈記』—今、鴨長明の生き方に学ぶ—	1 (120)	114	河地 修
	秋	白山	働き方改革の現状と課題—なぜ働き方を変えなければならないのか—	1 (90)	113	久米 功一
		朝霞	分かっていますか？「怒ると」「叱る」の違い	1 (90)	100	鈴木 崇之
2019	春	朝霞	アイデア創出の仕組み—アタマを活性化するテクニック—	1 (90)	64	柏樹 良
		川越	コミュニティデザインとまちづくり—みんなの思いをカタチに—	1 (90)	81	二宮 仁志
		板倉	読み継ごう、日本の名作古典『源氏物語』の名場面を原文で読み、楽しむ—「若紫」巻—	1 (120)	70	河地 修
	秋	白山	～国連子どもの権利条約採択30周年～世界中の子どもたちの人権が守られるために—国連子どもの権利委員会の活動と挑戦—	1 (90)	439	大谷 美紀子
		白山	企業が取り組む社会貢献・CSR ～具体的事例編	3 (270)	20	宮本 育昌、河原 正明 兵頭 康二、吉田 克弥 石井 博司、深谷 友美子
		白山	企業が取り組む社会貢献・CSR ～社会的トレンド編	3 (270)	30	伊藤 佐和、藤井 綾美 中島 秀豊
		白山	私たちが暮らす町はどう変わる？～グローバル化時代の地域づくりと財政	1 (90)	60	沼尾 波子
		朝霞	人生の喪失を乗り越えるヒントを考える～リカバリーとレジリエンス～	中止		吉田 光爾
	板倉	シニア世代の健康体力づくり講座	1 (120)	32	佐藤 征夫	

オープン講座 申込者数の推移（過去5年間）



■文化公演（2015年～2019年）

年度	期	会場	テ マ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師・公演者
2015	春	白山	片山九郎右衛門師 —能の世界—	1 (120)	517	十世片山九郎右衛門 原田 香織
2016	春		日本の話芸-落語	1 (120)	594	林家 時蔵、中山 尚夫
2017	春		絵解きの世界—物語と絵と語りの出会い—	1 (120)	458	小林 玲子、竹澤 環江 久野 俊彦、中山 尚夫
2018	春		津村禮次郎・能の新たな挑戦 —古典芸能と現代—	1 (120)	499	津村 禮次郎、塩高 和之 久保 順
2019	春		アンサンブル・トランスアトランティコ・ デ・フォークチレーノ演奏会	1 (90)	270	アンサンブル・トランスアト ランティコ・デ・フォークチ レーノ

文化公演 申込者数の推移（過去5年間）



■文京アカデミア（大学キャンパス）講座（2014年～2019年）

年度	期	テ ー マ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2014	秋	多文化共生と日本社会	4 (360)	24	井沢 泰樹
2015	秋	『百人一首』を読む－日本の心・日本の文化－	4 (360)	68	菊地 義裕
		外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	8 (960)	20	伊藤 摂子
2016	春	日本列島文学文化風土の旅	5 (450)	55	竹内 清己
	秋	日本列島文学文化風土の旅	5 (450)	76	竹内 清己
		外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	8 (560)	20	伊藤 摂子
2017	春	日本人と妖怪-井上円了などにみる、金・現代の心の変容-	3 (270)	38	三浦 節夫
	秋	外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	8 (720)	20	伊藤 摂子
2018	春	暦・干支に見る中国文化－“孟春” “仲秋” とは何ですか－	3 (270)	73	川崎 ミチ子
	秋	外国人おもてなし英会話講座・東洋大学	8 (720)	20	伊藤 摂子
2019	春	江戸、城と町の歴史	3 (270)	115	大野 瑞男
	秋	異文化としてのドイツ	5 (450)	55	田中 雅敏

文京アカデミア講座 申込者数の推移（過去5年間）



■仏教入門東洋大学学長土曜講座（2017年～2019年）

年度	期	会場	テ ー マ	回数 (総時間/分)	申込者数	講師
2017	通年	白山	「仏教入門」～日本人の心に脈々と生きる仏教とは何か～	5 (450)	416	竹村 牧男
2018			「仏教入門」～空海『秘蔵宝鑰』に沿って～	5 (450)	545	竹村 牧男
2019			東洋大学の創立者・井上円了の哲学・思想	5 (400)	334	竹村 牧男

仏教入門 申込者数の推移（過去3年分）





エクステンション講座 A

般若心経の世界

日 時：2019年5月25日(土)～6月8日(土) 17:00～18:30 (90分)

講 師：渡辺 章悟(文学部教授)

受講者数：41名

[受講者の感想]

- ・ 面白い講座でした。なかなか難しいですが、大まかながら理解できた気がします。
- ・ 字の読めない人に対しても各種のお経を広く布教する努力が、山深い南部で行われていたのには驚きました。厳しい状況を生きる人にとって心の救いになったことでしょう。
- ・ 般若心経を「空」の教理のみならず神呪としての観点からお話いただき、非常に理解を深めることができました。
- ・ 未知の世界をご紹介いただき、興味深く拝聴しました。

[講演会の様子]





エクステンション講座B

〔福祉社会システム専攻シリーズV〕

これからの時代のキャリア・デザイン

日 時：2019年10月19日(土) 13:00~14:30 (90分)

講 師：榊原 圭子 (社会学部准教授)

鈴木 亮平 (株式会社プラスロボ 代表取締役 CEO (本学卒業生))

池田 大樹 (株式会社プラスロボ 取締役 COO (本学卒業生))

受講者数：18名

〔受講者の感想〕

- ・ 情報や考え方の講義形式だけでなく、実際に学生側に立った疑問や不安点などを質疑応答の形でお話できる機会を設けていただいたので、とてもインプット、アウトプットともに大切な時間になりました。ありがとうございました。
- ・ 大学1年生なのですが、大学3年生の先輩がインターンをされていて、企業とかの興味が出てきたので参加しました。大学1年生だから、「お金がなくて」や、「時間がなくて、」ではなくやりたいことはすぐやることを心がけようと思いました。
- ・ 今後のキャリアをどうデザインしていくか、考えていく上での基準となるような貴重なお話を聞くことができ、自分の人生を構築するヒントになったように思います。“自分の人生を自分でデザインしている”お2人だなと感じました。悩みながら進んでいくことへの不安はありますが、勇気をもって進んでいきたいなと改めて思いました。

〔講演会の様子〕





井上円了没後100周年記念講座

追っかけ井上円了—

哲学堂公園と井上円了記念博物館をめぐるスタディ・ツアー

日 時：2019年10月26日(土)・11月 2日(土) 13:00~14:30 (90分)

講 師：三浦 節夫

(ライフデザイン学部教授、井上円了研究センター研究員)

北田 建二(井上円了記念博物館学芸員)

中野区立哲学堂公園事務所職員

受講者数：36名(抽選)

[受講者の感想]

- ・ 円了先生の業績だけでなく、「哲学とは」を考えさせていただけて参加できて大変良かったと思います。
- ・ わかりやすく、雰囲気も良く(受講生との対会あり)、楽しかった。

[講演会の様子]



10月26日 スライドトークの様子



10月26日 ギャラリートークの様子



11月 2日 哲学堂公園ガイドツアーの様子





朝霞オープン講座

アイデア創出の仕組み (アタマを活性化するテクニック)

日 時：5月25日(土) 11:00～12:30 (90分)

講 師：柏樹 良(ライフデザイン学部准教授)

受講者数：64名

[受講者の感想]

- ・ アイデアを出すテクニックは意外とシンプルな事があると感じました。仕事や普通の生活でも役立つ事が出来る良い話を聞かせて頂きました。
- ・ 優しく例を出して話して下さったので方法が少しわかりました。アイデア創出はまさに高齢者の物忘れの予防になり役立つと思いました。日々アイデアの創出に努めたい!!とても楽しい講座でした。手仕事が好きで、上手に出来ない時は夢の中でこうすればとアイデアが湧いてきます、今の生き方で良いと分かりました。

[講演会の様子]





川越オープン講座

コミュニティデザインとまちづくり —みんなの思いをカタチに—

日 時：2019年5月11日(土) 13:30~15:00 (90分)

講 師：二宮 仁志(理工学部准教授)

受講者数：59名

[受講者の感想]

- ・まちづくりに何かできないかと思っていたが、本講座を聴講し、まずは身近にある活動に参加することから始めることにしようと思った。
- ・高齢化、人口減少社会のこれからを、わかりやすく教授いただいた。新しいモノを作るのではなく、今あるものを活かして、人と人、モノを繋げる手法は大変参考になった。
- ・自分が住んでいるマンション、及び地域(町内会)でも応用できそうだと感じた。

[講演会の様子]





板倉キャンパスオープン講座

読み継ごう、日本の名作古典『源氏物語』の 名場面を原文で読み、楽しむ —「若紫」巻—

日 時：2019年6月8日(土) 10:00~12:00 (120分)

講 師：河地 修(名誉教授)

受講者数：58名

[受講者の感想]

- ・ 毎回とてもたのしみにしています。今回の講座も大変楽しくとても勉強になりました。河地先生に感謝感謝です。
- ・ 毎回河地先生のお話は大変興味深くひき込まれました。
- ・ 今回の若菜はかつて学生の頃授業で習っていましたが、新鮮でより深く知ることができ大変興味深く集中して学ぶことができました。

[講演会の様子]





白山オープン講座

～国連子どもの権利条約採択 30 周年～

世界中の子どもたちの人権が守られるために

－国連子どもの権利委員会の活動と挑戦－

日 時：2019年10月30日(水) 14：45～16：15 (90分)

講 師：大谷 美紀子(弁護士、国連子どもの権利委員)

受講者数：439名

[受講者の感想]

- ・ 世界の半分の子どもが暴力を受けているなんて知らなかったので、お話を聞いた時はとても驚きました。こういうことをする人は子どもを人間だなんて思っていないのだろうと感じました。より子どもの権利条約の必要性、子どもの権利を知ってもらうことの重要性を感じました。
- ・ 今、日本で生まれてほとんど不自由なくここまで成長できていますが、世界にはたくさんの子ども達が子どもらしく地涌に雨域られていないことを知り、子どものために、何か少しずつでもできることがあればしていきたいと思いました。
- ・ 子どもの権利条約がそういうものなのか、とてもわかりやすかった。30年たって変化したことについてが興味深く、これからきちんと考えてしていかなければいけないと思った。常に変化していく中で、どのように考え、対策していくべきなのか。1人1人自覚することが大切だと思った。

[講演会の様子]



講師派遣

2019年度「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告

1. 講師派遣要項

(1) 名称「東洋大学の講義を全国各地にお届けします—講師派遣」とし、本年度は3つのプログラムを提供した。

①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』)
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会・生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および幼・保・小・中・高等学校の教職員・PTA等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣。 ・高等学校の授業(『総合的な学習の時間』等)・講演に依頼があった場合、講師を派遣。対象は高等学校の生徒。
②研修支援プログラム(以下『研修』)
<ul style="list-style-type: none"> ・企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣。
③オリンピック・パラリンピック学習支援講座(以下『オリ・パラ』)
<ul style="list-style-type: none"> ・関東近郊の小・中・高等学校、特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育を推進するため、本学の講師を派遣。

【派遣期間等】

派遣期間	2019年5月20日(月)～12月16日(月)
申込期間	2019年4月1日(月)～10月16日(水)
申込締切	開催希望日の2ヶ月前までとし、原則として、①は年間1団体につき1回派遣。但し9月および10月開催分は、7月12日(金)締切。
講師派遣予定件数	160件
派遣上限	本学専任教員並びに本学名誉教授で、1教員の派遣数は原則3回まで

2. 実施経過(概略)

- (1) 2018年10月17日：専任教員全員に対して、当事業への協力要請。現役の教育者・研究者として活躍されている名誉教授にも協力依頼。
- (2) 2018年11月30日：テーマ募集提出締切
- (3) 2019年1月～3月：テーマ集約・分類・HPアップ準備(事務局作業)
- (4) 2019年4月1日：ホームページ等にて受付開始
- (5) パンフレット送付件数

1	教育委員会	1,805
2	前年度派遣実績のない都道府県(15県)	18
3	大学施設関連地域の団体	3
4	過去数年間に派遣した団体	462
5	過去2年間の「研修」実施団体	17
6	維持会	101
7	就職懇親会参加企業	131
計		2,537

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：222名(含む名誉教授・元教授24名)

種別	生涯	研修	オリ・パラ	合計
募集時 テーマ数	228	34	31	571
	278 (共通テーマ)			
実施件数	82	2	11	95
受講者計	4,895	66	1,704	6,605
受講者 数	平均	60	33	155
	最大	365	46	430
	最小	18	20	20

(1) 地域別派遣実施件数

地 域	生涯学習				研修				オリ・パラ				計			
	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%	件数	%	昨年	%	件数	%	件数	%
北海道・東北	15	18%	21	19%	0	0%	2	0%	0	0%	0	0%	15	16%	23	18%
関 東	41	50%	50	45%	2	100%	6	0%	10	91%	7	83%	53	56%	63	50%
中 部	9	11%	17	15%	0	0%	1	0%	1	9%	1	13%	10	11%	19	15%
近 畿	6	7%	9	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	6	6%	9	7%
中 国	4	5%	4	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	4%	4	3%
四 国	0	0%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	2%
九州・沖縄	7	9%	6	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	7	7%	6	5%
合 計	82	100%	110	100%	2	100%	9	0%	11	100%	8	100%	95	100%	127	100%

※中止4件(生涯学習3件、オリ・パラ1件)は除く

(2) 実施した個別テーマ 別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。()内は派遣実人数。

年度	2019	2018	増減
専任教員	74件 (44名)	102件 (65名)	▲28件 (▲21名)
名誉教授	18件 (10名)	20件 (11名)	▲2件 (▲1名)
客員教授	0件 (0名)	0件 (0名)	—
元教授	3件 (2名)	5件 (2名)	▲2件 (—)
計	95件 (56名)	127件 (78名)	▲32件 (▲22名)

(4) 申込者(団体) のリピーターの割合

昨年度も実施した団体は22団体で、全体の23%に当たる。

4. 次年度に向けて

2019年度の申し込み件数は99件であったが、4件が中止となり、実施は95件となった。次年度は、生涯130件、研修支援10件の合計140件の派遣を目標とする。

今年度は学祖である井上円了の没後100周年であることを踏まえ、「受講者様へのメッセージ」

と題し本事業の趣旨をまとめた資料を受講者へ配布することを徹底した。その結果、本学で用意した受講者アンケートには、井上円了や本学の取り組みについて理解を示すコメントも数多く見られ、なかには「井上円了の理念を体現している素晴らしい事業」などの好意的な声も寄せられた。また、以前にも本事業を「受講したことがある」と受講者アンケートで回答したグループは、「受講したことがない」と回答したグループに比べ「東洋大学」及び「東洋大学講師派遣」を「よく知っていた」と回答した割合がそれぞれ高く、前年度までの、講師による事業説明、メッセージ配布、主催団体による周知活動が実を結んだと思われる。

次年度は「受講者様へのメッセージ」を引き続き配布し、併せて「井上円了が志したものとは」の作品募集チラシも配布することで、学祖と本学の理念への理解を深める材料を用意し、全国に本学の様々な魅力を伝えていきたい。

2019年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧

〈生涯学習支援〉

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2019年6月14日	群馬県	安中市教育委員会	安中市生涯学習推進協議会	健康なマチのつくりかた	齊藤 恭平	ライフデザイン学部	33
2	2019年6月22日	北海道	紋別市教育委員会	特別展「哲学者～井上円了の世界～」講演会	明治の先駆者・井上円了	三浦 節夫	ライフデザイン学部	51
3	2019年7月5日	北海道	厚沢部町教育委員会	厚沢部町文化講演会 兼 高齢者学級講座	介護する覚悟、介護される覚悟	八木 裕子	ライフデザイン学部	74
4	2019年7月7日	愛知県	稲沢市図書館（稲沢市立中央図書館）	図書館特別講演会	子どもと読書	竹内 美紀	文学部	50
5	2019年7月12日	新潟県	新潟市生涯学習センター	生涯学習相談ボランティア	100年人生時代のキャリアの創り方	小島 貴子	理工学部	73
6	2019年7月16日	宮城県	白石市教育委員会	白石市民大学	折り紙や切り紙で幾何学を楽しもう	吉野 隆	理工学部	32
7	2019年7月26日	京都府	宇治田原町教育委員会	ことぶき大学	書いた文字で運動機能が測れる!?	川口 英夫	生命科学部	142
8	2019年7月28日	埼玉県	杉戸町教育委員会	すぎと町民大学公開講座	食と健康－頭で食べて、より健康に－	林 清	食環境科学部	25
9	2019年7月28日	岡山県	新見市立中央図書館	図書館行事 まなびの森の学校（仮称）	AI時代をどう生きるか？	吉田 善一	理工学部	36
10	2019年7月31日	埼玉県	川越市教育委員会	2019年度 進路指導・キャリア教育研修会	「キャリア教育」再考	谷口 明子	文学部	53
11	2019年8月8日	愛知県	西尾市生涯学習課	西尾市オープンカレッジ講演会	たかがアニメの教育学－サザエさん、ちびまるこちゃん、クレヨンしんちゃん－	藤本 典裕	文学部	42
12	2019年8月17日	埼玉県	日高市教育委員会	第29回 大学公開講座「日高ライブラリー」	外国人観光客誘致と身体障害者補助犬のいい関係	島川 崇	国際観光学部	62
13	2019年8月20日	奈良県	上牧町教育委員会	婦人（さゆり）学級	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	51
14	2019年8月27日	北海道	釧路町教育委員会 釧路町教育部釧路町公民館	釧路町釧路高齢者大学4回集合学習会	薬とトクホ・機能性表示食品の違い	加藤 和則	理工学部	140
15	2019年8月28日	群馬県	みどり市役所 教育部社会教育課 笠懸公民館	第24回 みどり市笠懸地域高齢者大学	中高齢者の健康・体づくり、理論・実技	佐藤 征夫	名誉教授	140
16	2019年8月29日	埼玉県	新座市西堀・新堀コミュニティセンター	新座市西堀・新堀コミュニティセンター主催事業「歴史講座」	江戸幕府の旗本たち	白川部達夫	文学部	37
17	2019年8月31日	埼玉県	新座市立野火止公民館	公民館主催 市民文学講座	日本近代文学に見られる妖怪－宮沢賢治作品や『遠野物語』から読み解く－	高橋 直美	ライフデザイン学部	34
18	2019年9月3日	東京都	東大和市立中央公民館	市民企画講座 第8回「シニアクラスで学ぶ！楽しむ！」	記憶と忘却のメカニズム	児島 伸彦	生命科学部	66
19	2019年9月8日	大分県	NPO 法人これからの葬送を考える会九州	終活公開講座 最期まで自分らしく	輝いて生きるための「終活」講座－自分らしい葬送と生前準備－	井上 治代	元ライフデザイン学部	44
20	2019年9月11日	岡山県	備前市役所	研修講演会	今日からあなたもヘルプマン！－カイゴのゴカイ－	八木 裕子	ライフデザイン学部	57
21	2019年9月13日	岐阜県	大垣市	大垣市かがやき市民講座	オリンピックの歴史	谷釜 尋徳	法学部	42

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
22	2019年9月14日	岩手県	洋野町教育委員会	令和元年度ひろの町民大学	たかがアニメの教育学ーサザエさん、ちびまるこちゃん、クレヨンしんちゃんー	藤本 典裕	文学部	40
23	2019年9月15日	福岡県	糸島市立福吉公民館	福吉公民館主催講座・はつらつシニア講座	毎日の健康と長寿の決定要因は？	鈴木 孝弘	経済学部	43
24	2019年9月17日	宮城県	大崎市教育委員会中央公民館	東京オリ・パラ直前！オリンピック・パラリンピックを知ろう！	パラリンピックとは	加藤千恵子	総合情報学部	28
25	2019年9月18日	長野県	飯山養護学校	スキルアップ研修会(職員研修会)	ムーブメント教育・療法による子どもの発達支援	是枝喜代治	ライフデザイン学部	46
26	2019年9月18日	千葉県	長南町教育委員会生涯学習課	長南町高齢者教室	食と健康	近藤 和雄	食環境科学部	43
27	2019年9月19日	岩手県	一戸町教育委員会小鳥谷地区公民館	いちのへ町民セミナー 福祉・生活コース	生活習慣病と運動	小河 繁彦	理工学部	27
28	2019年9月19日	広島県	福山市役所北部支所 北部生涯学習センター	地域の子ども応援団！子育てサポーター養成講座	あそぶ！ー“あそび”の中で“運動”をするー	嶋崎 博嗣	ライフデザイン学部	37
29	2019年9月20日	宮崎県	串間市教育委員会生涯学習課	くしま市民講座	毎日の健康と長寿の決定要因は？	鈴木 孝弘	経済学部	79
30	2019年9月22日	埼玉県	伊奈町立図書館	文化・教養講座	狂言の笑いと禅	原田 香織	文学部	28
31	2019年9月27日	東京都	公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団	公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団	くらしの哲学	三浦 節夫	ライフデザイン学部	30
32	2019年9月28日	大阪府	八尾市立八尾図書館	八尾市立八尾図書館	運動効果を得るために知っておきたい身体の仕組みと運動を続けるためのコツ	小河 繁彦	理工学部	37
33	2019年9月29日	埼玉県	こしがや市民活動連合会	こしがや市民活動連合会 学術研修会	『縮豊』社会ー人口減少時代に豊かさを求めてー	八巻 節夫	名誉教授	32
34	2019年10月1日	山口県	岩国市中央公民館	家庭教育学級子育て不安お助け講座	現代社会における親と子	西野 理子	社会学部	46
35	2019年10月3日	秋田県	秋田県精神保健福祉会連合会	秋田県精神保健福祉会連合会	身体は誰のものかー生命と人権ー	吉田 公平	名誉教授	90
36	2019年10月3日	埼玉県	和光市役所 教育委員会 生涯学習課	和光市民大学(特別講座)	井上円了の妖怪学	三浦 節夫	ライフデザイン学部	55
37	2019年10月4日	北海道	帯広市教育委員会	帯広市民大学講座	外国人観光客誘致と身体障害者補助犬のいい関係	島川 崇	国際観光学部	23
38	2019年10月17日	千葉県	鎌ヶ谷市東部学習センター	東部市民セミナー	オリンピックってなに？	谷釜 尋徳	法学部	37
39	2019年10月17日	東京都	板橋区役所 健康生きがい部 長寿社会推進課	平成31年度 区民参画による公開講座	日本の古典を楽しむー『源氏物語』はおもしろい！ー	河地 修	名誉教授	147
40	2019年10月23日	東京都	町田市生涯学習センター	家庭教育支援乳幼児講座	たかがアニメの教育学ーサザエさん、ちびまるこちゃん、クレヨンしんちゃんー	藤本 典裕	文学部	37
41	2019年10月23日	宮城県	気仙沼市立鹿折公民館	気仙沼市立鹿折公民館	人生の価値と幸福	八巻 節夫	名誉教授	50
42	2019年10月24日	埼玉県	戸田市生涯学習課下戸田公民館	宝珠大学	江戸庶民の旅と歩行	谷釜 尋徳	法学部	28
43	2019年10月26日	東京都	練馬区立 はつらつセンター大泉	はつらつセンター大泉 生涯学習講座	毎日の健康と長寿の決定要因は？	鈴木 孝弘	経済学部	20
44	2019年10月26日	長野県	軽井沢町教育委員会	堀辰雄文学記念館	信濃路にみるく恋ー愛>のメモリー 堀辰雄/看取りの結婚者	竹内 清己	名誉教授	31

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
45	2019年11月2日	埼玉県	上尾市立大谷公民館	未定	日本の古典を楽しむ	高橋 直美	ライフデザイン学部	37
46	2019年11月3日	山形県	尾花沢市民文化祭実行委員会	尾花沢市民文化祭 文化講演会	日本の古典を楽しむー『源氏物語』はおもしろい！ー	河地 修	名誉教授	53
47	2019年11月6日	青森県	青森県立八戸高等支援学校	青森県立八戸高等支援学校	学習指導要領改訂と特別支援教育の課題	宮崎 英憲	名誉教授	75
48	2019年11月6日	埼玉県	熊谷市立成田小学校	「新しい時代に生きる資質・能力」育成事業研究発表会	これから求められる資質・能力と学習活動とはー新学習指導要領とこれからの学びー	後藤 顕一	食環境科学部	116
49	2019年11月7日	千葉県	八千代市立八千代台公民館	八千代台公民館主催講座	笑いとユーモアを科学するー笑い情報学入門ー	上條 賢一	名誉教授	30
50	2019年11月7日	北海道	新十津川町ふるさと学園大学	ふるさと学園大学	生きる事は学ぶこと	吉田 公平	名誉教授	86
51	2019年11月8日	千葉県	船橋市丸山公民館	丸山公民館 東京オリンピック今昔物語	近代オリンピックのはじまり	村田奈々子	文学部	46
52	2019年11月9日	東京都	練馬区立男女共同参画センター指定管理者 NPO 法人練馬区障害者福祉推進機構	女性差別撤廃条約と日本	女性差別撤廃条約と日本	今井 雅子	法学部	37
53	2019年11月9日	千葉県	鴨川市教育委員会	鴨川市教育委員会	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	52
54	2019年11月13日	長崎県	長崎県立波佐見高等学校	鴻ノ巣塾・心に響く人生の達人セミナー	地域を開く未来世代へのメッセージー30年後の世界を展望しよう！！ー	青木 辰司	名誉教授	365
55	2019年11月13日	大阪府	松原市	60歳からの“ゆったり・これから倶楽部”	人はなぜお金を欲しがるか	阿部 照男	名誉教授	55
56	2019年11月15日	埼玉県	春日部市庄和地区市民大学	春日部市庄和地区市民大学	新聞を読もう	水野 剛也	社会学部	58
57	2019年11月18日	栃木県	(株) パソナ・宇都宮 栃木ジョブ・カードセンター	ジョブ・カード普及セミナー	100年人生時代のキャリアの創り方	小島 貴子	理工学部	18
58	2019年11月19日	埼玉県	草加市立新田西文化センター	SKT24 高年者のびのびサロン	書いた文字で運動機能が測れる！？	川口 英夫	生命科学部	56
59	2019年11月21日	埼玉県	三郷市小中学校長会	三郷市小中学校長校研究協議会	これから求められる資質・能力と学習活動とはー新学習指導要領とこれからの学びー	後藤 顕一	食環境科学部	47
60	2019年11月22日	岩手県	花巻市シニア大学創立50周年記念事業実行委員会	花巻市シニア大学創立50周年記念事業実行委員会	生きる事は学ぶこと	吉田 公平	名誉教授	250
61	2019年11月24日	大阪府	箕面市桜ヶ丘人権文化センター及び桜ヶ丘老人いこいの家 指定管理者 リリーフ・みのお	ヒューマンズプラザ「人権・文化講座」	日本の領土問題はなぜ解決できないのかー国際法学の視点からー	齋藤 洋	法学部	47
62	2019年11月25日	長崎県	NPO 法人ジャカランダ振興会・一般社団法人小浜ストリート	雲仙市生涯学習講座	旅館の昔と今ー変化への対応による明暗ー	徳江順一郎	国際観光学部	48
63	2019年11月28日	埼玉県	指定管理者 NeCST 構成企業株式会社コングレ	特別講演会 第三弾	日本の建築と西洋の建築	篠崎 正彦	理工学部	39
64	2019年11月28日	埼玉県	坂戸市立若宮中学校	坂戸市立若宮中学校 学校保健委員会	子育て世代の親が知っておきたい食の安全について考える	大熊 廣一	元食環境科学部	39
65	2019年11月28日	沖縄県	沖縄県立特別支援学校長会	沖縄県特別支援教育講演会	学習指導要領改訂と特別支援教育の課題	宮崎 英憲	名誉教授	190

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
66	2019年11月29日	茨城県	日立市消費生活センター	日立市消費生活サポーター養成講座	インターネット社会と法	芦野 訓和	法学部学部	18
67	2019年11月29日	愛知県	愛知県立名古屋聾学校	第4回全校研修会「人権に関する研修」	障がいのある人たちへの虐待防止と人権擁護	是枝喜代治	ライフデザイン学部	56
68	2019年11月30日	千葉県	習志野市大久保公民館	習志野市大久保公民館主催「歴史探訪講座」	江戸の町と隅田川	大野 瑞男	名誉教授	38
69	2019年12月1日	埼玉県	宮代町立図書館(指定管理者図書館流通センター)	図書館で学ぼう	笑いとユーモアを科学するー笑い情報学入門ー	上條 賢一	名誉教授	36
70	2019年12月1日	静岡県	藤枝市	西益津地区交流センター	ペリー来航と日本の対応に学ぶ外圧への接し方	岩下 哲典	文学部	62
71	2019年12月2日	岐阜県	各務原市役所	西ライフデザインセンター 令和元年度短期講座	江戸庶民の笑いとう文学	中山 尚夫	文学部	82
72	2019年12月2日	埼玉県	社会福祉法人 行田市社会福祉協議会	介護保険について知ろう!	これならわかる!最新・介護保険制度!	高野 龍昭	ライフデザイン学部	60
73	2019年12月4日	大分県	大分県立高田高等学校	地域の高校魅力化特色科化推進事業 青鷹成長戦略「スーパーティーチャーによる教職員のための講座」	これから求められる資質・能力と学習活動とはー新学習指導要領とこれからの学びー	後藤 顕一	食環境科学部	32
74	2019年12月5日	秋田県	秋田県教育委員会(生涯学習課)	障害者の生涯学習推進フォーラム	障害者の生涯学習について考える	宮崎 英憲	名誉教授	85
75	2019年12月5日	神奈川県	茅ヶ崎市	一般教養講座	日本文化への扉としてのマンガ・アニメ	紀 葉子	社会学部	26
76	2019年12月6日	大阪府	泉南市 ABC 委員会	令和元年度 市協働啓発講座	「まちあるき」で地域の魅力を掘りおこそう	小瀬 博之	総合情報学部	18
77	2019年12月6日	東京都	西多摩郡瑞穂町教育委員会 社会教育課 体育係	瑞穂町スポーツ指導者講習会又はスポーツ講演会	ケガの予防とパフォーマンス向上のためのコンディショニング	岩本紗由美	ライフデザイン学部	74
78	2019年12月6日	埼玉県	狭山市立広瀬公民館	ひろせ寿大学	輝いて生きるための「終活」講座ー自分らしい葬送と生前準備ー	井上 治代	名誉教授	70
79	2019年12月7日	神奈川県	寒川町民センター	町民センター等指定管理者 株式会社オーエンス	ペリー来航と日本の対応に学ぶ外圧への接し方	岩下 哲典	文学部	30
80	2019年12月10日	埼玉県	朝霞市 南朝霞公民館	南朝霞公民館主催 生活教養講座	元禄の時代ー将軍綱吉と忠臣蔵ー	大野 瑞男	名誉教授	61
81	2019年12月15日	東京都	葛飾区立立石図書館	立石図書館 医療講演会	今日からあなたもヘルプマン!ーカイゴのゴカイー	八木 裕子	ライフデザイン学部	34
82	2019年12月18日	神奈川県	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会(深沢)	江戸幕府の旗本たち	白川部達夫	文学部	51

〈企業研修支援〉

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2019年8月31日	東京都	国書日本語学校	国書日本語学校教師・職員全体会議	睡眠の不調への対処と心理支援	松田 英子	社会学部	46
2	2019年12月12日	千葉県	旭市消費生活センター	くらしのセミナー	食と健康	近藤 和雄	食環境科学部	20

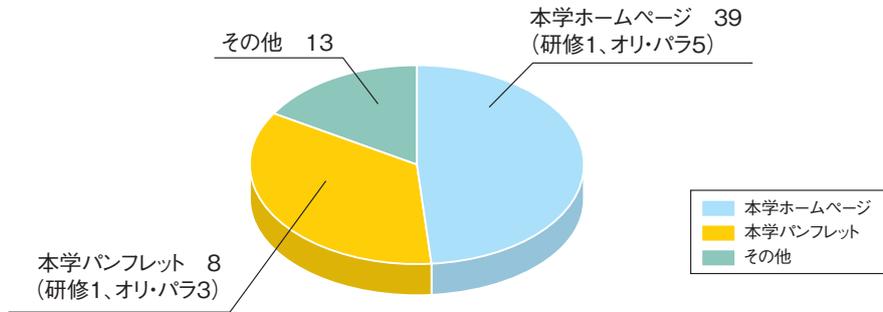
〈オリンピック・パラリンピック支援〉

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2019年7月16日	東京都	練馬区立大泉第六小学校	パラリンピックを知らう	パラリンピックとボランティア	加藤千恵子	総合情報学部	70
2	2019年9月2日	東京都	自由ヶ丘学園高等学校	スポーツ科学授業 アスリートサイエンスコース	人より0.1秒速くゴールするために	望月 修	理工学部	27
3	2019年9月12日	千葉県	千葉県立土気高等学校	第3学年集会	「オリンピックレガジーについて」- 2020年東京、そしてこれからのオリンピック・パラリンピックについて、私たちが考えなければならないこと	谷塚 哲	法学部	430
4	2019年10月11日	山梨県	北杜市立明野小学校	尾花沢市民文化祭 文化講演会	手のことばで話そう！- グローバルコミュニケーションしてみませんか-	八木 裕子	ライフデザイン学部	210
5	2019年10月21日	茨城県	茨城県立取手第一高等学校	道徳（総合的な学習の時間）	オリンピックと観光-文化振興と復興の観点から-	須賀 忠芳	国際観光学部	240
6	2019年11月1日	神奈川県	相模原市立大沼小学校	総合的な学習の時間	古代のオリンピックと現代のオリンピックはどこがちがうの？	村田奈々子	文学部	85
7	2019年11月6日	千葉県	千葉県立八千代高等学校	オリンピック・パラリンピックから学ぶ	「オリンピックレガジーについて」- 2020年東京、そしてこれからのオリンピック・パラリンピックについて、私たちが考えなければならないこと	谷塚 哲	法学部	120
8	2019年11月20日	東京都	東京都立上野高等学校	オリンピック・パラリンピック講演会	外国人観光客のための多言語への取組み	中挾知延子	国際観光学部	321
9	2019年11月27日	東京都	文化学園大学杉並中学校	総合的な学習の時間	成長期から青年期に獲得したい正しいレジスタンストレーニング動作- 体幹編- (実技)	岩本紗由美	ライフデザイン学部	76
10	2019年12月4日	東京都	北区立浮間小学校	やさしさ いっぱい とどけ隊	パラリンピックとは	加藤千恵子	総合情報学部	105
11	2019年12月13日	東京都	東大和市立第一中学校	総合的な学習の時間	パラリンピックとボランティア	加藤千恵子	総合情報学部	20

■2019年度 講師派遣事業 アンケート結果

※回答数 90 (企業2、オリ・パラ8) 実施件数 95 (企業2、オリ・パラ11) 中
 ※複数回答あり

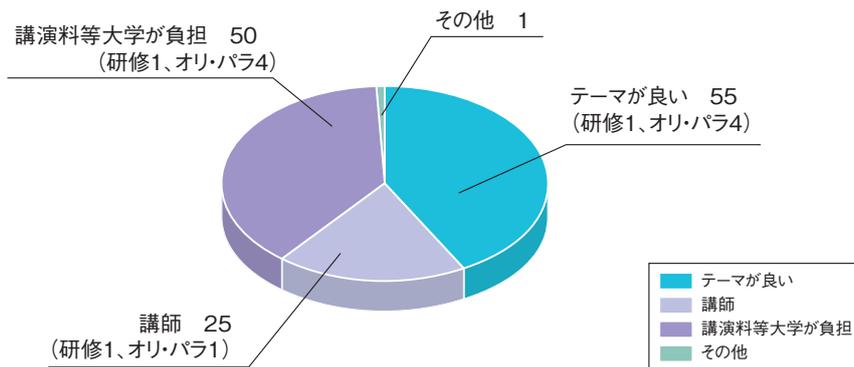
講師派遣事業を知った媒体



【その他の内容】

継続利用	4	以前から利用あり
情報提供	9	校友会からの紹介 別講座講師からの紹介 近隣の市からの情報提供 企画担当の区民からの持ち込み 外部セミナー参加者から講師の講演内容について情報提供 昨年受講者より紹介 本学講師より紹介 当教育委員会に送付された案内

講師派遣事業への申込理由



【その他の内容】

地方に住んでいても生涯学習として、このような講演を聴いて自分を磨いてほしいと思った。



①埼玉県

「新しい時代に生きる資質・能力」育成事業研究発表会

主催団体：熊谷市立成田小学校

派遣講師：後藤 顕一（食環境科学部 教授）

2019年11月6日（水）15：20～16：40（80分）参加者116名

◆テーマ これから求められる資質・能力と学習活動とは—新学習指導要領とこれからの学び—

◆当日の状況

貴校の崇高な理念により実施されている本事業に敬意を表します。後藤先生には、本校の教育活動を深くご理解いただき、多くの聴衆へ向けて発信してくださいました。

◆受講者のご意見・感想等

- ・教員を対象とした講演で、国立教育政策研究所や県教育委員会でのご経験をもとにお話がうかがえて、とても興味深く拝聴しました。
- ・AIの進展による未来社会の構造図を大変興味深く拝聴しました。未来をたくましく生き抜く子供たちへ、確かな学力と他と共同できる力を身につけさせなければと決意を新たにしました。
- ・学校の取り組みをたくさん称賛いただき、これまでやってきたことへの自信と勇気が湧いてきました。さらなる課題解決に取り組んでまいります。

◆当日の様子





②埼玉県

介護保険について知ろう！

主催団体：社会福祉法人 行田市社会福祉協議会

派遣講師：高野 龍昭(ライフデザイン学部 准教授)

2019年12月2日(月) 13:30～15:00(90分) 参加者60名

◆テーマ これならわかる！ 最新・介護保険制度！

◆当日の状況

介護保険は一見すると難しく、実際に必要に迫られてから詳しく調べる方が多いと思われませんが、この度の高野先生の御講演では、要点を絞り、少子高齢化の問題も含め、噛み砕いて解説をしていただくことで、制度を身近に感じられました。また、お時間のない中、最後に質疑応答にも御対応いただき、大変ありがたかったです。

◆受講者のご意見・感想等

- ・わかりやすく説明してくださり理解できました。近い将来、自分のことに起こりうる問題でしたので受講してよかったと思います。
- ・行田市のデータがあり、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・「自ら勉強する」と言われた先生の言葉が大事だと思いました。
- ・わかりにくい分野の介護保険制度について、限られたなか説明いただきとても分かりやすかったです。

◆当日の様子





③新潟県

生涯学習相談ボランティア

主催団体：新潟市生涯学習センター

派遣講師：小島 貴子(理工学部 准教授)

2019年7月12日(金) 14:00～15:30(90分) 参加者73名

◆テーマ 100年人生時代のキャリアの創り方

◆当日の状況

今年で3回目になります。ボランティアスタッフと一般市民から受講を募りましたが、多くの方にお越し頂き、内容も大変好評でした。日本の現状とこれからといった最先端の情報から、先生のご家庭のお話まで、変化に富み、かつ刺激的な内容でした。新潟でこのようなお話を聴く機会を得られたことを大変感謝申し上げます。

◆受講者のご意見・感想等

- ・無料で素晴らしい(中身の濃い)講演を聴けてとても良い企画だと思います。
- ・先生の日常生活を例にあげてのお話、わかりやすく楽しく学ばせていただきました。
- ・テンポのあるお話で、良い刺激を受けることができました。せっかく生まれたのだから、時代の変化を生きていけたらと、元気をいただきました。
- ・遠い所、新潟まで来てくださりましてありがとうございます。3回勉強させていただきました。楽しみにしていました。

◆当日の様子





④千葉県

令和元年度丸山公民館主催事業 「東京オリンピック今昔物語」

主催団体：船橋市丸山公民館

派遣講師：村田 奈々子(文学部 教授)

2019年11月8日(金) 13:30～15:00(90分) 参加者46名

◆テーマ 近代オリンピックのはじまり

◆当日の状況

テーマどおり「近代オリンピックのはじまり」について、クーベルタンを中心に、世界的歴史の背景などとても丁寧にご講義いただきました。スライドの写真もとてもわかりやすく、来年の東京オリンピック開催を前に、オリンピックの起源を知ることはとても感慨深いものになりました。また、村田先生の話し方や声の質感も、とても聴きやすく、あっという間の2時間でした。

◆受講者のご意見・感想等

- ・知識が広がり、興味深く物事の奥を考えることの必要性和重要性を感じる機会となりました。
- ・オリンピックでのクーベルタンとの存在、その考え方がよくわかりました。自慢できます。豆知識がとても参考になりました。先生の話し方・声とても聴きやすかったです。ありがとうございました。
- ・知らないことばかりで有意義でした（声がよく通り、わかりやすい）。
- ・テーマとしては、最初難しいかな…と思いましたが、村田先生のご講義はとても聴きやすく、わかりやすかったです。是非また機会がありましたら、受講してみたいです。

◆当日の様子





⑤愛知県

図書館特別講演会

主催団体：稲沢市図書館(稲沢市立中央図書館)

派遣講師：竹内 美紀(文学部 准教授)

2019年7月7日(日) 14:00～15:30(90分) 参加者50名

◆テーマ 子どもと読書

◆当日の状況

これまで、子どもの読書に関する講座の講師は、県図書館の児童サービス研修等の講師がほとんどで、今回のように、大学で児童文学を研究している方を講師にお願いしたことはなかったが、今回の講演会で、学校現場や読み聞かせ関係者また乳幼児を持つ親などの参加者が新しい知見を得ることができた。

◆受講者のご意見・感想等

- ・大半の参加者は、今回の講演会が大変参考になった、勉強になったと感じており、続きを聴きたいとか、もっと話を聞きたいと感想を発していた。講演会終了後には紹介された絵本・著書などの参考資料に集まり、目を通していった。
- ・アンケートの記述においても、良い機会を得た、わかりやすい説明で刺激を受けたといった内容が多く見られた。
- ・今回の講演でこの事業を知りました。京都からたまたま来ていてお話をきけてよかったです。京都でもお願いできるなら調べて申し込みをしたいと思いました。

◆当日の様子



社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- 被災地支援
ふるさとボランティア活動助成事業

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013（平成25）年4月1日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の2つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること、及び本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定並びに情報収集・発信・提供することを通じて、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。

1. 社会貢献情報収集

(1) 経緯

2月中旬～ 調査開始

3月中旬 調査票回収

(2) 情報の収集

2019年度の調査では、全学への協力依頼と同時に、前年度調査に回答のあった事業に対して、前年度の内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

なお、調査結果は、本センターのホームページに掲載しているが、ホームページの充実強化を図るため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動についても併せて掲載している。

(3) 「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第1に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第2に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第3に地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、前年と同様に、『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域(国内外)や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を調査対象とした。

なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び研究推進課がその実態を把握しており、「東洋大学研究者データベース」の掲載にて一般公開している（もしくは公開可能）と考え、2019年度調査においても調査対象とはしないこととした。

参考：大学の「社会貢献」についての文部科学省の見解

大学は教育と研究を本来の使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつ

つあり、現在においては、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。(出典：平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」)

(4) 調査結果及び公表

教員が実施している社会貢献活動が146事業(地域貢献・振興、社会福祉、環境共生、産官学民連携、高大連携、生涯学習、キャリア教育、哲学教育、国際協力など)、事務局や研究所・センターが中心になって実施している社会貢献活動が76事業であった。

【学部】

文学部	経済学部	経営学部	法学部	社会学部	国際学部	国際観光学部
20	4	3	16	32	5	13
理工学部	総合情報学部	生命科学部	食環境科学部	ライフデザイン学部	情報連携学部	
16	8	0	12	15	2	

【その他】

事務局	研究所・センター		合計
46	30		222

なお、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページで紹介している。

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
1	リハビリテーション医療と患者にとっての環境設定の充実	NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	関心のある市民も含め、理学療法士を含めた研修プログラムを実施する。	稲垣 諭	文学部
2	NHK 日本放送協会	バンエイト制作部	NHK 視聴者	「アナ雪の故郷」を訪ねて－ノルウェー・ファンタジー紀行－の番組制作協力	中里 巧	文学部
3	ほしのいえ	ほしのいえ	生活に困窮している方々	生活支援		
4	山友会	山友会	生活に困窮している方々	生活支援		
5	チャイルド・ファンド・ジャパン	チャイルド・ファンド・ジャパン	フィリピンの生活に困窮している子どもたち	生活支援		
6	「令和元年度レファレンス・サービス研修：科学技術情報を中心に」	国立国会図書館	公共図書館、大学図書館等の図書館員	国立国会図書館は、国内の各図書館においてレファレンス業務を担当する中堅職員を対象に、レファレンス・サービスの実務能力向上及び各館におけるレファレンス・サービスの発展に資することを目的として、本研修を実施する。昨年度に続いて、レファレンス・サービスの理論とともに、特定分野のレファレンスツールや調べ方についての理解を深める内容です。		
7	「令和元年度レファレンス・サービス研修：人文情報を中心に」	国立国会図書館	公共図書館、大学図書館等の図書館員		杉江 典子	文学部
8	令和元年度「第5回図書館レファレンス大賞」	主催：図書館レファレンス大賞実行委員会 後援：文部科学省、公益社団法人日本図書館協会	図書館、図書館利用者	図書館の行うレファレンスサービスとその成果について事例を集めて顕彰し、学び、互いにノウハウや知恵を高めてゆく。		
9	Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	株式会社アルク	高校または中高一貫校の英語教員、英語教員志望者	2010年(H22)3月に、立ち上げたプロジェクトで、高校英語授業改善に貢献することを目的とした活動。授業モデルや方法を、セミナー・書籍・教材を通じて提案。そこでの経験や現職教員とのネットワークを、本学で担当する教職科目を通して履修学生に還元	大田 悦子	文学部
10	日本アイルランド協会公開講座(関東)	日本アイルランド協会	一般市民	日本アイルランド協会主催による、一般受講者を対象としたアイルランドに関する講座	佐藤 泰人	文学部
11	東洋大学発祥の地 臨濟宗妙心寺派天澤山麟祥院「春日忌」にて東洋大学のブースを出展	日本史学卒論演習(岩下担当)	一般来場者(約1000人)	ゼミ生は事前に調査研究、『天澤山麟祥院被葬者事績調査報告書』『ぶらり春日通り周辺マップ』を制作・印刷し、当日来場者に無料配布した。国際観光学部泰田伊知朗教授の留学生と来場者対応を行った。	岩下 哲典	文学部
12	エクセレントI講座「世界を旅する ギリシャ」	NPO 法人かわさき市民アカデミー	一般市民	近現代ギリシャの歴史、文化、政治、社会、経済状況に関する全12回の講義のまとめ役と8回の講義を担当	村田奈々子	文学部
13	日本・ギリシャ修好120周年記念特別講演会	駐日ギリシャ大使館 日本ギリシャ協会	学生と一般市民	近代以降のギリシャと日本の二国間の知られざるエピソードに関する講演		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
14	大倉山講演会	公益財団法人 大倉精神文化研究所	一般市民	平成31年度(令和元年度)大倉山講演会「ここを磨きからだを鍛える」3月～6月(月1回 全4回)の第4回担当講演タイトル「しつけ、修身、道徳、生きる力を身につける-戦前期の「報徳教育」を読み直す-」	須田 将司	文学部
15	東京学芸大学附属竹早地区幼小中連携研究会	東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校・中学校	東京学芸大学附属竹早地区教職員、および研究会参加者	東京学芸大学附属竹早地区幼小中連携研究会の小中理科授業において共同研究、指導・助言、講演等を行った。	鈴木 一成	文学部
16	荒川区教育研究会理科部会	荒川区立第三中学校	荒川区教育研究会理科教員	荒川区立第三中学校の理科授業において指導・助言を行うとともに、理科教育に関する講演を行った。		
17	文京区立明化小学校学校評価委員会	文京区立明化小学校	文京区立明化小学校教員及び保護者	文京区立明化小学校の理科・保健体育授業において指導・助言を行うとともに、教科地区公開講演会を行った。		
18	文京区立明化小学校研究会・教科地区公開講演会	文京区立明化小学校研究会	文京区立明化小学校教員及び評価委員	文京区立明化小学校の学校評価を行った。		
19	足立区立栗島小学校・栗島中学校 小中連携研究発表会	足立区立栗島小学校・栗島中学校	足立区立栗島小学校・栗島中学校教員と地域保護者等	足立区立栗島小学校・栗島中学校の授業実践に指導・助言を行うとともに、連携研究に関する講演を行った。		
20	X'mas コンサート& ライブペインティング	練馬区教育委員会委託 「ねりま遊遊スクール」/「エトワール」	3才～小学生、保護者	フルーツとピアノによる「冬やクリスマス」の名曲の生演奏を聴きながら、講師と参加者が大型画用紙に水彩画を描いて行く。音に触れる事により子供の持つ感性に働きかけ、視覚聴覚を触発する場を提供する。	萩原 喜昭	文学部
21	全日本中国語スピーチコンテスト	社団法人日中友好協会	日本全国から選ばれてきた大学生、社会人、高校生・中学生	年1回、中国語スピーチコンテスト開催、同時に朗読コンテストも開催	続 三義	経済学部
22	佐渡市「域学連携地域づくり応援事業」	ゼミナール	新潟県佐渡市新穂潟上地区潟上水辺の会、潟上住民	エサ場整備等のトキの生育・繁殖環境を充実させるため学生ボランティアの確保、かつ学生と住民との交流を拡充して集落の活性化を図ることが目的。そのための一つの方策として、新穂潟上地区におけるトキエサ場作りのための学生ボランティアを確保し、協力関係を一層強化すべき中国の本学留学生と日本人学生が協力しあえるようなエコツアーの立案・企画とともに、有効な情報発信のあり方を探る。	藤井 信幸 萩 仁平	経済学部
23	20歳の挑戦事業	富山県魚津市	市、市民	2015年度より根本ゼミが指名され、ゼミ生が毎年異なるテーマで魚津市の地方創生に関する提案を行っている。市が商工会議所に委託し、経費を支払うもの。	根本 祐二	経済学部
24	政策提言発表	埼玉県和光市	市長、市職員	総合政策学科3、4年生対象の「政策提言」。各ゼミで指導し優秀者が公開発表会でプレゼンをして、外部審査員によって優秀賞を決定する。		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
25	宮城県仙台第一高等学校 校外研修	宮城県仙台第一高等学校	高校生	仙台第一高校のSSH事業として行われた校外研修において、環境問題「光害」を調査するチーム2名が東洋大学を訪問し、光害の専門家として指導・アドバイスをを行った。	越智 信彰	経営学部
26	星空保護区推進事業	美星町観光協会	井原市民、職員	岡山県井原市美星町が地域おこしとして「星空保護区」の国際認定を目指す。		
27	星空保護区推進事業	東京都神津島村	神津島村村民、職員	東京都神津島村が地域おこしとして「星空保護区」の国際認定を目指す。		
28	日立市消費生活サポーター養成講座	日立市消費生活センター	一般市民	日立市消費生活サポーターの養成を目的とする講座で講演を行った。	芦野 訓和	法学部
29	知的財産権研修(初級)	独立行政法人工業所有権情報研修館	中央省庁職員・地方自治体職員	知的財産に関する業務を担当する職員であって、比較的業務経験が浅い方を対象に、当該業務を遂行するために必要な知的財産の基礎的知識の習得を目的にしている研修です。	安藤 和宏	法学部
30	第二東京弁護士会情報公開・個人情報保護委員会ミニ講義	第二東京弁護士会情報公開・個人情報保護委員会	弁護士	講義「公文書管理」 講師	早川 和宏	法学部
31	平成31年度市町村職員研修「法務マスター研修」	茨城県自治研修所	茨城県下の市町村職員	条例案作成演習担当		
32	豊島区令和元年度特別研修	豊島区	豊島区職員	講演「豊島区公文書等の管理に関する条例施行に向けて」 講師		
33	「情報公開と個人情報保護」	市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)	全国の市町村職員	講義「公文書管理のあり方」 講師		
34	第3回登録アーキビスト研修会	日本アーカイブズ学会	日本アーカイブズ学会登録アーキビスト	講演「アーカイブズの利用に係る法的問題～著作権・プライバシー権・肖像権との関係で～」 講師		
35	個人情報の保護等に関する研修	参議院事務局	参議院事務局職員	第一部「個人情報の保護及び取扱いについて」 / 第二部「特定個人情報等の保護及び取扱いについて」 講師		
36	大阪弁護士会シンポジウム「電子メールの公文書性とその管理」	大阪弁護士会	弁護士 大阪府民	第2部 基調講演「公文書管理法・電磁的記録の公文書管理」 講師 / 第3部 パネルディスカッション パネリスト		
37	八王子自治研究センター公開講座	八王子自治研究センター	八王子市職員 八王子市民	講演「公文書管理条例の意義と課題」 講師		
38	令和元年度 板橋グリーンカレッジ専門課程(後期)【社会生活コース】	板橋区	板橋区在住・在職の60歳以上の方	講演「法を知って自分を守ろう！」 講師 第1回「法的思考の基礎知識」 第2回「私法で自分を守ろう！」 第3回「公法で自分を守ろう！」		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
39	公文書館機能普及セミナー in 山形「求められる公文書館機能の姿とは」	主催：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 共催：山形県・山形県教育委員会	県・市町村職員、県民	講演2 「山形を残す ～公文書センターが果たすべき法的役割～」 講師	早川 和宏	法学部
40	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会 令和元年度第2回講演会	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	県・市町村職員、県民	講演 「アーカイブズをめぐる法的課題」 講師		
41	埼玉県川口市情報公開・個人情報保護研修会	川口市	川口市の管理職	講演 「情報公開をめぐる最近の動向」 講師		
42	国立国会図書館「近現代政治資料に関する説明聴取会」	国立国会図書館	国立国会図書館憲政資料室職員	講演 「アーカイブズの保存活用を巡る法的課題」 講師		
43	模擬裁判	模擬裁判実行委員会	一般市民、本学学生	例年、実際に起きた事件をもとに事件を設定し、学生が主体となって裁判傍聴・学習会・シナリオ作成を行い、シナリオ完成後は出演者がセリフを覚えるなど稽古を重ね公演に臨む。公演は例年学園祭の2日間計4回ほど行う。	松田 正照 小坂 亮	法学部
44	タイ国小規模起業家支援プロジェクト	JICA	タイ国政府およびタイ地方で小規模事業に携わる地域住民と地方の行政官	タイ地方部の、「一村一品運動」が実施されている地域において、さらに小規模な起業家による自作事業を支援している。また、タイ地方部のローカルガバメントの担当者に対して、ガバナンス能力向上のための研修を行っている。	米原 あき	社会学部
45	JICA 業績評価アドバイザー	JICA	JICA および日本の一般市民	JICA が外務省に提出する事業報告書の内容・書き方についてアドバイスしている。		
46	SDGs 社会的インパクト・マネジメント検討委員会	神奈川県	神奈川県民および日本の一般市民	SDGs に貢献しようとする、事業者、中間支援団体、金融を有機的につなぐためのマネジメントモデルについて議論を深めると同時に、実証事業を行い、また、上記の3者を対象とした研修を実施している。		
47	子どもの貧困実態調査に関する検討会	内閣府	貧困状態にある子どもおよび子どもの貧困を支援しようとする自治体	日本には合意を得た貧困指標が存在していないため、社会全体として子どもの貧困の実態が明らかになっていないという問題があることから、実態調査を行うための調査票の策定に取り組んでいる。		
48	政策評価に関する統一研修	総務省	東北管区に所属する自治体職員	総務省が実施している、政策評価に関する統一研修の講師として、東北管区(会場：仙台)にて政策評価に関する講義を行った。		
49	コラボ授業によるESDの実践	神戸大学附属中等教育学校	神戸大学附属の教員および生徒	理科教員と社会科教員のボランタリーなコラボによるESDの授業の評価について、プログラム評価の手法を用いて支援している。		
50	横浜市教育委員会ESDコンソーシアム委員	横浜市教育委員会 文部科学省	横浜市教育委員会および横浜市内のESD推進校(小・中・高)の教員および児童生徒	横浜市教育委員会ESDコンソーシアムはESDを推進する日本の拠点として、文科省より認定をうけ、ESDの推進にかかる各種の取り組みを行っており、委員はその支援を行っている。今年度は、『文部科学省 平成31年度 SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業』に採択され、モデル校における推進事業を行った。		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
51	白山下商店会チャリティ感謝市でのボランティア活動	「社会調査および実習」西野クラスと川副クラス、「社会学演習Ⅰ」西野クラス(イベントの実施主体は「白山下商店会」)	地域住民・一般市民	白山下商店会が地域の交流や活性化をねらって例年行っている地域イベントであり、白山下商店会に地元町会や住民等が協力する形で運営されている。当日のブース運営等を西野・川副クラス等の学生がここ数年手伝えることで、地域を支援している。	西野 淑美 川副早央里	社会学部
52	ラオス産フェアトレードコーヒーの製造販売プロジェクト	学生国際協力団体 Smile F LAOS	ジャイカフェ農民協同組合(JCFC)	ラオスの農民協同組合が生産したフェアトレードコーヒーを静岡の焙煎工場で製品化し、学内を中心に販売することにより、その利益を現地の教育支援に充てることを目的とした事業である。毎年、現地におけるニーズを探求し、浄水器や絵本を小学校に寄贈する活動を行っている。		
53	ラオスのコーヒー栽培地域における農業の多様化促進を通じた生態系保全プロジェクト	NPO 法人 APLA	ジャイカフェ農民協同組合(JCFC) 他	ラオス南部ボーラヴェーン高原におけるコーヒー単一栽培への依存からの脱却と、持続可能な農法での多様な作物の栽培とそれらの計画的な販売によって年間を通じた安定的な収入の確保に配慮しながら、多様な生物と植物が共生する生態系の回復をめざす。(2018年度りそなアジアオセアニア財団助成プログラム)	箕曲 在弘	社会学部
54	上野の森バレエホリデイ2019 ホリデイ・バレエ・アカデミー	日本舞台芸術振興会	一般市民	「バレエテクニック大研究～『白鳥の湖』編」と題して、古典バレエの様式美と、作品に登場する高度な技法について解説		
55	「ミハイロフスキー劇場バレエ」来日公演をもっと楽しむための特別講座	光藍社	一般市民	「ナチョ・ドゥアト版『眠りの森の美女』～伝統と革新」と題して、振付・演出の魅力を解説	海野 敏	社会学部
56	文京アカデミア講座 バレエを楽しむ基礎講座	アカデミー文京	一般市民	「バレエを楽しむ基礎講座～『くるみ割り人形』編」と題して、その物語、振付、演出について解説		
57	研修講演会	全国信用金庫協会	主に人事担当者	職場での女性活躍をすすめ、パワハラ、セクハラなどの問題に意識的、自覚的になるために、差別につながる「アンコンシャスバイアス」を社会心理学の立場から説明し、具体例をあげ、作業も取り入れながら講演を行った。	北村 英哉	社会学部
58	ダイバーシティ推進(シンポジウム、講演と対談)	電気通信大学 男女共同参画・ダイバーシティ戦略室	電気通信大学、他大学のダイバーシティ推進関連の担当者	大学・研究環境での女性活躍を推進する観点から、アンコンシャスバイアスの説明を行い、具体的に実施した。部分的に外国人人材の問題などにも触れ、広く偏見を抑制し、多様化にマッチするようなあり方の工夫、コツについて話した。		
59	兵庫県尼崎市 街頭犯罪防止事業アドバイザー	兵庫県尼崎市総務局防災安全部	兵庫県尼崎市民	ひたたくり防止の対策を検討するための「犯罪情報分析」および調査を継続的に行い、また自転車盗の対策を行った。		
60	地域防犯に関する講演活動	名古屋市など	住民	今後の地域防犯活動に対し、犯罪心理学的な観点から講演を行った。	桐生 正幸	社会学部
61	クレーマー対策の検討	各企業の消費者窓口担当者による研究会	苦情相談担当者	各企業における苦情、クレームについて事例をあげ、対策などを検討した。		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
62	講演「美術と精神医学の二つの接点－病跡学と芸術療法」	パリ日本人カトリックセンター	パリ在住日本人	芸術家の創作活動に反映される精神医学的問題と、芸術を利用した心理学的治療について講演し、芸術家や精神疾患の患者さんの家族との質疑応答を行った。	角田 京子	社会学部
63	障害者自立支援協議会	文京区	文京区在住の障害者、関係者	障害者自立支援協議会の副会長として、自立支援協議会の全体会に出席している。また相談支援部会等の委員として、専門部会の活動に従事している。これらの活動を通じ、障害者計画策定等に参画している。	志村 健一	社会学部
64	ALS 患者支援	NPO法人チーム浅沼屋 for Children and ALS	児童養護施設入所者、ALS 患者・家族	ALS 患者と家族とともに児童養護施設の子どもたちに食事を提供し、ALS の理解普及に努める。		
65	文京区障害者(児)実態調査	文京区	障がいのある文京区民	2021年度に立案される障害者計画の策定基礎資料となる調査の実施		
66	働く障害者の余暇支援	文京区就労支援センター	一般企業で働く文京区内在住の障がい者	一般企業で雇用されている障がいのある人たちは、福祉サービスを受けていない場合も多く、情報提供や相談窓口が限定される。就労支援センターでは食事会を開催し、情報提供、共有をしている。		
67	東日本大震災こども支援活動 山田町ゾンタハウス	東洋大学社会学部と特定非営利活動法人 こども福祉研究所(NPO 法人)	山田町の中高校生を中心とした町民全員	東日本大震災復興支援事業として、岩手県山田町にゾンタハウスを開設したNPO 法人の代表として事業実施を担う。また、そこに社会学部の学生や大学院生の参加を実現し、長期休暇には学習支援や地域支援活動の場として、提供している。	森田 明美	社会学部
68	東日本大震災子ども支援活動	一般社団法人東日本大震災子ども・若者支援センター	東日本大震災で被災した子ども・若者	東日本大震災で被災した子ども・若者を2031年までの20年間応援し続けようという活動のために、設置された一般社団法人被災地での子ども・若者自身の居場所、交流、活動、子ども支援者の研修会、居場所事業、研究などを仙台レインボーハウスを拠点に展開している。		
69	子どもの権利条約の国内普及活動	子どもの人権連(市民団体)	市民社会	国連子どもの権利条約の日本での批准と、批准後の普及活動をすすめる団体。具体的には、この団体の代表委員として活動する。国連での日本の子どもの権利条約の普及状況に関する審査などに NGO 代表として報告書作成や審査に関わる。		
70	東日本大震災子ども支援活動	東日本大震災子ども支援ネットワーク	市民社会	東日本大震災で被災した子どもや子育て家庭、被災地域での子ども施策について、支援者のネットワーク、意見交換などをふまえて、継続的な支援活動と啓発を進める活動		
71	世界エイズデー啓発活動	社会福祉学専門演習(川原ゼミ)・オカモト株式会社、協力 公益財団法人エイズ予防財団	学生、一般市民	世界エイズデーの啓発活動として、学内でエイズ予防財団・東京都が作成したパンフレット等の配布を行った。また、「ボヘミアン・ラブソディ」の無料上映会(正しい知識の普及を目指した学生によるプレゼンを含む)を実施した。	川原 恵子	社会学部
72	東京都福祉サービス評価者 フォローアップ研修専門コース「婦人保護施設に関する法制度と現状を学ぶ」	東京都福祉サービス評価推進機構	サービス評価者	東京都福祉サービス評価推進機構が実施する評価者研修において、「婦人保護事業」に関する研修を一部担当		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
73	第41回更宿連総合職員研修会「第5分科会」及び「基調講演」	全国更宿施設連絡協議会	全国の更生施設・ホームレス自立支援センター・宿泊所等に勤務する職員	更宿連が実施する職員研修において、「全国更生施設実態調査」の報告を行った(放送大学北川由紀彦准教授と一緒に担当)。	川原 恵子	社会学部
74	渋谷区スタディクーポン事業	NPO 法人チャンス・フォー・チルドレン	渋谷区内の低所得世帯の中学3年生	本事業は、対象者に対して、学習塾等で利用できるスタディクーポンを提供するとともに、ボランティアが定期面談を行い、進路・学習支援を行う取り組みである。本教員は、外部評価者として、事業評価を実施した。	岩田千亜紀	社会学部
75	ブリッジング・プロジェクト	NPO 法人しあわせなみだ	障害児者	障害児者への性暴力に関する調査、イベント、議員へのロビイング、署名活動など。本教員は、外部有識者として、調査の監修、ロビイング事業などを担当した。		
76	青年海外協力隊技術補完研修	国際協力機構	青年海外協力隊派遣予定者	青年海外協力隊の環境関連の職種で派遣予定者に対して開発途上国に必要な情報を提供する。	北脇 秀敏	国際学部
77	福島県いわき市の農家支援－農作業ボランティアと商品販売	国際地域学科学生	本学教職員、学生、一般市民	福島県いわき市のコットン畑で農作業。その後、いわき産商品を白山キャンパスで販売。いわき市の農家から取り寄せた米や野菜を使った料理パーティー。いわきのNPO・農家を訪問し、農作業体験と聞き取り。	子島 進	国際学部
78	大塚モスクとの地域交流	国際地域学科学生、ライフデザイン学部学生、社会学部学生	大塚モスクの小中高生、母親	本学学生が大塚モスクを訪問するとともに、白山キャンパスでスポーツ交流会を3回実施。別途報告書あり(アジア文化研究所年報)。		
79	被災者支援 NPO に対する活動支援	特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム (JPF)	熊本地震被災者支援活動を実施している NPO 法人	JPF が提供する活動助成金により活動を行っている NPO 法人に対して、被災者支援活動に関する助言等	松丸 亮	国際学部
80	エクアドル国地震・津波防災能力強化プロジェクト本邦研修支援	国際航業株式会社 / 国際協力機構 (JICA)	エクアドル政府防災関係機関担当者	エクアドルの政府職員からなる研修員約20名に対して、日本の防災制度などを背景に防災施策についてのポイントを講義するとともに、研修員の所属する地域を対象に研修員が作成してきた防災アクションプランに対するコメントを行った。		
81	2019年度「海外展開・国際協力関係」実践研修	(一社) 海外鉄道技術協力協会	鉄道会社社員	鉄道会社が今後、海外事業を展開するにあたって参考になる内容の講義を行った。		
82	第228回政策課題勉強会	国土交通省 国土交通政策研究所	国土交通省職員	国土交通省の公共交通の担当者が今後、政策を立案するにあたって参考になる課題を提示するとともに海外の事例の紹介を行った。	黒崎 文雄	国際観光学部
83	2019年度 JR East Follow Up Course	東日本文化財団	ASEAN 諸国鉄道職員	マレーシア、タイ、ベトナム、モンゴル、ミャンマーの鉄道の管理者を対象に、鉄道運営の効率化と発展のため、海外の鉄道経営手法に関する講義を行った。		
84	SAKIDORI FRANCE	Atout France (フランス観光開発機構)	フランス全土の地方観光局やホテルやレストランのプロモーション担当者	Atout France が開催するフランス観光プロモーションの一環で5月にBtoB 向けのフランスワークショップ	佐々木 茂	国際観光学部

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
85	豊の国商人塾	大分県商工観光労働部 商業・サービス業振興課、大分県商店街振興組合連合会	大分県内の商工業の経営者、金融機関の幹部など地域を代表する事業経営の関係者	年間を通じたビジネス研修。年に6回開催。佐々木茂が塾頭を務め、講師は、毎回のテーマに合わせて国内外の多様な事業分野の第一線で活躍する経営者や団体役員を招聘している。	佐々木 茂	国際観光学部
86	根津・千駄木下町まつりへの参加協力事業	東洋大学東海林ゼミ、根津・千駄木下町まつり実行委員会(文京区・地元町会など)	市民一般	地域の観光振興に貢献するため、教員の指導監督のもとで学生が中心となって、(1)情報発信事業(H P作成)、(2)利用実態調査報告書のとりまとめ、(3)地域振興プロジェクトの成果の展示の3事業を実施	東海林克彦	国際観光学部
87	白山・谷根千地域の観光資源の紹介動画やマップの作成	東洋大学東海林ゼミ	市民一般	地域の観光振興に貢献するため、教員の指導監督のもとで学生が中心となって、動画やストリートビューなどを活用した情報発信事業を実施		
88	城沼・多々良沼の親水性向上プランの作成	群馬県館林土木事務所、館林市、城沼・多々良沼自然再生協議会	城沼・多々良沼地域の住民・観光客	自然再生推進法に基づき、群馬県庁や館林市などが、城沼・多々良沼の自然再生事業を実施している。水質改善や外来種対策などの他にも、親水性の向上が主要課題となっているが、東洋大学国際観光学部の東海林ゼミのゼミ活動の一環として、親水性の向上を図るための地域計画を策定し、自然再生協議会などに対して発表や提言を行うもの	森下 晶美	国際観光学部
89	佐野市「文化遺産を活用したまちづくりシンポジウム」	栃木県佐野市	一般市民、事業者	佐野市の文化遺産「天明鋳物」を活用した観光についての基調講演		
90	東京観光財団マーケティング研修	東京観光財団	職員	マーケティング基礎研修・講師		
91	自民党観光立国インナー会議	自由民主党	自民党議員、観光庁職員	観光系大学の教育と現状に関するプレゼンテーション		
92	JTB マネージャー研修	JTB 総合研究所	JTB 課長クラス社員	マーケティング基礎研修・講師		
93	アドベンチャーーツーリズムを利用した北部沖縄の活性化提案	JTB 総合研究所／沖縄観光コンベンションビューロー／森下ゼミ3年生	沖縄観光コンベンションビューロー職員	アドベンチャーーツーリズムを利用した北部沖縄の活性化について、ゼミ活動を通じマーケティング手法を用いた4つの活性化策を導き出し、提案と意見交換を行った。		
94	実際の設計研究会	実際の設計研究会	工学系の技術者や学生	機械系の技術者を中心として「実際の設計研究会」を作り、創造的設計論の研究および「実際の設計」シリーズの本の執筆活動を行っている。研究開発等で得られた知識をまとめて本の形で出版することを通して、社会貢献を行っている。	松本 潔	理工学部
95	科学振興展覧会西部地区展	埼玉県高等学校理化研究会西部地区	高校生	埼玉西部地区の高等学校の科学部による研究成果ポスター発表並びに本学教員による特別講演を川越キャンパスにて実施	窪田 佳寛	理工学部

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
96	川越まつり山車ロボットコンテスト	川越まつり山車ロボットコンテスト実行委員会(機械工学科内の教員有志で構成)が主催し、日本機械学会関東支部が協賛	高校生	川越まつり山車ロボットコンテストは、東洋大学が主催し、日本機械学会関東支部が後援するコンテスト。コンテスト自体とその準備のための講習会を実施。東洋大学内の企画運営担当は、理工学部機械工学科の有志の教員です。高校生・中学生を対象として、科学技術への興味の喚起と伝統文化の理解を目的として実施	山田 和明	理工学部
97	デジタルエンジニアリングアカデミー	武蔵野銀行と東洋大学工業技術研究所の共催	埼玉県内を中心とした中小企業	ものづくりのためのデジタル技術を学ぶ勉強会を実施している。		
98	科学教育振興展覧会(西部地区展)での講演	埼玉県高等学校理化研究会	埼玉県西部地区県立高校に通い、科学(理科)系のクラブ活動に参加する生徒と顧問の教員	埼玉県立高校(西部地区)の理科系クラブの生徒が、それぞれの活動の成果発表展覧会(ポスター展示)を行った。この展覧会は、一般公開で、それぞれの発表は審査され、表彰された。表彰式の前に、講演があり、参加した高校生向けにロボット工学に関する講演を行った。		
99	彩の国ビジネスアリーナへの出展	埼玉県/埼玉県産業振興公社/埼玉県情報サービス産業協会/埼玉りそな銀行/武蔵野銀行/埼玉縣信用金庫/飯能信用金庫/川口信用金庫/青木信用金庫	新規事業開拓やビジネスチャンス発掘を狙う製造業、サービス業等の経営者、技術者、営業担当など	工業技術研究所の活動内容の宣伝とともに、段差乗越え補助キャスターの研究シーズを出展した。	横田 祥	理工学部
100	おがわ学	地域との協働による高等学校教育改革推進事業(埼玉県立小川高等学校)	高校生・中学生・小学生	高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアム(小中学校、小川町教育委員会、地元企業など)を構築する。		
101	Advanced Program in Japanese style International Business at FTU「Japanese style Production system MONOZUKURI」	ベトナム貿易大学(FTU)	大学3年生(Bachelor of International Business)	JICAの援助により設置されたベトナム日本人材開発インスティテュート(VJCC)の招聘で、FTUの日本式国際ビジネス学士課程の3年生に「ものづくり精神」の講義を36時間行う。	吉田 善一	理工学部
102	NPO アスクネット講師派遣	NPO アスクネット	高校生	私立山村学園にて、高校生へのキャリア教育を支援する。	小島 貴子	理工学部
103	第129回ニューガラスセミナー「視力と老眼による見えを改善できる3色光照明」講演	一般社団法人 ニューガラスフォーラム	ガラスメーカーのエンジニア、大学研究者	3原色の赤緑青色LEDを用いた照明、或いは赤黄青色の有機EL照明の各照射下においては、視力と老眼により伸びる最短視距離が両者とも5~10%程度改善する。改善は各色の色分散による網膜映像の鮮鋭化に起因する。	佐野 勇司	理工学部

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
104	川越「時の鐘」の自動撞木装置の更新に向けた共同研究	理工学部 機械工学科 松元明弘・電気電子情報工学科 佐野勇司	川越市教育委員会文化財保護課	メンテナンスと障害時の復旧を容易にする制御回路を試作して方式提案—パルスモータのマイコン制御方式を提案し、LANと電波時計・GPSによる各時刻補正回路を試作して適用可能性を検証—	佐野 勇司	理工学部
105	「こども大学かわごえ」の講義「視覚の科学」	NPO「こども大学かわごえ」	川越市内の小学4・5・6年生	テレビは人間の目の性質を巧みに活かすことにより、少ない情報量を用いてきれいな映像を表示している。講義では視覚実験として、映像が無数の画素で作られていること、最先端の4Kや8K映像の仕組み、3D映像の立体感などを体験して頂いた。		
106	「エネルギーに関する未来・新技術に関する国際フォーラム」(韓国・大田)での協力	韓国電力公社, 明知大学校 他4大学	韓国の大学生・教員および民間企業	第1回「エネルギーに関する未来・新技術に関する国際フォーラム」(韓国・大田) 2019.8.27	平瀬 祐子	理工学部
107	アトピーフリーコム	アトピー患者による患者の支援団体	アトピー患者と医師	アトピー患者の相互支援を行っている。患者と医師のネットワークを作り、講演会、フォーラムなどを通じ、患者がより社会で過ごしやすい状況を作れるよう、サポートを行っている。今年度は、広島において講演会で患者本人としてスピーチを行った。	安藤 直子	理工学部
108	高木仁三郎市民科学基金	認定NPO法人 高木仁三郎市民科学基金	一般市民	「市民科学」を助成する市民ファンドとして活動している。		
109	平戸市のオランダ共有遺産活用に向けたワークショップ	日蘭建築文化協会	平戸市職員、一般市民	オランダ文化遺産局が進めるオランダ共有遺産活用の取り組みをサポートするためのプレワークショップ。佐賀県有田町での遺産活用の取り組みについてのショートレクチャー、平戸市のオランダ共有遺産活用の課題と可能性についてディスカッションを行った。	田口 陽子	理工学部
110	高等学校運動部におけるメンタルトレーニングの導入	総合情報学科 川越市立川越高等学校	市立川越高校野球部	川越市立川越高等学校の運動部に所属する生徒を対象に、競技力向上のためのメンタルトレーニングを実施している。運動部の指導者や、生徒の意向を考慮にいたしたトレーニングを継続的に行い、その効果及び内容の妥当性について評価を行う。これにより、運動部の更なる競技力向上につながる、心理面の助言やフィードバックを提供する。	加藤千恵子	総合情報学部
111	生きものを育む田んぼプロジェクト	小瀬ゼミ、NPO法人かわごえ里山イニシアチブ、高梨農園	市民、地元農家	2013年度から2015年度まで川越市農政課と実施した水田再生プロジェクトを発展させ、川越市福田においてNPOと農家による無農薬・無化学肥料による稲作等を協働実施している。		
112	川越キャンパス「こもれびの森」における里山林保全活動	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	市民、大学教職員、学生	2014年度に「こもれびの森・里山支援隊」を発足させ、東洋大学の「こもれびの森」の未管理エリアを中心に里山林保全を近隣住民等との協働で行っている。2017年度より学内組織として活動を発展させている。	小瀬 博之	総合情報学部
113	Light it up blue 川越	Light it up blue 川越実行委員会	障がい者団体等	2014～2016年の3年間中心市街地で実施された「小江戸川越ライトアップ」にゼミで出展し、その作品を利用して世界自閉症啓発デー「Light it up blue 川越」に協力し、作品を展示している。		
114	川越霞ヶ関北地区 地域活性化プロジェクト	小瀬ゼミ、尾崎ゼミ、かすみがせき昭和レトロすとりと実行委員会、霞ヶ関北自治会	市民、地域住民、商店経営者	2011年度～2013年度に川鶴地区、2012年度～現在に霞ヶ関北地区、2013～2017年度に「川越昭和の街」地区の関係団体と協力して、学生演習を中心に地域活性化に資する事業を検討・実施してきた。	小瀬 博之 尾崎 晴男	総合情報学部

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
115	埼玉県川口市における歴史的景観・文化の保全方法の検討	地域活性化研究所	市民	2018年度より地域活性化研究所研究計画の一環で埼玉県川口市における歴史的資源の発見、マップ化、市民活動者へのヒアリング等を行い、都市化の著しい地域での景観・文化の保全のあり方を検討している。	小瀬 博之 尾崎 晴男	総合情報学部
116	英語教員研修	東京都立駒場高校	英語科教員7名	招待セミナー「技能統合型の学習活動のあり方」	湯舟 英一	総合情報学部
117	セミナー	仙台第一高校	高校3年生7名	英語のリスニング力とワーキングメモの関係について考える。		
118	開智未来中学校東洋大学体験講座	開智未来中学高等学校	開智未来中学生	開智未来中学の2年生に「DNAを見てみよう」と題した理科実験講座を行った。	福森 文康	食環境科学部
119	保育園等栄養士研修会	台東保健所	区内の保育園等児童福祉施設に勤務する栄養士・管理栄養士・調理士	「保育園等児童福祉施設における乳幼児の食支援について」講師		
120	給食施設講習会	狭山保健所	狭山保健所管内の給食施設に勤務している管理栄養士、栄養士、調理員の方	「給食施設における調理と減塩対策～料理の塩分の見方、考え方～」講師		
121	令和元年度学校栄養士研修会	板橋区教育委員会	板橋区の学校給食施設に勤務している管理栄養士、栄養士など	「食文化の多様性について知る」講師	辻 ひろみ	食環境科学部
122	令和元年度特定給食施設研修会	前橋市保健所	前橋市保健所管内の給食施設に勤務している管理栄養士、栄養士、調理員の方	「給食施設での栄養管理について」講師		
123	令和元年度第2回食育推進リーダー育成研修会	埼玉県教育委員会	埼玉県内の食育リーダー委員の教員	「多様な文化の受け入れに向けて」講師		
124	親子味覚教室	子どものための味覚教育研究会	小学校4年生～6年生とその保護者	文京区立誠之小学校PTAが主催する親子教室の一環として「親子味覚教室」を開講、講師を担当。4年生～6年生とその保護者を対象に、食べものに触れて感じた事や味わいを表現することを通して子どもの自己肯定感を高め、主体性、社会性、他者理解を育む講座内容となっている。		
125	和食の出張講座	一般社団法人和食文化国民会議	小学生	ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」の保護・継承活動の一環として全国の学校にて和食に関わる有識者による出張講座を実施	露久保美夏	食環境科学部
126	来たKITA オリパラプロジェクト	北区立滝野川文化センター	一般区民	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて機運醸成を図ることを目的とする事業の一環として日本の食文化に関する講義と実習を実施した。		
127	第6回 SS-Lecture 講座	国立研究開発法人科学技術振興機構	高校生	SSH指定校である群馬県立前橋女子高等学校の生徒に対し、科学的興味と知識の定着を促すための出張実験講座を実施		

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
128	メディア出演・監修協力	報道機関	一般市民	複数のテレビ番組および雑誌、新聞などのメディアにて出演、取材、監修に対応した。	露久保美夏	食環境科学部
129	第2回客員高度技術者招へい事業	栃木県産業技術センター	食品技術部職員	職員の資質向上と技術支援の充実強化を目的として調理操作による食品の科学について講義を実施		
130	オレンジカフェ	生活支援学演習Ⅱ(2年生ゼミ)・地域包括支援センターひいらぎ	地域住民・認知症とその家族	東洋大学朝霞キャンパスとひいらぎの里において、偶数月第3日曜日にオレンジカフェ(認知症高齢者とその家族、地域住民)を実施した。	古川 和稔	ライフデザイン学部
131	介護サービス向上基礎研修 講師	栃木市特養養護連絡協議会、栃木県老協協南ブロック、両毛ブロック	介護福祉、社会福祉、および医療従事者	「自立支援介護とその基礎」と題して研修を行った。介護福祉実践の専門性向上を目的とした研修である。		
132	介護福祉士ファーストステップ研修 講師	埼玉県介護福祉士会	埼玉県内の介護福祉士	「ケア場面の気づきと助言」と題して研修を行った。介護福祉実践の専門性向上を目的とした研修である。		
133	重度訪問介護従業者養成研修統合研修 講師	自立生活センターとちぎ	重度身体障害者の生活支援を行う者	基礎的な介護と、重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習を行った。		
134	居宅ケアマネジャー対象研修会 講師	株式会社愛誠会静岡	居宅支援を行っているケアマネジャー	「地域包括ケアと自立支援」と題して研修を行った。介護支援専門員(ケアマネジャー)の専門性向上を目的とした研修である。		
135	東洋大学きゃんぱす	ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻	小学4年～6年生	子ども支援学専攻の中期計画の一環として、隔週で大学構内において、福祉や教育に関わる資格の取得を目指す学生が中心となり、朝霞市内の小中学生を対象とした学習支援・遊び支援・相談支援活動を行う。		
136	奈良学文化講座	J R東海	一般市民	講演「観音信仰 ユーラシアから日本へ」	菊地 章太	ライフデザイン学部
137	NPO あさか市民大学の健康体操教室	NPO あさか市民大学 神野ゼミの共催	地域在住中高齢者	NPO あさか市民大学と共同開催。学生とともに教材の作成、および学生を指導者として育成し、健康体操教室を展開している。	神野 宏司	ライフデザイン学部
138	健康教室の開催	医療生協さいたま 神野宏司	地域在住中高齢者	中高齢者の健康維持を目的とした健康教室の実施		
139	地域老人会との交流	朝霞市、宮戸元気会	地域在宅高齢者	地域高齢者クラブでの健康体操の実施、体力測定		
140	NPO 法人あさか市民大学 健康教室	NPO 法人あさか市民大学	朝霞市在住シニア	市民が企画運営する地域事業での健康講座 日常生活での運動推進講演		
141	健康まつり体力測定	医療生協さいたま	地域住民	医療生協さいたまが主催する健康まつりイベントにて学生とともに住民の体力測定とアドバイスを実施		
142	2019年度そうま中央スポーツクラブ バドミントン教室	そうま中央スポーツクラブ	そうま中央スポーツクラブ会員その他	例年開催しているそうま中央スポーツクラブのバドミントン教室にて金子が講師として指導するとともに、東洋大学バドミントン部員とスタッフ、金子のゼミ所属学生および本学非常勤講師(看護学関係)らが指導補助および現地参加者とスポーツを通じた交流を図った。	金子 元彦	ライフデザイン学部

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	氏名	学部名
143	少年少女バドミントン競技力向上事業	中央区体育協会	中央区少年少女バドミントン大会入賞者40名(小学生)	中央区の小学生を対象にバドミントンの競技力向上を目的として、技術や戦術についての指導を行った。小学生であることから、いわゆる「動きづくり」なども加味して構成するとともに、大学生と一緒にプレイすることでレベルアップを図るとともに、楽しさを実感してもらえるように努めた。	金子 元彦	ライフデザイン学部
144	朝霞市民講座：悠ゆう大学～平成から令和～	朝霞市中央公民館	朝霞市民	市民が充実した日々を送るため、生涯にわたって学習していけるような環境を提供することを目的とし、受講後の継続した学びに繋がるものや、実生活の中で役立つ講座を実施する。	熊澤 拓也	ライフデザイン学部
145	ESD ワークショップ	NPO 法人 AKJ 環境総合研究所(愛知県)	一般市民	社会人向けの環境リーダー育成事業	後藤 尚弘	情報連携学部
146	渥美半島自然学習バスツアー・自然学習フォーラム	渥美半島生態系ネットワーク協議会	一般市民	渥美半島(愛知県)の自然を保全するために、外来種や希少種に関する観察会や講演会を実施する。		

〈事務局等〉

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
147	文京あじさい祭りの協力	文京あじさい祭り実行委員会(町会長、商店会長、白山神社など)	実行委員、祭り来場者	実行委員会からの依頼に応じ、可能な範囲で協力する。	総務課(白山祭実行委員会、箏曲研究会、アカベラ Aun、器楽研究会、軽音ジャズ サニー、ダンスサークル HONEY、混声合唱部 リパティ) ※社会学科教員参加：西野淑美・川副早央里
148	「地域交流サロン」の無料開放	総務部総務課	白山地域振興懇話会委員が所属する町会や商店街等	雨水会館1Fの「地域交流サロン」を懇話会委員(近隣町会長や商店街長等)に無料で貸出しを行う。町会等の会合などに利用する。	総務課(東洋大学白山地域振興懇話会事務局)
149	東洋大学白山地域振興懇話会「白山哲理塾」の事務	白山地域振興懇話会(本学及び地域団体等との協働)	社会人、経営者、店主、学生、児童等	白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施する。企画立案者(近隣住民等)から企画書の提出を受け、学内外で実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料とする。	
150	東洋大学現代学生百人一首	総務部広報課	国内外の生徒、学生等(小学生から大学生など全般)	短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のもの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表する。	広報課

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
151	ビジネス英語プログラム	国際部国際課	ビジネスパーソン	① BEST Program / ビジネスパーソンを対象に、英語でのプレゼンテーション、会議、交渉など特定のスキルにフォーカスした実践的講座。年5期開講。いずれのプログラムも本学で「Business English Communication」科目を担当する非常勤講師が担当。SGUで掲げる「全世代グローバル教育」の一環として実施	
152	Toyo Achieve English 出張英会話講師派遣(文京区施設)	TUGS / (1) 文京区福祉施設、(2) 生涯学習センター	主に文京区住民	(1) 文京福祉センター江戸川橋 / 初級、中級の2レベルにて4ヶ月ごとに全10回講座を提供。基礎英会話、おもてなし英会話を中心に提供 (2) 文京アカデミア講座 / 社会人を主な対象とした中級者向けの英会話。毎週国内外のトピックスについて英語でディスカッションする。 (3) 文京福祉総合センター祭り / 施設で毎年11月に開催されるお祭りにて大人向けとジュニア向けに英会話講座を提供 (4) 朝霞市生涯学習体験教室 / 朝霞市在住・在学・在勤者を対象としたおもてなし英語の講座を提供	
153	Toyo Achieve English 各種英会話講座	TUGS	一般市民	(1) 大人向け英会話講座 / 海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講 (2) ジュニア向け英会話講座 / 主に近隣の小・中・高校生向けに開講する、海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講 (3) 夏休み英会話講座 / 大人向け、ジュニア向けに夏休みに5日間連続で開講する英会話講座 (4) おもてなし英会話 / 英語でおもてなし、日本について説明ができることを目指す講座 (5) Discussion English / テーマに関する語彙や表現も学び、ディスカッションを通じて多様な考え方を知ること知識と表現の幅を広げることを目指す講座 (6) Everyday English / 日常会話に役立つ単語やフレーズを学び、スムーズに会話できることを目指す講座 (7) 親子で英会話講座 / 近隣の親子向けの英会話講座。日々の育児に使える簡単な単語や日常表現、手遊び歌、簡単なゲーム等の遊び体験を通して、親子で英語に触れ合う内容。子ども支援関係の学部がある朝霞キャンパスで実施 (8) 季節に関連した子供向け英語イベント / ハロウィンやクリスマスの時期に近隣の子供向けの英語イベントを実施 ※ SGUで掲げる「全世代グローバル教育」の一環として実施	国際課
154	小学校、地方自治体等への留学生派遣	国際部国際課	近隣の小学生、高等学校、地方自治体等	① 埼玉県立朝霞西高校「異文化体験」 / 本学留学生を高校に派遣。母国の文化等を紹介するプレゼンテーションを行った。② 北区短期国際交流員 / 北区の保育園や福祉施設での国際交流ボランティア	
155	国連ユースボランティア (UNYV)	国際部国際課	開発途上国	国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関に学生を派遣する。派遣された学生はユースボランティアとして任命された業務に従事する。	
156	文学部伝統文化講座 (TDB) プロジェクト	文学部	本学学生、一般市民	10・11・12月に「能楽」「聲明」「新内節」の3公演を実施した。国際化の時代において、日本の伝統芸能に直接触れる機会を持つことは、学生にとって極めて大事なことであり、文学部では授業の一環として、解説とともに実演を行っている。	文学部教務課(文学部長)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
157	井上円了記念博物館特別展①	井上円了記念博物館	本学学生、一般	本学が所蔵する井上円了の書を展示。あわせて、常設展において、宇田川義晴名誉教授から寄贈された六曲一双の書屏風「欧米客中作」の右隻を展示	文学部教務課(井上円了記念博物館館長)
158	井上円了記念博物館特別展②	井上円了記念博物館	本学学生、一般	井上家伝来の勝海舟の書軸をはじめ、井上円了にゆかりのある人物の紹介とその書跡の展示を行った。あわせて、常設展において、宇田川義晴名誉教授から寄贈された六曲一双の書屏風「欧米客中作」の左隻を展示	
159	無料法律相談	無料法律相談部	一般市民	埼玉県朝霞市産業文化センターにて年3回、茨城県常総市役所にて年1回、市民を対象とした無料法律相談を実施した。活動内容は、部員による事実関係の聞き取りと、教員による回答からなる。	法学部教務課(無料法律相談部)
160	常総市公文書レスキュー	早川ゼミ	常総市役所	2015年9月の関東・東北豪雨により被災した常総市役所の公文書のレスキュー(文書復旧)活動。具体的には被災公文書の整理を行った。	法学部教務課
161	I 世田谷区との協働研究 II 和光市との協働研究	福祉社会開発研究センター・世田谷区・和光市	世田谷区・和光市の住民及び関係職員	母子家庭や高齢者が安心して暮らせるコミュニティをつくるため、ネットワークやシステムの構築や、関係職員の研修開発プログラムづくりに協力している。	研究推進課(森田 明美：福祉社会開発研究センター員)
162	公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	東洋学研究所	研究所所属の研究者・学生・教員、学外一般の方々。研究機関の所属は問わない。	広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所定例の研究発表例会、共同研究のプロジェクトにおける研究発表会やパネルディスカッション、講演会、シンポジウム等を公開としている。また、学外の研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催し、東洋学の研究の公開に努めている。	研究推進課(相楽 勉：東洋学研究所長)
163	井上助成「グローバル時代の歴史学——社会史・文化史を再考する」	人間科学総合研究所	全国大学および高校教員、出版業界等民間企業、一般市民	グローバル化のすすむ21世紀において、新たな局面を迎える社会史・文化史の展開を振り返り、歴史学の今後の可能性について考察することを目的とする。歴史研究の国際化・学際化を重視し、グローバル化の進行する時代における歴史の問題を考察し、長期的にはグローバル化の進行する時代において必要とされる人間形成の根拠を生み出していくような歴史認識を広く人々の間に作り出していくことに貢献する。	研究推進課(続 三義：人間科学総合研究所長)
164	「アウトリーチによる相談支援および相談員研修活動」	人間科学総合研究所	国内外の発達相談を担う相談員	心身の障害や疾病をもつ子どもや成人、被災地の子どもなど、相談機関に向くことが難しい遠隔地や被災地などの地域で相談支援を求めている人たちへの相談支援をアウトリーチで行うこと、また発達相談に携わる教育・福祉施設職員に対する研修をそうした地域へ出向き行うことで、専門的な支援が届きにくい地域での教育・福祉の効果的な支援方法を検討する。研究員ならびに研究分担者を現地に派遣し、実践的な相談者支援活動および研修を実施する。	
165	若手研究チーム「子どもの権利条約の具体化に関する研究」	人間科学総合研究所	本学教員、院生、一般参加者	子どもの権利条約の具体化とその課題を検討する公開研究会を実施し、社会啓発につとめる。	
166	人間科学総合研究所付置施設「発達臨床相談室」	人間科学総合研究所	近隣住民、一般相談者	人間科学総合研究所付置施設として人間科学総合研究所内に設置。現研究所の前身である「発達臨床研究所」さらには「児童相談室」を引き継ぐ。研究所の目的の一つ、「人間の生涯発達に関する諸問題(カウンセリングを含む)について総合的な研究を行う」ことを目的としている。	

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
167	ICT教育研究プロジェクト	現代社会総合研究所	本学部教職員・関連企業、佐賀県武雄市小中学校、本学学生他	本年度、本研究所は高等教育におけるICT教育推進の必要性や効果を検証するスキームの研究を進めてきた。教育全般の教育目標やアクティブラーニング等の教育方法とICT/AIの活用について総合的に明らかにする。	研究推進課(齋藤 洋:現代社会総合研究所長)
168	現代社会総合研究所(AIプロジェクト)	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連企業・団体、一般参加者等	社会科学分野において独創性ある研究・調査を研究分野ごと、総合的にを行い、広く社会の発展に寄与することを目的としている。研究テーマを、「環境」「情報」「法律」「地域経営」「シーズ」とし、研究を進めている。	
169	地方創生に関わるグローバル戦略研究会(海外水ビジネス研究会)	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連企業・団体、一般参加者等	①海外水ビジネスの市場において、日本が諸外国と競い合う為の方策を探る。②水の価値高騰を抑え、民間的手法を活用した経営を目指す。③水道創設に際し途上国における民間的手法を活用したPPP事業の実施方策を研究	
170	スポーツの現代的課題(アスリートのセカンドキャリア)	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連団体、競技者および関連者等	東洋大学でアスリートとして活躍し、現在は異なる職業に就いている卒業生を対象にインタビュー調査を行い、アスリートのキャリアに関する具体的な問題と解決の為、必要な取組を探索する事を趣旨とする。	
171	2019年度研究所学術活動(Seeds支援研究)	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連企業・団体、一般参加者等	本研究会は、近年、国内外でインド太平洋地域におけるグローバルな広義の安全保障問題が重要視されてきている中で、当該地域の分析枠組みが必要であるという認識の下、当該「分析枠組みの構築」を目指すことを目的としている。	
172	「ナリッジスペース研究会」	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連企業・団体、一般参加者等	本研究会は、法学・経済学・社会学などの社会科学分野における研究手法の学際化を図り、他の研究分野との協働によって新たな知見を開くことを目的としている。	
173	「国際家族法研究会」	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外有識者、関連企業・団体、一般参加者等	本研究所は日本と各国の家族法、特にアジア地域における家族法の比較方法を模索しながら進める予定である。将来はジェンダー問題まで含む総合的研究に発展させる予定である。	
174	「超高齢社会の医療と介護に関する研究会」	現代社会総合研究所	本学教職員・学生、学外研究者、関連団体、一般市民等	介護について労働・ジェンダー、グローバル化の観点から検討。介護労働力の人材不足を明らかにし介護サービス市場を取り巻く社会の有様について理解と課題の明確化及びコンセンサス形成、問題解決策への提案を行う。	
175	アジア文化研究所公開国際シンポジウム「The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam: Reconsiderations on 100th Anniversary of Paris Peace Conference (1919) 日本の中東イスラム政策の原点—パリ講和会議100周年を契機として—」	アジア文化研究所(「日本の博覧会におけるアジア表象の推移—日本国際万国博覧会50周年を契機として—/ The Images of Asia in the Japanese Exhibitions: Discussions on the 50th anniversary of the Expo 1970 in OSAKA」代表: 後藤武秀)	研究所所属の研究員、客員研究員、院生研究員、トルコからの招聘者、ほか学外一般	本公開国際シンポジウムでは、2019年が第一次世界大戦終結パリ講和会議100周年であったことから、トルコを含むアジア側からこの世界大戦の持った意味、平和体制の問題等を、本学教員のほかトルコからも研究者を招き講演を行った。2日開催されたうちの1日目は、専門知識がなくてもわかるよう、レクチャーを兼ねた講演がなされ、関係者、学生のみならず一般にも公開された。	研究推進課(後藤 武秀:アジア文化研究所長、三沢 伸生:アジア文化研究所研究員)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
176	アジア文化研究所 公開シンポジウム「中国史研究と史料利用の現況—漢籍・石刻・檔案—」	アジア文化研究所(井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト「東洋大学に所蔵される中国語諸史資料のデータベース構築と開発活用」 研究代表: 千葉正史)	研究所所属の研究者、客員研究員、院生研究員、ほか学外一般	本公開シンポジウムでは、主として歴史研究の側から、中国語諸史資料の利用・活用方法について、研究者間における問題意識の共有を図るとともに、広く中国学を専攻する学生や一般の方へ周知することを目的に実施した。	研究推進課 (千葉 正史: アジア文化研究所研究員)
177	アジア文化研究所 第1回研究例会「中国経済のグローバル化と経済発展」	アジア文化研究所(「構造転換期の中国経済と社会」研究班 代表: 郝仁平)	研究所所属の研究者、客員研究員、院生研究員、ほか学外一般	本研究例会では「中国経済のグローバル化と経済発展」と題し、本学教員のほか海外より薛軍先生(南開大学グローバル経済研究センター長) および郝雲宏先生(浙江工商大学マネジメント学部長) にご講演いただいた。関係者、学生のみならず一般にも公開された。	研究推進課 (後藤 武秀: アジア文化研究所長、郝 仁平: アジア文化研究所研究員)
178	アジア文化研究所 第2回研究例会「一带一路構想の進展と地域開発」	アジア文化研究所(「構造転換期の中国経済と社会」研究班 代表: 郝仁平)	研究所所属の研究者、客員研究員、院生研究員、ほか学外一般	本研究例会では「一带一路構想の進展と地域開発」と題し、海外より賈明德(西北大学副学長)、王満倉(西北大学教授)、林興(福建江夏学院大学講師・東洋大学外国人客員研究員) にご講演いただいた。関係者、学生のみならず一般にも公開された。	研究推進課 (後藤 武秀: アジア文化研究所長、郝 仁平: アジア文化研究所研究員)
179	省インフラ研究会	PPP 研究センター (代表氏名: PPP 研究センター長・根本祐二)	民間企業	インフラの原単位を引き下げる技術やシステムの総称である「省インフラ」を普及させることが目的。民間企業約30社による会費制。各社の「省インフラ」技術を行政に伝えて、行政の効率性を高めるとともに民間企業にとってのビジネスチャンスを拡大することが目的。本学が企画運営事務局を担当	研究推進課
180	国際共生社会研究センター 「アジア・アフリカにおけるグローバル化時代の国際貢献手法の開発」	国際共生社会研究センター	利用者・参加者(研究者: 本学国際学部教員1名、招聘者3名)、受益者(学生・社会全体)	文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として、「アジア・アフリカにおけるグローバル化時代の国際貢献手法の開発」を目的に設立されている。設立にあたり、東洋大学からは申請時点における補助や、研究補助をいただいている。	研究推進課 (北脇 秀敏: 国際共生社会研究センター長)
181	大学等と連携した観光経営人材育成事業	国際観光学部	東京都在住・在勤で観光事業に従事している社会人	2018年度より東京都と連携して事業を行っている。本学は、地域活性化に不可欠なインバウンド観光を中心に講義・ワークショップ・現地見学等を通じて、観光地域づくりに役立つ知識やネットワーク構築の機会を提供した。	産官学連携推進課 (森下 晶美: 国際観光学部)
182	講演会「生物のすごさを科学で知る!」	水走プロジェクト	小学生・中学生・高校生および一般社会人	8月19日～9月20日まで文部科学省エントランスにおいて、競技用国産カヌー「水走」を展示した。これに伴いバイオミティクス(生物模倣)に関する内容について、小学生から一般社会人を対象に講演会を開催した。	産官学連携推進課 (望月 修: 理工学部)
183	文京博覧会(ぶんぱく)参加	学生団体 Smile F LAOS	一般市民	文京区では、区内の中小企業、産業団体等が一堂に会して展示、実演、物販などを行う文京博覧会(通称: ぶんぱく)を開催している。本学はここ数年、学生団体に依頼しラオスコヒーを販売している。	産官学連携推進課 (Smile F LAOS)
184	北区学生プレゼンコンテスト参加	経営学部・経済学部ゼミ	北区内商店街・中小企業	大学生によるプレゼン大会「魅力発見! 北区東京 学生プレゼンコンテスト2019」は2019年度で4回目の開催であり、大学のゼミ学生と北区内の商店街・中小企業が協力し、区内商工業をPRする企画。今年度のテーマは「梶原銀座商店街の魅力発信」	産官学連携推進課(経営学部・経済学部ゼミ)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
185	東北応援プロジェクト(TOP)	本学	学部生	学生ボランティアセンターが企画立案し東洋大学からの援助により実施している。※2019年度春季ボランティアについてはコロナウイルスの影響により大船渡2月24日～29日以外の日程を中止とした。	学生支援課(学生ボランティアセンター)
186	江の島海岸清掃ボランティア	本学	学部生	学生ボランティアセンターが企画立案し東洋大学のサークル援助により実施している。	
187	富士山清掃ボランティア	東洋大学学生課外活動育成会	学部生	学生ボランティアセンターが企画立案し東洋大学学生課外活動育成会からの援助により実施している。	
188	山古志ボランティア	東洋大学学生課外活動育成会	学部生	平成16年に発生した新潟県中越地震の災害ボランティアとして平成17年から教職員・学生が派遣されました。平成20年からは学生ボランティアセンターが企画立案し、東洋大学学生課外活動育成会からの援助を受けて、山古志地区の活性化の促進し、山古志の復興を目的としたボランティアを実施している。	
189	菅平高原カントリーフェスティバルボランティア	東洋大学学生課外活動育成会	学部生	学生ボランティアセンターが企画立案し、東洋大学学生課外活動育成会からの援助により実施している。	
190	里山保全ボランティア	東洋大学学生課外活動育成会	学部生	学生ボランティアセンターが企画立案し、東洋大学学生課外活動育成会からの援助により実施している。	学生支援課(東洋大学里山保全の会)
191	熊本地震夏季ボランティア	本学	学部生	大学にて各学部生が活動に参加できるよう企画立案し、東洋大学学生課外活動育成会からの援助により実施している。	学生支援課
192	国際ボランティア活動支援	東洋大学学生課外活動育成会、学生支援課	学部生	本学学部生が海外での社会貢献活動を通じ、異文化に触れ、多種多様な考え方を持つ人との交流を促すことを目的として、海外でのボランティア活動に参加する学生を支援する。※春対象者のうち8名はコロナウイルスの影響により活動中止の為対象から外した。	
193	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊(総合情報学科小瀬教授、川越事務部、川越事務部総務課)	一般市民、本学学生・教職員	一般市民、本学学生・教職員が協働で川越キャンパス内の森林保全活動を行っている。また、学外者を対象とした木工教室、学外での環境イベント出展等の活動を行っている。	川越事務部・川越事務部総務課
194	第23回 東洋大学・鶴ヶ島市連携スポーツ講習会	鶴ヶ島市	川越市および近隣の住民	「ジョギングとランニングへの一歩」をテーマとして、酒井俊幸氏(陸上競技部)が正しい体の動かし方やスポーツとしてのランニングへの取り組みを解説した。鶴ヶ島市教育委員会との共催	川越教学課(理工学部・小河 繁彦)
195	川越大学間連携講座	川越市	川越市および近隣の住民	「一流の脳と心の育て方(科学と心理学が教えてくれる学習法)」をテーマに、情報学習モデル、情報デザインの構築方法について講義した。川越市文化芸術振興課が主催	川越教学課(総合情報学部・加藤千恵子)
196	川越サマースクール	理工学部・総合情報学部	川越市および近隣の小・中学生、参加者の保護者	川越市及び近隣の小・中学生に、実験や工作を通じて、工学やものづくりへの関心を育んでもらうことを目的とした企画	川越教学課(理工学部・総合情報学部)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
197	川越市小・中・大学 連携理科ふれあい事業	川越市教育委員会	川越市立小学校	各小学校長の依頼により本学教員を派遣。子どもたちの理科に対する興味・関心や知的好奇心を醸成することを目的とし、児童生徒に対する理科実験・実習を行う。 川越市立小学校において、理科、特別活動、総合的な学習の時間等で実施される取り組み。	川越教学課(理工学部・藤松 信義)
198	工業技術研究所 講演会・技術懇話会	工業技術研究所 (一社)さいしんコラボ 産学官(埼玉縣信用金庫)	一般市民、企業	「通信技術が拓く新しい世界」をテーマにした講演会並びに技術懇話会(大学研究者と企業の交流会)を実施	川越・研究推進課 (篠永 英之:理工学部・工業技術研究所)
199	工業技術研究所 研究発表会	工業技術研究所	企業	企業等との産学連携活動の推進を目的とする研究発表会(パネル展示)を実施	川越・研究推進課 (工業技術研究所)
200	デジタルエンジニアリングアカデミー	工業技術研究所 武蔵野銀行	企業	工業技術研究所と武蔵野銀行の共催による、新技術の自社導入を目指す企業を対象とした連続講座。 今年度は「ものづくりのためのIoT技術を学ぶ」、「ものづくりのためのCAE」の2テーマで、企業を対象とする講演や実習、企業見学等を実施	川越・研究推進課 (松元 明弘:工業技術研究所)
201	技術相談	工業技術研究所	企業、自治体	企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談に応じている(無料)。	川越・研究推進課(工業技術研究所研究員)
202	出張講座	工業技術研究所 一般社団法人日本インダストリアルイメージング協会	企業	日本インダストリアルイメージング協会主催のセミナー「名雲塾」にて会員企業向けに出張講座を実施	川越・研究推進課 (松元 明弘/松本 潔:工業技術研究所)
203	中核人材育成講座	産学協同教育センター	企業、自治体	企業の将来を担う若手人材の教育・技術向上を目指した、最新の学問・技術の講義・実習(有料)を実施。 また、一部の講座実施にあたっては、「産・官・学連携促進事業」を同時開催し、近隣自治体の関係部署担当者に無料で講座に参加いただいた。	川越・研究推進課 (福手 勤/武市三智子/島田 裕次/横田 祥/佐野 勇司:産学協同教育センター)
204	環境実習	産学協同教育センター 埼玉県産業労働部	県内高等技術専門学校(学生)	埼玉県産業労働部産業人材育成課からの依頼に基づき、埼玉県立中央高等技術専門学校、埼玉県立川口高等技術専門校の学生に対して、室内環境に関する講義・測定や施設見学を実施	川越・研究推進課(イムونس:理工学部)
205	大学シーズ発掘ツアー	公益財団法人埼玉県産業振興公社	企業	埼玉県内の企業を対象に、施設見学、意見・情報交換会を実施	川越・産官学連携推進課(加藤 和則・花尻 達郎・窪田 佳寛:理工学部)
206	子ども大学あさか	朝霞市教育委員会・特定非営利活動法人アンサーズネット・一般社団法人朝霞青年会議所・東洋大学	朝霞市の小学4～6年生	子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもの育てるため、大学のキャンパス等を会場に、大学教授や地域の専門家等が講師となり、子どもの知的好奇心を刺激する「はてな学」「ふるさと学」「生き方学」という3つの分野の講義や実習体験を提供する事業。 大学生がボランティアとして多数参加し、子どもたちを全面的にサポートしている。	朝霞事務課(ライフデザイン学部)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
207	高校教員を対象としたバイオテクノロジーおよび理科教育実験講座	本学	高校教員	高等学校における理科教育の充実に貢献し、現代の中高生の理科離れ解消の一助とするため2003年度より毎年開催している。バイオテクノロジー技術の実体験等を通して、高等学校現場で対応可能な実践的実験指導力の向上を目指すものである。	板倉事務課(一石 昭彦・道久 則之・高品 知典：生命科学部、食環境科学部)
208	サイエンスカフェ	板倉町・館林市・本学	地域住民	コーヒーを飲みながら科学について気軽に語り合うサイエンスカフェは、地域連携の一環として、キャンパス周辺の群馬県館林市、板倉町と共同開催で実施している。	板倉事務課
209	板倉町小学校理科実験	板倉町・本学	板倉町立小学校(東西南北)	「板倉町」との連携事業として、児童の学問に対する興味を喚起するとともに、将来の夢を育むことなどを目的として実施している。	板倉事務課(高品 知典：生命科学部)
210	中高年女性を対象とした運動教室 うえるすば	地域活性化研究所 板倉町保健センター	板倉町在住中高年女性(40～70代)、学生	運動の面白さを発見し、運動習慣獲得支援を行うために、週1回のペースで運動教室を9月～11月に開催。今年度も12月～2月まで、継続運動教室を月2回のペースで追加実施。学生にも運営協力ボランティアを依頼し、生涯教育の場を設けている。	板倉事務課 (高橋 珠実：地域活性化研究所)
211	板倉町地域活動支援センター利用者を対象とした運動教室	地域活性化研究所 板倉町地域活動支援センター	板倉町地域活動支援センター利用者および職員、学生	障がい者は、様々な問題から運動する機会が少なく、より深刻な健康問題を抱えている現状があることから、板倉町地域活動支援センター利用者の健康管理能力およびQOL向上を目的とした運動教室を定期的実施	
212	スポーツの面白さ再発見！ 親子でオリンピック・パラリンピック種目体験会	館林市 本学	館林市近隣在住小学生 親子	東京オリンピック・パラリンピックを控え、オリンピック種目のトランポリン、パラリンピック種目のマラソン(視覚障がいクラス)、ゴールボールの体験会を行った。	
213	群馬県若い世代食育推進協議会実践活動	食環境科学部健康栄養学科	地域住民・板倉東小学校児童	群馬県若い世代食育推進協議会の活動の一環として、群馬県の食文化や食育について学ぶことを目的とし、大学祭「雷祭」にて、「みんなで鍋を囲もう!!」を実施した。内容としては、群馬県産の食材を用い、すき焼き作りを実践、すき焼きについての講話や食育についてのゲーム、すき焼きの実食等を通して、群馬県の郷土の食文化を学び、大学生との共食を通じて、食の楽しさについても体験した。	板倉事務課 (井上 広子：食環境科学部)
214	北区商店街における外国人観光客誘客のための調査・研究	地域活性化研究所 北区	北区商店街等	Google マップ並びに Google マイビジネスを活用した北区商店街のデジタルマーケティングのサポートを行った。北区のいくつかの商店街を対象に店舗情報登録のサポートを行った。加えて、登録マニュアルを希望した各店舗へ配布することで、デジタルマーケティングへの参画を促した。	板倉事務課(中挾 知延子：地域活性化研究所)
215	「私が考える食育」作文コンテスト	食環境科学部	全国の高校生	高校生が「私が考える食育」に関する作文を書き、大学生が論評を付記して返却する。優秀な作品には表彰式で賞状等を授与する。また、その後に関大連携意見交換会を催すという高大連携プログラムである。	板倉事務課(食環境科学部)
216	北区小学校プログラミング教室への本学部学生派遣	北区立赤羽台西小学校、北区立王子第一小学校	北区立赤羽台西小学校児童、北区立王子第一小学校児童	北区立赤羽台西小学校および北区立王子第一小学校で開催されたプログラミング教室に、情報連携学部学生を派遣し、運営のサポートを行った。	赤羽台事務課(情報連携学部)

No.	事業名称	事業実施主体	対象者	事業内容	事務局等
217	文京区・板橋区・北区民への白山図書館開放	白山図書館	文京区・板橋区・北区在住の18歳以上の社会人	学生の夏季休暇中及び春季休暇中に文京区・板橋区・北区民を対象として白山図書館の利用を許可している。	図書事務課(白山)
218	所蔵資料展	白山図書館	本学教職員、学生、一般市民	2019年11月8日(金)～11月13日(水)。井上円了没後100周年記念事業図書館特別展示。「見せたことないウチの図書館所蔵展 あなたに見せたい井上円了!」概要：本学の学祖井上円了に関する図書館所蔵資料の展示	
219	近隣3市市民への川越図書館開放	川越図書館	川越市・鶴ヶ島市・坂戸市のいずれかの市立図書館の利用証(利用カード)を所有する中学生以上	近隣に在住・在勤・在学している市民を対象として閲覧利用を許可している。通年で利用可能(試験期の7月・1月を除く)。	図書事務課(川越)
220	近隣4市市民への朝霞図書館開放	朝霞図書館	朝霞市、志木市、新座市、和光市に在住、または在勤・在学している中学生以上	近隣に在住・在勤・在学している市民を対象として閲覧利用を許可している。通年で利用可能(試験期の7月・1月を除く)。	図書事務課(朝霞)
221	近隣地域市民への板倉図書館開放	板倉図書館	邑楽郡・館林市・古河市・栃木市に在住、または在勤・在学している中学生以上	近隣に在住・在勤・在学している市民を対象として閲覧利用を許可している。通年で利用可能。	図書事務課(板倉)
222	哲学堂公園講座Ⅱ	本学・中野区(指定管理者)	一般市民(受講者)	中野区(指定管理者)との連携事業。哲学堂公園の歴史や創設者井上円了博士等をテーマに講座を年2回(秋・春)開催。初めての来園者だけでなく、公園ガイド養成・育成をも目的とした内容で実施する。中野区(指定管理者)が募集・運営を担当し、本学は講師を派遣。※年2回のうち、春(3月15日予定)については、コロナウイルスの影響により中止となる。	エクステンション課



社会貢献活動「国際協力」 Pick up-1

社会貢献活動「フェアトレード (2)」

事業実施主体：学生国際協力団体 Smile F LAOS

本学担当者：箕曲 在弘(社会学部 准教授)

◆事業概要

社会学部社会文化システム学科では特色ある教育科目として「社会文化体験演習」を開講しています。2分野ある同演習のうち、〈キャリア分野〉では、学生国際協力団体「Smile F LAOS」を立ち上げ、ラオス人民民主共和国で生産されたコーヒーを日本で製造販売し、東洋大学生や白山地域の人びとに対して、ラオスやフェアトレードについて身近に感じてもらうプロジェクトを実施しています。

同団体では、毎年12月末にスタディツアーを開催し、メンバーが実際にラオスのコーヒー生産者のもとを訪れ、生産者家族の家計調査を行い、フェアトレードがどのように現地社会に貢献しているのかを学ぶ機会を設けています。一方、生産者の家に宿泊させてもらい、収穫を体験するなど、生産者の生活を内在的に理解できるツアーを実施しています。

このツアーに参加したメンバーたちは、帰国後、自分たちがどのように現地社会に貢献できるかを考え、毎年、コーヒー販売の収益を使った支援プロジェクトを企画立案しています。

2014年度以降、4つの小学校の衛生環境や読書の環境を改善するプロジェクトを毎年立ち上げ、さまざまな支援品を寄贈したり、ワークショップを行ったりしてきた。これまでオリジナルを含む数々の絵本の寄贈、日本の「算数ボックス」や「すごろく」のラオス版を作成するなど、生徒の学習に役立つものや教員向けの補助教材を制作・寄贈することになっている。

一方、販売しているコーヒーは、希少な種で比較的高値で取引されているアラビカ種ティピカを使用しています。なおかつ、1本の木から約5%程度しか収穫できないピーベリー(丸豆)という貴重な豆を100%使用しています。これらは学生自らが事業計画書を作成し、販売コンセプトを考え、プロのデザイナーや焙煎業者と協力しながら、製品を作り上げてきました。この過程でメンバーは、ソーシャル・ビジネスを内在的に体験し、その難しさを感じながら、社会に貢献していく姿勢を学んでいます。

2014年以降、120～150kgの生豆を販売し、毎年約50万円を売り上げ、毎年支援プロジェクトを実施するための目標金額を達成している。

年次報告書をご希望の方は、社会文化システム学科の箕曲在弘へ(minoo@toyo.jp)

◆事業の様子



現地渡航



販売の様子

※写真は過年度のものです。



社会貢献活動「産官学民連携」Pick up-2

「イノベーション・ジャパン2019」に、東洋大学の研究成果を出展しました。

会期 : 8月29日(木) 10:00 ~ 17:30
8月30日(金) 10:00 ~ 17:00
場所 : 東京ビッグサイト(青海展示棟 B ホール)
主催 : 科学技術振興機構(JST)
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

◆事業概要

2019年8月29日(木)・30日(金)に東京ビッグサイト青海展示棟で開催された「イノベーション・ジャパン2019～大学見本市&ビジネスマッチング～」に、東洋大学から組織展示とシーズ展示に研究成果を出展いたしました。

イノベーション・ジャパンは、研究成果を産業に結びつけるきっかけの場として、400を超える大学とベンチャー企業などが参加し、毎年2万人以上の企業関係者が来場する、国内最大規模の産学マッチングイベントです。

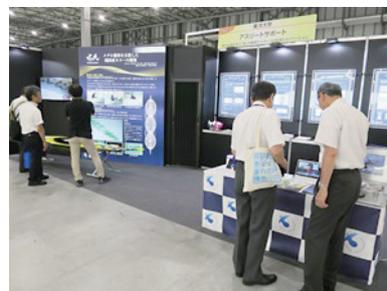
全国の大学による多くのエントリーの中から、JSTによる厳正な審査を経て採用された研究成果が出展され、本学からは以下の研究成果が採用となりました。

●組織展示：出展テーマ

アスリートサポート 総合大学がもつ「知」の集積でスポーツと社会にイノベーション (小間番号：U-08)
責任者：理工学部生体医工学科 寺田 信幸教授

東洋大学では、「スポーツを「哲学」し、人と社会と世界をむすぶ」をテーマに東洋スポーツビジョンを掲げております。これは2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、学部やキャンパスの枠を越えて、すべての学生が参画可能なムーブメントを構築すべく、スポーツを通じた教育・研究活動や社会貢献活動を実施しています。イノベーション・ジャパン2019では「暑熱ストレス」「女性アスリート」「熱中症」「キュレーティングストレスコーピング」をテーマの中心に展示しました。

8月29日には同会場において寺田信幸教授による組織展示内容のプレゼンテーションが行われました。



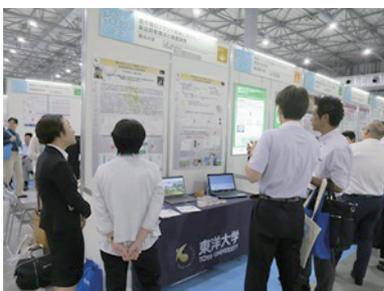
●シーズ展示：出展テーマ

《ライフサイエンス》

農作物のブランド開発に向けた新品質管理法と装置開発(小間番号：L-23)

食環境科学部食環境科学科 宮西 伸光教授

現在、世界中の各国が自国の農作物をブランド化し、世界中に様々な農作物を販売しています。日本も他国と同様に独自の農作物を栽培し日本ブランドとして各国に輸出していますが、グローバル化に対応した日本のブランド力強化は他国の勢いに押されている傾向があり、新たな日本ブランドの開発やブランド力強化を望む気風が高まっています。農作物のブランドの開発や強化を行うためには、それらの品質を新しい視点(方法)で評価・管理することが大切です。今回はイネを例に新しい品質評価方法の開発とその利用方法について提案しました。



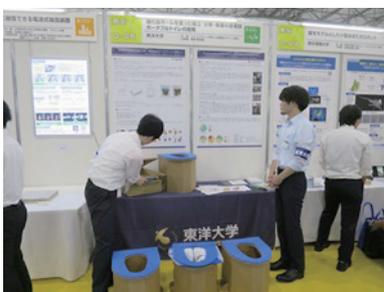
●シーズ展示：出展テーマ

《防災》

強化段ボールを使った組立・分解・廃棄の容易なポータブルトイレの開発(小間番号：D-05)

ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 繁成 剛教授

大規模災害が発生した直後には停電や断水のためトイレで排泄することが困難になります。そこで簡単に組み立てが可能な強化段ボール製ポータブルトイレを開発しました。災害時に自宅や避難所等で、ポリ袋や使い捨てパックをこのトイレの便座にセットし、排泄後に、固形剤などを入れて廃棄します。部品を分解すれば43×38×12cmのサイズに収まるので備蓄にも適しています。





社会貢献活動「キャリア教育・生涯学習・哲学教育」Pick up-3 農業体験実習（野菜の収穫）を実施しました。

事業実施主体：JA 邑楽館林

本学担当部局：生命科学部

◆事業概要

2020年1月17日(金)に野菜の収穫体験会を実施しました。

生命科学部では、農業体験実習を継続的に行ってきました。今回も、JA 邑楽館林様にご協力いただき、生命科学部の学生など20名がイチゴとハクサイの収穫を体験しました。

まずは多々良フレッシュファーム様ではイチゴの高設栽培やIoTでハウス内の環境をモニターする取組事例を見学し、栽培されている4種類のイチゴを食べ比べしました。その後、邑楽町のハクサイ農家様の圃場を訪問し、ハクサイの収穫と箱詰めを体験しました。台風や異常気象など気候変動下で栽培方法や収穫時期を細かく調整していることや、生産者の高齢化人手不足についてお話を伺いました。最後に、農産物直売所「ぼんぼこ」を訪問し、生産者の顔が見えるように野菜を消費者に届けるしくみについて学びました。

参加した学生からは「スマート農業や外国人技能実習制度などニュースで耳にする話題を実際の問題として捉えることができた」「農家さんの生の声を聞くということで、普段知り得ないバックグラウンドなど貴重なお話を聞いた」などの感想が寄せられました。

生命科学部では、生命科学の基礎研究から「農」へのつながりを意識した教育・研究を行っています。

◆事業の様子





社会貢献活動「地域貢献・振興」Pick up-4

埼玉県和光市で政策提言を発表しました。

事業実施主体：埼玉県和光市

本学担当部局：経済学部

◆事業概要

2020年2月4日(火)、埼玉県和光市で政策提言を発表しました。発表を行ったのは、1月6日に開催した2019年度東洋大学経済学部政策提言発表会で、きわめて実現可能性の高い提言として最優秀賞を受賞した「和光市における買い物難民対策チーム」の4年生3人です。

この提案は、埼玉県内で買い物難民比率がもっとも高い和光市において、高齢化が進んだ地区の公共施設をミニスーパーに改装するアイデアを、市及びミニスーパー運営企業数社に提示し、両者の条件を満たす可能性の高い施設を絞り込んだものです。そして、この提言を実現することで、最終的には、買い物難民比率の大幅な引き下げ、市にとっての施設維持管理費の削減、民間にとって採算が取れることのそれぞれに合理性があることを示しました。

和光市からは、この提言の途中段階で何度も意見交換を行い、1月6日の発表会にもご参加いただきました。

それをきっかけに、市から来年度も何らかの提言を検討してほしいとの要請を受けており、2月4日には、来年度の提言の主力になる現2年生チーム(当日は5人出席)も参加して、来年度の提言の構想を発表しました。同チームは、和光市の課題を子育て世代の大幅な転出にあると分析したうえで、必要な政策を、米国で盛んに用いられている市民参加手法であるアセット・マッピングを用いて、市民協働で検討しようというものです。

例として、人口密度マップ、ハザードマップ、授乳所や子ども用品店舗など子育て支援施設マップなどを重ねて和光市の特徴を考えました。学校周辺でひったくりなどの犯罪が多いなど意外な特徴が示されました。4月以降、市民参加で地図作りや地図重ねのワークショップを行う計画です。

当日は、和光市の松本武洋市長のほか、担当の企画部の部長さん以下の職員の皆さんにご参加いただきました。

4年生と2年生がそれぞれ発表後、「様々な角度から掘り下げていて参考になる」、「学生の提案で実践に結び付くのは素晴らしい」、「市の職員が気づいていても声に出せないことを言ってもらっている感じ」、「アセット・マッピングはとても興味深く楽しみにしている」など暖かいコメントのほか、「坂道が多いことをどう考えるか」、「子育て世代を増やす政策が必要かどうかは別問題」という本質的なコメントもいただきました。

政策提言は、アイデアを考えること自体決して簡単なことではありませんが、それにとどまらず、提言先に直接接して意見をもらい、受け入れられやすいように改善して、実現可能性の高いレベルに引き上げることを目標にしています。総合政策学科では、学生のうちにこうした得難いチャンスを掴めるよう実践教育を提供しています。

◆事業の様子



写真1 2019年度政策提言資料



写真2 2020年度政策提言構想資料



写真3・4 参加学生、松本市長、指導した根本祐二教授



社会貢献活動「高大連携」Pick up-5

生命科学部・食環境科学部主催 「2019年度高校教員を対象としたバイオテクノロジーおよび理科教育実験講座」を開催しました。

対象者 : 高校理科教員
事業実施主体 : 生命科学部・食環境科学部
本学担当者 : 一石 昭彦(生命科学部 教授)
道久 則之(生命科学部 教授)
高品 知典(生命科学部 准教授)

◆事業概要

2019年7月31日に生命科学部・食環境科学部主催「高校教員を対象としたバイオテクノロジーおよび理科教育実験講座」を板倉キャンパスで開催しました。

生命科学部・食環境科学部では、高等学校における理科教育の充実に貢献し、現代の中高生の理科離れ解消の一助とするために、本講座を2003年より毎年開催しています。

バイオテクノロジー技術の実体験等を通して、高等学校現場で対応可能な実践的実験指導力の向上を目指し、群馬県、栃木県、埼玉県、茨城県のほか、全国の高校理科教員17名が参加しました。

今回の講座では、「ホタル発光酵素“ルシフェラーゼ”を用いた酵素活性の測定」をテーマに実施しました。

本学教員の一石昭彦教授(生命科学部生命科学科)、道久則之教授、高品知典准教授(生命科学部応用生物科学科)による講義や実験指導の他、学部4年生5名が実験の補助を行いました。

参加した高校教員は、実験の進め方や指導方法に熱心に耳を傾けられていました。「整った施設で実験ができ、専門の先生の講義も分かりやすく、大変勉強になりました」「改めて実験を行う楽しさに気づくことができた」「授業に導入できそうな内容でありがたかったです」などコメントをいただきました。

高校の授業にも取り入れられそうな実験についてなどの多くの相談が寄せられ、教育現場の発展につながる機会となりました。

◆事業の様子





社会貢献活動「社会福祉」 Pick up-6

東京都北区で児童虐待防止を呼びかける「オレンジリボンキャンペーン」を実施しました。

対象者 : 東京都北区住民、一般市民
事業実施主体 : ライフデザイン学部 南野ゼミ・高橋ゼミ
本学担当者 : 南野奈津子(ライフデザイン学部 教授)
高橋 直美(ライフデザイン学部 教授)

◆事業概要

東京都北区で児童虐待防止を呼びかける「オレンジリボンキャンペーン」を実施しました。ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の学生(南野奈津子ゼミ、高橋直美ゼミ)12名が、2019(令和元)年11月13日(水)16時から東京都北区の赤羽スズラン通り商店街でオレンジリボンキャンペーンを実施しました。

学生によるオレンジリボン運動は、若者が子どもの虐待のない社会の実現を目指す「オレンジリボン運動」を実施することで、児童虐待に関する知識を深め、児童虐待問題への理解を深める契機とするとともに、周りの若い世代にも児童虐待問題に関心を持ってもらうことを目的とする運動です。

当日は空模様が心配されましたが、キャンペーンカラーのオレンジ色のジャケットを着用した学生たちが道行く人一人ひとりに、「児童虐待防止キャンペーンを行っています。ご協力お願いします。」と笑顔で声をかけ、オレンジリボンの説明や談笑をしながら、東京都児童虐待防止推進キャラクターの「OSEKKAI くん」とともに、意識啓発リーフレットやグッズを手渡しました。

参加した学生は、「いろいろな人とふれあえて楽しかったです。これを機会にさらに児童虐待やその防止法に関する学びを深めたいと思います。」「初めての参加で緊張しましたが、とても有意義でした。このような活動があれば、積極的に参加したいと思います。」と熱く語っていました。

◆事業の様子



学生がグッズを配布している様子

地域活性化活動支援の概要

当該年度は19企画が応募され、社会貢献センター運営委員会にて選考を行った結果、19企画が採択となった(内1企画中止)。概要は以下のとおりである。

1. 事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

2. 支援金額及び採択件数の目安

	(1) 地方創生コース	(2) 地域貢献コース
概要	キャンパスから100km以上の地方において、地域活性化活動を対象。 学生の参加見込み人数は、原則として5人以上であること。	キャンパスから100km未満の地域において、社会貢献・地域貢献を対象。
支援金額	1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、30万円を上限。	1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、5万円を上限。
対象経費	経済的かつ合理的な交通経路を選択したうえで、特急・新幹線、空路及び貸切りバス等を利用した際の交通費及び宿泊費。	活動に必要な消耗品費、運搬費等実質的な活動に係る経費(食料・飲料を除く。ただし、活動の中心が食材を使用する活動の場合は、要相談)。
採択件数等	20件程度。ただし、当該年度の予算額の範囲内とする。	

3. 年間スケジュール

2018年12月1日～1月31日	募集期間
2019年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数:11企画)
2019年3月26日	採択決定通知(採択数:11企画)
2019年4月1日～5月10日	追加募集期間
2019年5月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数:8企画)
2019年6月3日	採択決定通知(採択数:8企画)
2020年2月末日まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2020年3月3日	新型コロナウイルスの感染防止対策により報告会中止
2020年3月末日まで	支援金額の支払い

4. 2019年度実績

応募企画数	採択企画数
19	19(内1企画中止)

2019年度 地域活性化活動支援事業一覧

NO	教員名	学部	学科	活動名	申請コース	活動種別
1	箕輪 允智	法学部	企業法学科	地域と自治体行政とゼミの連携による地域復興・活性化	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
2	佐々木 茂	国際観光学部	国際観光学科	福島県南会津町地域活性化支援活動	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
3	須賀 忠芳	国際観光学部	国際観光学科	「大内宿雪まつり」運営補助支援活動	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
4	佐野 浩祥	国際観光学部	国際観光学科	富士宮市における食文化振興プロジェクト	①地方創生コース	④都市課題
5	藤井 信幸	経済学部	国際経済学科	山梨県北杜市増富地区における里山再生支援活動	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
6	志摩 憲寿	国際学部	国際地域学科	奄美諸島における「なりわい」と「すまい」を通じた地域創生	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
7	柏樹 良	ライフデザイン学部	人間環境デザイン学科	南会津町産材を使用した文房具のデザイン開発	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
8	神野 宏司	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	世代間交流形式の健康体操教室による地域在宅高齢者に対する健康づくり活動	②地域貢献コース	④都市課題
9	細谷 洋子	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	徳島県におけるレク・スポーツを通じた環境保全活動	①地方創生コース	⑤その他(防災教育・地域支援)
10	岡本 郁子	国際学部	国際地域学科	佐賀市中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
11	藪長 千乃 高橋 一男	国際学部	国際地域学科	能登ゼミ(里山の森・伝統文化の保全活動)	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
12	井上 武史	経済学部	総合政策学科	経済学部井上ゼミによる公共交通改善への調査提言活動	①地方創生コース	④都市課題
13	神山 藍	理工学部	都市環境デザイン学科	埼玉県小鹿野町における地域資源を活かした観光ルートの企画	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
14	佐藤 亜樹	社会学部	社会福祉学科	NPO 法人ねりまねこ:「地域猫のすすめ」を通しての住民組織化活動	②地域貢献コース	④都市課題
15	長津 一史	社会学部	社会文化システム学科	在住外国人と協働する宮城県気仙沼の復興活動の支援	①地方創生コース	②被災地支援
16	田中 雅敏	法学部	法律学科	香川県さぬき市とアイゼンシュタット市(オーストリア)との姉妹都市交流協力	①地方創生コース	⑤その他(国際交流)
17	左地 亮子	社会学部	社会文化システム学科	北海道杜幌町における農業と観光を核にした地域活性化活動の検討	①地方創生コース	①国内過疎地域・限界集落・農山村支援
18	川原 恵子	社会学部	社会福祉学科	異世代交流会: 独居等高齢者のゆるやかなネットワークづくり	②地域貢献コース	④都市課題

地域と自治体行政とゼミの連携による地域復興・活性化

代表教員：箕輪 允智

法学部 企業法学科

■活動内容

- 第一回調査合宿：6月15、16日(参加者：学生13名、教員1名)
 - ・内川地区住民インタビュー調査
 - ・矢祭町役場主催矢祭山クリーンアンドハイキングにスタッフとして参加し、矢祭山周辺を清掃、参加住民の声を聴取、地域散策
 - ・旧内川小学校グラウンドの草刈り、地域の畑でのひまわりの種植え
- 第二回調査合宿：1月28、29日(参加者：学生25名、教員1名)
 - ・餅つき体験
 - ・矢祭町役場職員からの講話聴取、質疑応答
 - ・地域で里山づくり活動を行う来る里の杜の方々からの講話聴取、視察

※その他白山祭(11月3、4日)にて、地域の六次産業製品の販売(ゆずシャーベット)、台風19号被害のレポート、箕輪ゼミの活動展示を行った。

■活動の成果概要

第一回調査では直接町民にインタビューを行うことができ、前回の調査合宿では知り得なかった、町民側の意見やニーズについて理解することができた。

まず、福島県矢祭町の地域特徴として分かったことは、人との距離感が近く自然が豊かであるという魅力があるが、交通の便が悪く、人に移り住んでもらいたくても働く場所も少ないという問題点があることを知った。また、学校や遊ぶ場所が少なく、教育環境において子供の将来が心配であるという意見もあった。

また、「旧内川小学校をどんな施設にしてほしいか?」という質問に対しては、「自然豊かな町だからそれを活かしてほしい」、「風化しない持続可能な人が集まる施設へ」、「長期的に移住の意志を持った、若い人に移住してきてほしい」などの意見が多かった。どの町民にも共通していえることは、若い人の手を借りて内川小学校を利用して地域を活性化させたい思いであった。この想いに応えられるよう、学生がニーズに合った旧内川小学校の再利用案について考えていこうと強く感じた。

矢祭山クリーン&ハイキングでは、子ども連れの家族での参加者が多く、毎年参加しているという子どもから話を伺うと、矢祭山の道に詳しく、景色が良い場所等も教えてくれた。矢祭町の特産品であり、休憩スポットで出てくる「ゆずシャーベット」や最後に食べられる「あゆの塩焼き」等もとても楽しみにしているようであり、食べてみるとその美味しさに感動した。そこから、ぜひこの商品を通じて矢祭町の宣伝も出来ないだろうかと考え、この後の11月3日、4日の学園祭で「ゆずシャーベット」などを売ることを決定した。(その後学園祭にて本活動の紹介と商品の展示販売を行った)

第一回調査の最後には地域の教わりながら、男子は旧内川小学校グラウンドの草刈り、女子はひまわりの種等の花の植え付けを行う農業体験を行う中で、農業をして物を育てたり維持し

たりすることの大変さを実感した。

また、受け入れてくださった矢祭町側の方々からは、矢祭町には高校・大学が無く、学生世代がごっそりと抜けてしまっているということで、平時にはいない学生が地域に来て活動してくれることが、自分たちが元気になって彼ら(学生)にとっても魅力的な地域になれるような取組を進めていくきっかけとなるため、今後もぜひ続けて欲しいという意見を頂戴した。

また、※その他白山祭(11月3、4日)にて、地域の六次産業製品の販売、台風19号被害のレポート、箕輪ゼミの活動展示を行った。六次産業製品としては目玉商品として地域の特産物である柚子の皮も器に用いてある「ゆずシャーベット」を用意した。これについては公表につき2日目早々に完売した。その他の商品も概ね順調に販売でき、地域製品の魅力を一定程度伝える機会となったと言える。

台風19号被害については、まさに活動地域で橋が倒壊し、集落が孤立するという被害があり、その状況について模造紙に写真付きで現地の被害状況を伝える展示を行った。

第二回訪問調査では、餅つき体験、かつて地域の特産品であった在来種こんにゃくの調理、矢祭町役場職員からの講話聴取・質疑応答、地域で里山づくり活動を行う方々の講話聴講・視察、地域の方と共に旧内川小学校の清掃を行った。餅つきや在来種こんにゃくの調理を通じて、地域に存在していた文化を学習するとともに、住民の方々とのコミュニケーションをとることができた。また、役場職員からの講話では、現状の矢祭町の概況について財政面などからも学ぶことのできた機会となった。また、来る里の杜の方々との話も含め、今後の効果的な活動内容を考えていく機会となった。

このように学生が地域に出て活動することで、学生は地域の問題・課題を実感する機会となり、また受け入れる地域側としても彼らの日常・常識と異なる者らと接触する機会となることで、地域の価値を再認識し、さらなる取り組みをすすめるきっかけとなったと考えられる。



福島県南会津町地域活性化支援活動

代表教員：佐々木 茂

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

佐々木茂ゼミナールでは2018年度より、福島県南会津町をフィールドに活動を行っている。2019年度も前年度以上に現地に足を運び、地域の方々などの協力もあり、充実したフィールドワークを行うことができた。また、5月には、佐々木茂が南会津町の役場や現地の方々との調査の事前打ち合わせに出かけた。この際に、年間を通じてゼミ生が参加する全ての訪問先との話し合いを実施することができた。以下、学生の訪問先として紹介する団体や個人がその対象である。

3年生は、4班に分かれてそれぞれ異なる視点で南会津町の活性化に関わった。それぞれが考えたまちの課題について論文にまとめ、学外への発表も行った。1班は、フィールドワークから南会津町の食の魅力をどのように外部に発信していくのかという課題を抽出し、農家の所得や人口減少など、現代に起きている問題も絡めながら、議論を進めた。2班は、地域ブランディングについて、アロマの活用方法を取り上げ、観光論文を提出した。3班は、訪日外国人旅行者への対応が整っていない南会津町のような地方における言語面や情報発信の面での解決策を提案した。4班は、少子高齢化や人口減少といった問題を、関係人口という概念を用いて地域の担い手を生み出す仕組みづくりを提案した。

■活動の成果概要

夏合宿では、各班毎の課題に沿って、情報収集と自らが観光客の立場になって南会津町を体験するために様々な活動を行った。

1班は、役所でヒアリングを行い、南会津町の農業や空き家の情報を詳しく聴いた。高野もりネット協議会会長宅にお邪魔し、お話を聞き、南会津町の名物、さるなし畑の見学や森林を生かしたアクティビティを見学した。会長の話の中で、今後のイベント展開や宿泊施設の希望を聞いた。その為には我々のように定期的に町を訪れる若い人材の存在が必要不可欠と指摘していた。こうした現地視察を通して、より一層自分たちが町を訪れて積極的に町に関わろうとする姿勢が地域に貢献し、学生本人の学びにも繋がっている。

2班は、アロマ祭りの支援を通じて、ヒアリングやアロマの知識を吸収することができた。実際にアロマ祭りに参加し、福島県内外からの観光客と接した。子供向けアロマのバスボム作りコーナーを実際に担当できたおかげで、来場者の様子を間近で感じることができた。

3、4班は合同で合宿を行った。檜枝岐村で毎年開催されている「真夏の雪まつり」を視察。夏場のスキー場の活用法である同イベントの視察を通し、1年を通してコンテンツを提供できる強みを学ぶことができた。

視察後は各班に分かれ3班は日本大学工学部の学生との意見交換、4班は農家民泊のヒアリングを行った。

2日目；終日「大桃夢舞台」を支援。年に一度「大桃の舞台」の活用場。受付・配膳・飲み物販売を行い、来場者に南会津町に関するアンケート調査に協力頂いた。空き時間には演目も

見学し、実際に舞台が使用されている様子を知ることが出来ただけでなく伝統文化に触れる貴重な時間となった。この舞台は少子高齢化による人口減少によって人材が不足している。そのため、こうした繋がりからお手伝いができる学生の存在は今後も必要との声を頂いた。学生側からも、様々な場所から観光客が訪れるこういったお祭りに参加することで、直接来場者に接する機会を得ることができ、深い学びが期待できる。

3日目；たかつえスキー場にてジップラインを体験。夏場のスキー場の活用法である。みなみやま観光事務局でヒアリングを行い、南会津町の現状と移住についても理解を深めた。

台風による被害を受けた木賊地区の災害復旧ボランティアを行うなど、南会津を訪れることで出来た繋がりによって様々な形で南会津町に貢献できている。こうした繋がり、大学生活の中でも大きなものとなっており、学生のモチベーションにも繋がっている。



「大内宿雪まつり」運営補助支援活動

代表教員：須賀 忠芳

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

2020年2月7日(金)から2月9日(日)にかけて活動した。参加者は、21名(教員1名、学生20名(男子6名、女子14名))であった。活動内容全般に、今回は雪不足のために、例年従事していた作業を実施できない部分も多くあったが、事務局の指示の下、会の運営補助に取り組んだ。雪まつり前日の7日は、地区内に設置する雪灯籠を作成するとともに、大内区区長から当地の地域づくりの経過についてご教示いただいた。また、青年会会長、副会長らと、翌日からの作業打ち合わせを実施した。雪まつり当日の8日、9日は、祭礼運営補助として、ステージイベントの道具の準備、設置、観光客への「馬汁」「甘酒」提供補助、神事への参加補助、会場全般の設営及び撤去ほかに従事した。

■活動の成果概要

地域振興のあり方について、研究・実践するゼミ活動の一環として、指導教員(須賀)が引率し、会津・南山通りの江戸期宿場町の景観を今に伝え、重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている、大内宿(福島県南会津郡下郷町大内)で、2月半ばに開催される「大内宿雪まつり」の運営補助支援活動を、平成24年度から継続して実施してきた。当イベントは、地元自治体や外部資本等には依存せず、地区内だけで準備、運営し、そこに多くの観光客が訪れることから、準備・運営に支障を来すことも多かった。そうした中で、町並み保存の中心的な存在として活躍してきた、大内区元区長・吉村徳男氏と指導教員との個人的なつながりもあり、支援の打診を受ける形で、当イベントに関わることとなり、前日の準備設営補助から、当日の運営補助まで、学生らが積極的に支援し、当イベントを成功に導いてきた経緯がある。関係者からも、「東洋大の方々のお力添えが無ければ運営できない」「助けて頂いて感謝している」とのお声をいただいている。こうした取り組みは、過疎地域における観光施策支援として、本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、本学の学生の参画なしには、イベントの運営が成り立たないものとして、大きな信頼を得るものともなった。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかける強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。祭りに際して行われる神事にも、地元の方に交じって、当該参加学生の参加をお認めいただき、学生にとっても得難い体験となるとともに、地元からも好評を得る結果となっている。本年も、学生らの積極的な取り組みによって、当イベントを成功裏に開催することができ、地元の方からの「来年もまたよろしく」との声に、「来年もまた来ます」と学生らが、にこやかに返していた場面が印象的であった。4年次生には、2年次から当該行事に参加したほか、夏の祭礼にも参加していて、4度目の参加となる者も数名いて、学生活動を通じて、本学と当該地域の強い結びつきを体現するものとなっている。当事業については、地域からの強い要望も受け、過疎地域における行事支援事業として、今後も継続的に活動に取り組んでいきたいと考えている。



富士宮市における食文化振興プロジェクト

代表教員：佐野 浩祥

国際観光学部 国際観光学科

■活動内容

4月から5月にかけて、富士宮市の現状や食のまちづくり事例などについて文献調査を実施した上で、6月15日から16日にかけて第1回現地調査を実施(学生14名/教員1名)、富士宮市でのカウンターパート(富士宮市観光協会・富士宮高校会議所)と今後の協働に向けた意見交換を実施した。

8月18日から19日にかけて第2回現地調査を実施(学生14名/教員1名)、富士宮市街地のほか、朝霧高原などの富士宮市郊外部を含めた調査を実施し、多様な観光資源を把握した。また、19日には富士宮市役所を訪問し、富士山世界遺産課の取り組み内容について講義を受け、今後の協働に向けた意見交換を実施した。

11月25日から26日にかけて、第3回現地調査を実施した(学生12名/教員1名)。25日夜には、富士宮市内の関係者を広く集め、中間発表会を実施、これまでの調査内容のまとめと今後の企画案について発表し、様々な意見をいただくことができた。

1月19日から20日にかけて、第4回現地調査を実施(学生3名/教員1名)、富士宮を代表する食資源である日本酒の蔵開きイベントに参加し、今後のイベント実施に向けた知見を得た。

■活動の成果概要

6月15日から16日にかけて、第1回現地調査を実施した。学生たちは自身たちが希望した調査テーマ毎に3チームに分かれ、それぞれのテーマに沿った調査計画を立案し、調査を実施することとなった。15日には富士宮市観光協会を訪問し、会長、副会長、事務局長の3名にご対応いただき、富士宮市の観光資源の賦存状況や観光客の最新動向等についてご教示いただいた。また、富士宮市観光の課題にも話題がおよび、学生に対する期待の言葉を、小川会長(小川荘女将)からかけていただいた。学生からも富士宮を訪問した際の率直な感想を伝えるなど、信頼関係の構築につとめた。その後、富士宮高校会議所を訪問した。この組織は、富士宮市内の高校生が中心となり、地域活性化に向けた様々な取り組みを主体的に実施しているものである。この日は6名の高校生と時田事務局長にご対応いただき、高校会議所の取り組みについてご教示いただくとともに、これからの富士宮の将来像や協働のあり方等について様々な意見交換を実施した。

第2回現地調査は8月18日から19日にかけて実施した。本調査では、基本的には富士宮市内の観光資源調査を中心に実施した。本プロジェクトは中心市街地の活性化を企図したものであるが、前回調査時での観光協会ヒアリングで、市内の観光資源の多くは郊外に立地していることがわかったため、それらを調査することとした。具体的には、世界文化遺産「富士山」の構成資産となっている白糸の滝を中心に、朝霧高原の牧場や養鱒場などを視察した。翌16日には富士宮市企画部富士山世界遺産課の内藤様にご対応いただき、富士宮市の観光政策ならびに

富士山世界遺産課が担当している市街地の再開発の構想についてご教示いただき、意見交換を実施した。一方で、学生からも積極的に質問が出たほか、学生の取り組みに対して市としてもバックアップしていく旨のお言葉をいただくことができた。

第3回現地調査は、11月25日から26日にかけて実施した。本調査の主な目的は、これまで調査してきた内容をまとめた上で、今後の富士宮市の観光ビジョンおよびその第1歩としての社会実験の提案を発表し、地域住民の皆様からの率直な意見をうかがおうとするものであった。25日18時より20時にかけて、富士宮市役所7階会議室において、東洋大学富士宮プロジェクト中間報告会と題した発表会を実施した。市内からは小川会長をはじめとする観光協会関係者、高校会議所の生徒、市内で飲食店や宿泊施設を運営する事業者、市役所関係者、そして地元新聞社など、総勢20名ほど地元からご参加いただいた。学生は4チームに分かれ、それぞれのアイデアを披露し、地元住民とも活発な意見交換を実施することができた。いただいた意見をもとに、アイデアをブラッシュアップし、今後の社会実験につなげようと考えている。

第4回現地調査は、1月18日から19日にかけて実施した。富士宮を代表する食資源である日本酒(富士高砂酒造)の蔵開きイベントに参加することが目的であり、今後、食を生かしたイベント開催を考える際の参考となった。

以上、4回にわたる現地調査を通して、今後の取り組みに向けて富士宮市のカウンターパートとの信頼関係を醸成できたこと、そして学生によるビジョンや社会実験の提案に対して、ある程度の地元側の理解を得ることができたことが、今年度の活動の主な成果と言えよう。学生が主体となることによって、様々な関係者と接触することができた他、学生ならではの斬新なアイデアによって地元住民の関心をひくことができた。また、学生中心の発表会を実施することで、地元新聞にも大きく取り上げていただき、地元住民にも広く周知することができた。



山梨県北杜市増富地区における里山再生支援活動

代表教員：藤井 信幸

経済学部 国際経済学科

■活動内容

★9 / 4

13:00 増富到着～ミーティング

14:00～16:30 作業

①本谷川沿いのゴミ拾い ②日影集落の墓地までの道路の側溝さらい ③和田線の側溝さらい

★9 / 5

9:30～11:30 作業

①「日影のトチノキ」までの歩道整備と看板整備 ②日影集落の大旗立て土台作り ③和田線の側溝さらい

13:00～15:00 作業

同上

18:00～20:00 交流会

★9 / 6

9:30～11:45 鳥居ペンキ塗り、ほうとう作り体験

11:45～13:30 講演～ワークショップ(増富の現状と提案)

14:00 増富出発

■活動の成果概要

活動目的としては、以下の点をあげることができる。第1に、限界集落ともいわれる農山村の実情に接することにより、農山村が都会の若者の支援をいかに必要としているか、という点を学生に深く理解させ、地域貢献への意識・関心を深めることができる。第2に、北杜市増富地区は本学から遠距離にはなく、活動の中長期的な継続が見込める。第3に、2015-16年度に農水省の助成、2017-18年度に本支援を得て増富地区で活動を続けており、地元紙にも毎年取り上げられて北杜市における東洋大学のPRになっている。

私たちの活動は大別して①賑わいの復活、②ランドマークの修繕、③生活環境の保全の3つである。今年度の活動は、①は、例年と同じく5月に地元最大の祭礼「火祭り」を手伝ったが、9月の活動は以下のように②と③に集中した。

【側溝さらい】③

山村における側溝の土砂埋没は、雨天時の道路冠水を招く深刻な問題であるが、道路管理は住民に委ねられている。しかし、増富では高齢化が進み、側溝を埋め尽くしている土砂をさらう人手がなく、放置されているのが現状。そのため毎年、側溝の土砂除去が要請されている。今年の和田線沿いと日影集落の側溝は昨年の続きであり、2年がかりでようやく作業を完了した。

【溪流・トチノキ案内遊歩道の清掃・整備】【道祖神祭用幟土台の復元】【鳥居ペンキ塗り】②

増富のランドマーク的な溪流とトチノキの大木(県指定天然記念物)の遊歩道の清掃・整備、祭礼に関わる幟の50年ぶりの復元など、地域のアイデンティティを再認識させる作業で、住民から感謝された。

いずれも多くの人手を要する作業で、交通不便な土地のため、50名近くに学生を容易に動員できる貸切バスの費用にほぼ匹敵する助成はありがたい。5年目の今回は、2人の北杜市議が駆けつけて労をねぎらってくれるなど、東洋大学の活動として地元へ浸透しつつある。



奄美諸島における「なりわい」と「すまい」を通じた地域創生

代表教員：志摩 憲寿
国際学部 国際地域学科

■活動内容

離島をはじめとする国内過疎地域における「関係人口」の拡大は、とりわけ人口減少下で喫緊の課題であり、申請者らは、これまでに鹿児島県離島振興協会「アイランドキャンパス事業」(平成28年度～平成29年度)、東洋大学地域活性化活動支援事業(平成29年度～平成30年度)の支援を受けつつ、奄美大島龍郷町に係る活動に取り組んできた。このような問題意識のもと、本活動は、同じ奄美諸島の喜界町において、鹿児島県離島振興協議会及び喜界町役場等の協力の下、町内全33集落37地区の空き家等の現状調査を実施した。

現地での具体的な活動内容は次の通りである。活動成果は過年度同様に報告書にとりまとめ、現地パートナーをはじめとする関係者に頒布する。

- 10月21日(月) 10:00 鹿児島空港集合、その後、鹿児島県庁にてヒアリング
- 22日(火) 鹿児島(発)→喜界島(着)、着後、喜界町役場にてヒアリング
- 23日(水) 喜界島内集落視察、プレ集落調査
- 24日(木)～26日(土) 集落調査
- 27日(日) 調査報告、午後解散

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動に対する寄与：

上述の通り、申請者らは、継続的に奄美地域における地域振興に取り組んでおり、昨年度はNPO法人ねりやなかやレジデンスの実施する龍郷集落の空き家・空き家調査を補助し、その活用策を提案する等、着実な成果をあげてきた。本年度の活動は、過年度までの活動の枠組みを広げつつ、奄美地域における活動に継続的かつ発展的に取り組み、「現場主義」を標榜する国際学部のみならず全学的な本学の社会貢献活動の一翼を担うものであったと感じている。

②学生参画の必要性：

本事業で取り組む集落調査は、活動地である喜界町には全33集落37地区があることから推察されるように、対象一定の人数による現地調査を通じた俯瞰的な視点が不可欠である。離島等の国内過疎地域において、既存の地域振興策が行き詰まりを見せる中で、地域外のとりわけ若者からの新たな視点が強く求められていることから、学生の参画が強く求められる。

③学生に経費を支出することによる社会貢献活動上の期待できる具体的な効果：

学生らによる現地調査により俯瞰的な視点から集落の抱える課題が俯瞰的に整理されることにより、現実性が高く、かつ、学生発意の斬新なアイデアが期待できる。また、本活動への参加者には、奄美大島・沖永良部島でインターンシップ「島キャン」に従事した者、沖永良部島

での農業ボランティアに参画する者、本活動を契機として鹿児島県に就職する者も見られ、また、参加者の多くが続けて本活動に参加しており（ゼミ配属前の1年生から継続する学生もいる）、現場で継続的に社会貢献活動を行う学生を輩出しつつある。



南会津町産材を使用した文房具のデザイン開発

代表教員：柏樹 良

ライフデザイン学部

人間環境デザイン学科

■活動内容

南会津町は町の面積の過半を森林が占めており、林産業が大きな割合を占めている。しかし、近年木材価格が一時期の五分の一まで下落してもなお輸入材に押されてしまっているのが現状である。そこでプロダクトデザインの力や取り組みで、林産業を活性化することが出来ないか、というのがこの活動の発端である。町有林の多くは日本の他の地域と同様に植林された杉であるが、同時にこの地域は良質なブナが原生していることでも有名である。そこでこの地域で忘れられている、家具や小物づくりに向いている、ブナを始めとした落葉広葉樹を使用した一連の商品開発ができないか、プロダクトデザインコース柏樹ゼミの研究課題として検討を重ねた。同地域では木製玩具の開発に力を入れており、一定の実績が出ているが、ユーザー対象が子どもに限られる点などを考慮し、子どもから大人まで範囲の広がる木製文房具を開発することにした。それらの検討を踏まえ、6月下旬に柏樹（教員）と研究員1名、院生1名、ゼミ4年生10名の計13名で現地に入り、現地の森林の状態や落葉広葉樹の生息状況、林産業の状況などを視察し、その後文房具のコンセプト、シリーズのアイテム検討、デザイン、試作と作業を重ね、9月からは新たに加わった3年生19名にその作業を引き継いでいる。基本的に作業は毎週木曜日に2限ずつ、それ以外の時間も各自自主的に作業をしている。

■本活動を実施する意味

現在、4シリーズ20アイテムの文房具のデザインができ、それぞれ試作品が完成している。春期休業中も3年生が率先して作業を継続し、追加アイテムのデザイン、パッケージデザイン、プレゼンテーションの準備を進める予定である。来学期早々に新4年生と院生で南会津町役場に出向き、町長をはじめ農林課や産業企画課にプレゼンテーションを行ったうえ、南会津町と東洋大学の協働事業として、夏前にはメーカーの開発部に企画プレゼンを行う予定である。南会津町と東洋大学の協働事業として商品化が実現すれば、人間環境デザイン学科プロダクトデザインコースの教育成果が地域活性化につながる社会貢献として活かされることになると期待している。本企画は将来の南会津町と東洋大学の包括協定締結を見据え、国際観光学部の佐々木研究室などとも平行して、各分野での活動実績を積み上げることを目指している。今後できるだけ多くの学生が現地に赴き、それぞれの分野で地域活性化の知恵を絞りながら活動することが期待されている。



世代間交流形式の健康体操教室による 地域在宅高齢者に対する健康づくり活動

代表教員：神野 宏司
ライフデザイン学部
健康スポーツ学科

■活動内容

2019年7月から12月にかけて計7回、地域在宅高齢者のグループと連携し32名の高齢者に対して健康体操教室を開催した。各回の開催に先立ち教員と学生がストレッチ体操、レジスタンス体操、音楽に合わせて行う簡単なリズム体操、および歌いながら左右の手足を非対称に動かす認知機能刺激プログラムを考案した。その上で配付資料として動画DVD、解説資料を作成した。各回実施時には学生が参加者の前で説明および見本を行い、同時にその他の学生は参加者がプログラムを習得できるよう個別にサポートした。

■活動の成果概要

地域の健康を考える上で近年ソーシャルサポート、ソーシャルネットワークの影響、重要性を指摘する研究が多くみられる。大都市圏に居住する高齢者は地方在住者と比較してソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク機能が弱い傾向にあることから孤立化・閉じこもりの危険性が高く、対策の必要性が強く言われている。本学は社会福祉、地域保健の分野で大きな実績を有している。この都市部における高齢者の孤立化、閉じこもり対策という課題は地域貢献を重要な課題と位置づける本学、本学部の教員ならびに学生にとって貢献できるテーマと考えられる。そのような背景を踏まえ、本活動は健康の維持に関心が集まりやすい体操を高齢者と親和性の高い、孫世代に当たる学生とともに実践することを通じてセルフケアの技術の習得を促し、さらに参加者が自身の近隣住民に対して啓発を行うことを通じて地域でのソーシャルサポート、ネットワークの構築を計る意図を有しており、本学のこれまでの実績に新たな貢献が出来るものとする。活動の一つは参加者自身の健康に役立つ健康課題をテーマとして知識の提供である。二つ目に日常生活でできる解決策の提示とそれを習得する機会の提供である。本活動において教員と学生が各回、レジスタンストレーニング、ストレッチングおよび音楽に合わせて左右非対称に手足を動かす体操プログラムを指導および習得を補助するプログラムを行った。参加者は平均年齢70歳という高齢者であることを理解しつつ、習得過程での失敗を明るい雰囲気でもませることを学習している本学部の学生との交流でこそ行えうる講座の形式であったといえよう。

一般的に大都市圏に在住する住民は人間関係の構築に苦慮している事が報告されている。と同時に近隣に新たな友人関係を求めていることが示唆されている。ここに学生が間に入り間接的に仲を取り持つことで参加者同士の会話や交流が促進されたといえる。同時に参加する高齢者から見ると指導される相手が学生であることから孫と接しているような親しみやすさとともに自身の失敗に恥ずかしさを感じずに参加できるという学生ならではの利点に対する肯定的な反応が得られた。また、学生にとっても家族以外の年齢の離れた人とのコミュニケーションを

通じて専門的な内容を分かりやすく説明するための説明方法に工夫が必要という実感や取り組みが見られ、社会人基礎力の育成を図れる貴重な経験となったといえる。

今年度は参加者からの声かけにより朝霞市役所健康づくり課の職員がゲスト参加し、プログラムを体験した。職員からは体操の有用性を体験すると同時に学生と高齢者の関係性の持つ可能性を実感したとの話があった。



徳島県におけるレク・スポーツを通じた環境保全活動

代表教員：細谷 洋子
ライフデザイン学部
健康スポーツ学科

■活動内容

2019年9月13日～9月15日に徳島県にて活動を実施した。参加者はライフデザイン学部健康スポーツ学科3年生12名、4年生3名の合計15名と教員1名であった。

初日は12時半に徳島駅前に集合し、徳島県一般財団法人徳島県スポーツ振興財団主催の「災害時健康サポーター養成事業」へ参加し、13時～16時まで、災害時のレクリエーション活動やエクササイズの意義と方法を学んだ。その後、16時～17時には二日目に行うレクリエーション支援プログラムについて財団法人あいずみスポーツクラブの職員と打合せを行った。

二日目は、8時半に集合し、財団法人あいずみスポーツクラブの総合型地域スポーツクラブにおいて、小学1～3年生の児童20名を対象に、レクリエーション支援プログラムを9時半～11時まで実施した。午後は15時からエコみらいとくしまという環境保全活動の拠点施設において、現地の徳島県学生地球温暖化防止推進委員の学生4名と共に、環境保護におけるスポーツ等を通じた取り組みについて意見交換し、今後実施可能な環境保全意識の啓発イベント企画案を出し合い、情報を共有した。

最終日は、9時からブラジル格闘技のカポエイラを通じた環境保全の地域貢献活動として、月見ヶ丘海浜公園の清掃を9時15分から10時まで行った。10時から回収したごみのペットボトル等を活用したレクダンスやカポエイラ練習を体験し、レクやスポーツを通じた環境保全活動を行った。

■活動の成果概要

初日(9月13日)13時～16時までの「災害時健康サポーター養成事業」では、徳島における災害対策や健康問題等について学び、翌日のレクリエーション活動支援のための予備知識を得た。また、今回の講習において現地の方々との繋がりを築くことで、有事の際に活動できる人材育成となり、今後に備えることにつながった。その後、16時～17時の事前打ち合わせでは、二日目に実施するレク支援の対象者やプログラム内容について、最終確認を現地スタッフとともにに行った。

二日目(9月14日)は、8時半から9時半まで会場となる体育館で活動準備を行い、9時半から11時まで児童(小1～小3)20名を対象に、レク活動プログラムを実施した。普段は途中で飽きて活動から離れてしまう児童も数名いるそうだが、この日は一人も活動から離れることなく全児童が東洋大学生とのかかわりを楽しみながら活動に取り組んだ。当該地域総合型スポーツクラブの主宰者も、東洋大学生による本プログラムでは、支援者一人当たり1～2名の児童を担当することで、児童が高い満足度を得て活動に参加できており、今後もぜひ実施した

いとおっしゃっていた。15時からは、エコみらいとくしまという施設で、現地の徳島県学生地球温暖化防止推進委員の徳島文理大学生4名と共に、当該委員による徳島県における環境保全活動の全容を学び、環境保護におけるスポーツ等を通じた取り組みについて意見交換を行った。そのうえで、今後実施可能な環境保全意識の啓発イベント企画案を出し合い、共有した。エコみらいとくしまでは、毎年環境保全意識を啓発するイベントを行っており、今回の交流会において次年度における当該組織による活動のたたき台の提示がなされた。

三日目(9月15日)は、9時から月見ヶ丘海浜公園にて、10時まで海岸清掃を実施した。45分間の実施で、20kgの日用品ゴミが回収された。清掃中に、大阪からサーフィンをしに来ていたご夫婦が自主的に清掃に協力してくださり、感謝の意を伝えてくださった。その後、回収されたごみにあるペットボトル等を活用したブラジルのフォークダンスやカポエイラを楽しみ、現地のカポエイラのメンバー20名と共に、実践的なりサイクルの一例を体験した。

以上の通り、3日間の活動において、徳島県の地域性や健康問題を踏まえた上で、児童を対象としたレク支援、環境保全活動への企画案提供、環境保全とレク活動を通じたりサイクルの実践といった地域貢献活動を行った。本学では四国における社会貢献活動はこれまでなされておらず、本学の社会貢献活動対象地域の拡大の一助となった。また、日ごろから教育や福祉の視点からレクリエーションやスポーツの意義について学んでいる学生の知識や経験を活かして社会貢献活動を行ったことで、高齢化がすすむ現地のレク活動や環境保全活動従事者らにとっても、学生らの若いエネルギーや新たな視点の提示が有意義な刺激となり、現地での持続可能な活動の起爆剤となったようだった。今回のコーディネーター役の徳島県スポーツ担当者からは来年度の本活動の継続の希望もあった。今回の地域貢献活動で得られた学びを学生と共に今後の教育や地域貢献活動へ活かしていきたい。



佐賀市中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援

代表教員：岡本 郁子

国際学部 国際地域学科

■活動内容

2019年11月3日～5日にかけて、佐賀県佐賀市松梅地区において、住民主導型で行われている地域活性化の様々な取組みに対する支援活動を行った。参加者は教員1名、学部3年生6名、4年生の3名の計10名である。同地域は急速な少子高齢化、過疎化が進んでいる典型的な日本の中山間地域である。佐賀県市の行政側も住民主導型の地域活性化活動を積極的に支援していること、また地域の側の危機感も年々高まっていることもあり、それぞれの地域・集落をベースとした活動が始まっている。今回、我々は、ちょうど連休中ということということもあり、様々な地域主体の行事が予定されていたことから、その実施にあたる支援を行うとともに、郷土料理伝承普及を行う女性グループのメンバーの方々とともに調理も行った。

■活動の成果概要

松梅地域は佐賀市と福岡市を結ぶ幹線道路沿いに立地する。しかし、日本の他の中山間地域と同様、少子高齢化、過疎化が急速に進み、現在の高齢化率は40%～45%に達している。松梅地域の多くの農家は古くから干し柿の生産や小ネギなどの野菜や米の生産に従事している。しかし、担い手不足から耕作放棄地も拡大しつつある。また、佐賀県重要無形文化財に指定されている和紙生産(名尾和紙と呼ばれる)に従事してきた。和紙生産はかつては100軒ほどが従事していたが、現在は1軒のみとなっており、伝統技術の継承がきわめて難しくなりつつある。

そうしたなかで、地域資源(干し柿や和紙)などを活かし農業だけでなく体験型観光(タケノコ農園、栗園、干し柿づくり、民泊など)をリンクさせることで交流人口を増やすことを目的に立ち上げられたのが「ナオノカゼ」という有志グループである。ちなみに、「ナオノカゼ」というのは、干し柿づくりに最適な風という意味と、その活動から名尾に風を吹かせたいという意図があるそうである。

今回はちょうど3連休中ということもあり、地域活性化のための様々な地域行事が予定されていたため、その実施にあたっての支援を行うとともに、地域の人々との交流を行った。具体的には地域主催のウォーキング大会への参加、またかかし祭りへの参加、また伝統料理継承のための女性グループによる料理教室への参加である。ウォーキング大会は山間部での生活は車での移動中心になることから地元住民の交流の場としてだけでなく、健康維持に向けた意識付けという目的もある。また、かかし祭りは今年度で4年度目であり、地域活性化を目的として佐賀市を退職された同地区の方が中心となって行われている。かかしによって昭和の風景を再現し、地域住民にとっても、また外からやってくる人にも懐かしい場になるとともに、最近では地元の大学生も参加するようになってきている。郷土料理に関しても、地元の素材を使いながらそれをどうアピールしていくかが重要とのことであった。

ナオノカゼは、今後観光と農業をリンクさせた地域活性化の取組みをより拡大したいと考えている。その観点から、他県の若い人々との交流という形をとることで毎年の恒例行事であっ

でも非常に活気づくことがわかること、同時に県外、また関東圏の学生が来ることによって、地域資源にどのような価値を見いだすのかがわかることが大きな収穫であったとの声を頂いた。



かかし祭りでの盆踊り



ウォーキング大会の片付け

能登ゼミ（里山の森・伝統文化の保全活動）

代表教員：藪長 千乃・高橋 一男
国際学部 国際地域学科

■活動内容

活動日程

- 9月4日 白山キャンパス出発
9月5日 大学の森保全活動及び太鼓を通じた地域児童との交流
9月6日 豊年祭準備
9月7日 豊年祭当日準備及び参加
9月8日 豊年祭片付け、午後から能登ゼミ開始（調査の心構えと内容の確認、調査準備）
9月9日 珠洲班：飯田高校にて珠洲市概要レクチャー受講）
鵜野屋班：鵜野屋地区マップ作成開始
地域福祉班：中能登町にて見学及び高齢者との交流
9月10日 珠洲班：飯田高校にて高校生へのインタビュー、キリコ祭り参加
鵜野屋班：料理教室参加
地域福祉班：志賀町にて地域福祉協議会インタビュー、高齢者サークル見学
9月11日 珠洲班：ワークショップ準備、キリコ祭り参加
鵜野屋班：ヒアリング調査、マップ作成
9月12日 珠洲班：飯田高校にて高校生とのワークショップ
鵜野屋班：ヒアリング調査、畑仕事のお手伝い、マップ作成
9月13日 活動報告、意見交換会

■活動の成果概要

国際学部国際地域学科高橋ゼミ・藪長ゼミ等に所属する計19名の学生が、教員2名（高橋、藪長）とともに、石川県羽咋郡志賀町鵜野屋地区を拠点に、9月5日から9月13日にかけて「能登ゼミ」を行った。

主な活動は、(1)「大学の森」での保全作業、(2) 豊年祭参加・協力、(3) 地域での調査・ワークショップ・地域活性化への提案、の3つである。

この取り組みは、①高齢化の進む限界集落において維持が難しい山林の保全活動に協力し、伝統文化の保存・継承に協力・参画し、さらに地域住民とのインタラクティブな交流を通じて持続可能な地域づくりに貢献する点から、本学における社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取り組みである。②また、学生が主体となる取り組みであり、山林の保全活動、伝統文化の保存・継承はどちらも学生の手が無くしては実施が不可能である。さらに地域での調査等の活動は、一定数の学生が高齢化の進んだ集落や過疎化の進む地方都市へ入り込む異世代交流・同世代異地域交流であるからこそ、日常と違う気運をもたらし、地域住民が心を開くことにつながる。心を開いた住民たちは、異なる考え方を受け入れたり、これまでになかったニーズを表出したり、全く新しい考え方を、前向きに受け止める。したがって、学生の参加は不可欠である。

③しかし、能登地域は遠方であり、地域住民とのラポールの形成のためには一定期間の滞在が必要であるため、学生にとっては多額の支出が避けられない。そこで、参画学生へ交通費等の経費を支出し、調査などの活動に十分な滞在期間を確保する必要がある。

以下、各活動の概要を報告する。

(1) 「大学の森」での保全作業

9月5日は林業組合員のサポートを受け、間伐作業、除草作業、整地など森の保全活動を行った。

(2) 豊年祭参加・協力

9月6日から8日は、地域の要請を受けて、鵜野屋、地保地区の豊年祭に準備段階から片付けまで協力し、成功をおさめた。

(3) 地域での交流活動(地域活性化への調査と提案、ワークショップの開催、高齢者サークルの訪問)

上記の活動を通じて、学生たちは地域住民とラポールを構築し、調査活動へ移行した。学生たちは、4～8人程度の3つの小グループ(鵜野屋班、珠洲班、地域福祉班)に分かれ、分宿しながら地域調査やワークショップの開催などの活動を行った。

鵜野屋班では、昨年実施した調査活動の報告を踏まえて、聞き取り調査、地域イベント(料理教室)への参加、畑仕事のお手伝いなどをしながら、地域資源マップの作成に取り組んだ。

珠洲班では、石川県飯田高校の生徒を対象としたワークショップを開催した。ワークショップに向けて、高校では生徒とともに地域の現況確認、祭りの下調べ、インタビュー調査、蛸島キリコ祭りへの参加、早船狂言の観覧参加を通して、祭りの意義や価値についてプレゼンとディスカッションを通じたワークショップを実施し、共有知の創出を図った。

地域福祉班は、志賀町社会福祉協議会でのヒアリング、中能登町での高齢者サークル活動の参加、志賀町での高齢者サークル活動への参加を通じて、「能登地域における高齢者の暮らしと生活環境に関する調査」を実施し、また高齢者との交流を図った。

鵜野屋班、珠洲班は、9月13日に鵜野屋地区安成寺にて発表会を行い、意見交換を行った。この調査・発表・意見交換のプロセスこそ、この能登ゼミが単に山林保全や伝統文化の保存・承継にとどまらない、地域の人たちの心を開き、地域の価値を再確認し、誇りを持ち、都市の住民と協力することを通じて、地域の持続可能性へ貢献する活動につながっている。



経済学部井上ゼミによる公共交通改善への調査提言活動

代表教員：井上 武史

経済学部 総合政策学科

■活動内容

趣旨：本活動は、東洋大学経済学部総合政策学科井上ゼミ3年生が、新潟市における公共交通改善策としてバス事業の利便性向上に関する調査を行い、政策提言を行うことを主な内容とする。

活動は事前学習、事前現地調査、現地調査の3つに分けて行った

- ①事前学習：ゼミ活動中に新潟市の公共交通政策に関する資料を収集し、問題点の抽出と提言すべきテーマの絞り込みを行った。その結果、乗換利便性の向上に焦点を当てることとなった。
- ②事前現地調査：8月9日～12日にかけて学生が新潟市を訪問し、BRT（連節型高速バス）の乗車と各ターミナル施設見学を行った。見学結果を踏まえて提言内容のさらなる絞り込みを行い、提言スライドの作成に取りかかった。
- ③現地調査：9月4日～6日にかけて教員と学生が新潟市を訪問し、再びBRTの乗車と各ターミナル施設見学を行った。また、5日には新潟市役所を訪れ、担当課に乗換利便性についての現状と課題、公共交通政策全般について今後の方向性などを確認した。ヒアリング結果を踏まえてスライドの完成に向けた最終調整を行い、翌6日には再び新潟市役所を訪れて政策提言の概要説明と質疑応答などを行った。

■活動の成果概要

地方圏では自動車の普及により公共交通の衰退が進んでいるが、今後は高齢化の加速とともにコンパクトシティの形成と公共交通の活用によるアクセシビリティの改善が課題となっている。中でも、バスは自治体が支える重要な公共交通であるが、利用者数の低迷により運行本数を減らすなど利便性が低下し、それが利用者数のさらなる低迷を招くという悪循環を招いている。本活動はバスを対象とした公共交通の改善に向けて学生自身が現地を訪れ、調査研究活動を行うことで、本学における社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取り組みである。したがって、学生の参画は若年層の利用者増加に向けた実感に基づき、また、学生による機動的な調査が可能であることから不可欠である。学生はこれまでのゼミ教育活動において茨城県や神奈川県等をフィールドに政策提言力を培ってきた。今回は、その政策提言力を生かし、提言内容が政策に取り入れられることによって、地域の政策形成に貢献すると期待できる。

提言の内容は以下のとおりである。

第1に、「乗換案内表示」の新提案である。案内表示は分かりやすい乗換に不可欠である。一般的には表示への確認と移動を繰り返す形だが、単体での分かりやすさが追求されてしまい統一感が欠けている。そこで、通路に追跡型案内表示を導入することを提案した。これは国内外の空港で主に使用され、床サインとテーブルラインを活用したものである。これによって確認

と移動の繰り返しが不要になる。また、コストもそれほどかからない。さらに、道案内でも観光客に「ラインをたどってください」と言えば正確に伝わる。路線が多く複雑になりがちなターミナルでも、色分けなどの工夫をすることにより複数経路への案内が可能となる。

第2の提案は「中学生を対象としたBRT（連節バス）出張講義」である。新潟市の公共交通はバス路線を再編し、中心市街地への運航をBRTに集約してBRT停留所に郊外からのバス乗り継ぎポイントとした。これによって運行本数の減少と運行の迅速化が可能となったが、乗換が必要となることで利便性が低下した面もあった。そこで、住民がBRTの仕組みに触れる機会として中学生向けの出張講義を行うものである。受講生にはBRTの体験乗車ができるICカードを渡すことで、乗車機会を増やすことができる。さらに、家族の乗車を促すことができれば、運賃増加にも寄与すると考えられる。



埼玉県小鹿野町における地域資源を活かした観光ルートの企画

代表教員：神山 藍

理工学部都市 環境デザイン学科

■活動内容

活動日・内容・参加人数

7月27日：現地研修事前学習会の実施(於：東洋大学白山キャンパス)。活動趣旨を説明すると共に、活動対象地である小鹿野町の概要等を学んだ。学生25名・教員6名

8月27日～29日：現地調査の実施。小鹿野町役場でレクチャーを頂いた後、旧小鹿野町地区・旧両神村地区それぞれにおいて潜在的な観光資源の発掘調査を行った(写真1・2)。学生30名・教員6名

9月6日：事後学習会の実施(於：東洋大学川越キャンパス)。現地調査で発掘した潜在的観光資源を「キャプション評価法」を用いて構造化した(写真3)。学生22名・教員4名

10月19日～20日：小鹿野高校生徒会が取り組むイベント「家族で竹あかり」～星空の下でもそう in 小鹿野～に参加し、同校生徒や立教大学学生らと交流を深めた。学生8名

10月20日：竹あかりイベントに続き、現地調査の成果報告会を実施し、小鹿野高校生徒や立教大学学生らと議論を交わした。学生8名・教員1名

■活動の成果概要

本事業の活動としては、まず、小鹿野町の観光振興に資するような地域資源を発掘し、「地域資源マップ」として可視化した上で、地域資源をつなぐ観光ルートを企画することを第一の目標とする。合わせて、小鹿野町担当者や地元関係者とのニーズを調整し、来年度以降に活動を行う集落も含め、活動内容を具体的に検討する。具体的な活動内容を、以下に示す。

- ・文献調査等による現状整理(7月27日)
- ・現地調査を通じた地域資源の発掘(8月27日～29日)
- ・地域資源マップの作成と地域資源をつなぐ観光ルートの企画(9月6日)
- ・小鹿野町担当者及び地元関係者とのニーズの調整(活動内容を報告するワークショップ等の実施)(10月20日)

〈具体的な活動内容〉

- ・現地調査の実施(8月27日～29日)

活動対象地である小鹿野町の潜在的な観光資源の発掘をねらいとして、学生30名・教員6名により現地調査を実施した。現地調査の実施にあたっては小鹿野町役場のご協力をいただいた。本現地研修は、来年度より国際地域学科「国際地域学研修」等として学科の正規科目と位置づけ、今後も恒常的に実施することとなった。

- ・小鹿野高校生徒会イベントへの参加及び成果発表会の実施(10月19日～20日)

小鹿野高校生徒会が取り組むイベント「家族で竹あかり」～星空の下でもそう in 小鹿野～

に学生8名が参加し、同校の生徒や同じく参加した立教大学学生8名との交流が図られた。また、イベント終了後には8月に実施した現地調査の成果発表の場を頂き、活発な議論が交わされた。これらの活動を通じて小鹿野高校とは継続的に活動を行ってゆくことを確認した。

本取り組みは、埼玉県および小鹿野町との協力と参加を得て、地域貢献活動を行う。対象地域では、若い世代の観光誘致を重要視しており、学生の参画は本取り組みにおいて必然といえる。学生は、多様な体験活動を展開する中で、自己の能力だけでなく、地域社会の一員としての自覚を高める機会を得ることができる。指導教員は、個人の専門分野である地域学、観光学、環境学などの多様な側面から、実践的な提案や知識を提供することによって、社会貢献活動へと展開する。



NPO 法人ねりまねこ：「地域猫のすすめ」を通しての住民組織化活動

代表教員：佐藤 亜樹
社会学部 社会福祉学科

■活動内容

2019年11月8日(金)の3限目の社会福祉学専門演習 I B (佐藤ゼミ：3年生14名)に、NPO 法人「ねりまねこ」の副代表 亀山嘉代氏を招聘し、社会貢献活動としての野良猫問題への取り組みの経緯について話を伺った。さらに、地方自治体職員や各町の自治会を巻き込んだ野良猫対策の実情(去勢・避妊後、一代限りの猫生を住民が情報共有し見守る、野良猫に餌をやる人たちは、決まった時間に決まった場所で提供し残飯を残さない、糞尿の始末を徹底する、必要があれば第三者としての「ねりまねこ」が、猫好き住民と猫嫌い住民の間に入り協働システム構築を支援する)、この10年間での実績(10町会32地域で、野良猫数は850頭から311頭に減少)、ソーシャルワーク専門職に望むこと等について話を伺った。本講義の中で、「ねりまねこ」が UTB 映像アカデミーからの取材を受けたビデオを視聴した。このビデオに登場した住民の A さんは、地域から野良猫を排除することを望んでいたが、地域猫活動に出会い、その結果、地域猫を家庭内で飼養するに至った。A さんは、「今ではこの猫が家庭の中心です。彼女は女王様のように振る舞っているのよ。人間の家族は、それを微笑ましく受け入れています。」と語っていた。このように、本地域猫活動は、野良猫問題を機軸にした、住民相互の関係性を変化させるための活動であるともいえる。また、地域という生態系に属する動物と、多様な価値観を有する住民との「共生」を実現する活動でもある。

「ねりまねこ」副代表の亀山氏からは、当会の最近の取り組みとして、新たに生まれた子猫や、高齢者の多頭飼養崩壊による飼い猫を保護し、その後、譲渡会を開催し里親につなげる活動についても話を伺った。講義終了後、学生は、11月24日(日)に練馬区で開催された保護猫譲渡会にてボランティア活動(13:00-17:00)を行った。当初は、行政と自治会の協働場面の観察や、実際の地域猫活動への参加を計画していたが、個人情報保護の観点から難しいとのことであった。そのため今回は、保護猫譲渡活動を支援するという形で地域活性化活動を行った。

■活動の成果概要

参加学生は5名(五十嵐寛太、リョウ・ビン、小田幸、丸野妃奈子、川口真澄)であった。教員も当初は参加する予定であったが、大学院入試監督のため参加できなかった。学生の役割は、(1)会場設営、(2)建物入口付近での案内・誘導、(3)実際の譲渡プロセスの観察、(4)主催者への質問(なぜ野良猫を助けるのか、ソーシャルワーク援助職はなぜ地域猫活動に参加しないのか、この活動が住民組織化にどのように役立っているのか、であった。学生は、「ねりまねこ」副代表の亀山氏だけでなく、他のボランティアにも同様の質問を投げかけた。その結果、ボランティア・スタッフは、それぞれの考えや価値観を元に、本活動に従事していることがわかった。例えば、野良猫を助ける理由として、「野良猫を助けているのではなく、人間を助けている」という回答が大半を占める中、「猫に幸せになってほしいから」と回答するスタッフもいた。また、ソーシャルワーク援助職に対しては、「行政がもっと関わるべき(行政=ソー

シャルワーク・福祉という意味合いで使われている)」という意見や、「福祉(ケアマネージャー等)は、何もせずこちらに丸投げ」、「多頭飼養崩壊現場では、緊急事案が多いため、利用者には指示したり対峙したりすることも必要なのに、福祉の人たちは、相手の考えや感情を受け入れることに偏りがち。そのため、事態が一向に解決しない」等という回答も寄せられた。一方で、「高齢者がペットを残して死亡する事例や、多頭飼養崩壊事例は増えていくだろうから、ソーシャルワーカーが関わる必要性は、今後ますます増えると思う」という意見もあった。

本活動に東洋大学の学生が参画する必要性については、主催者より、「この活動への参加者は中高年が多く、若い世代の参加が非常に少ないため、そのような人たちが地域猫活動に関心を持ち関わってもらえることは、次世代に当該活動を継承する上で役立つ」とのことであった。また、「若くて柔軟な考えを持つ学生たちが関わることで、他地域で同様の困りごとを解決する際の活動モデルになる可能性があるため、もっと関わってほしい」「会場の設営には人手が必要。若い力はありがたい」ということであった。

また、地域猫活動は、単なる野良猫問題ではなく、「人間の問題」であるという視点を、日頃から地域福祉の重要性を学んでいる社会福祉学科の学生が理解し、その実状に触れることは、将来ソーシャルワーク援助職として利用者と関わり、彼らの幸福とは何かを考え支援する際に、生かされるのではないだろうか。因みに、「人間の問題」とは、(1) 猫の繁殖は、去勢避妊をせずに猫を徘徊させたり、無責任に捨てる人がいることが多いことが原因であり、単に野良猫を非難したり、野良猫にえさをやる人だけを悪者にし、猫を殺処分して終わるものではないことを示している。このような「人間の問題」を解決するには、(2) 住民同士が困りごとやニーズを出し合い、コミュニティとして意思決定を行うことが重要である。このようなプロセスを通して、地域住民の間に社会・対人関係のネットワークが形成され、誰もが住みやすい街づくりが可能になると考えられる。また、(3) そのような大人同士の交流が、子どもの共感性を育み、その地域を安心・安全なものにすることに繋がると考えられる。そのような観点から、「地域猫活動」は、単なる野良猫問題の解決ではなく、人間の問題を解決することに焦点を当てた住民組織化活動として捉えられるのではないだろうか。

さらに、地域を新しい切り口から捉え、住民組織化をサポートする取り組みに学生を参加させることにより、東洋大学が時代を先読みする社会貢献活動を行っていることを社会に知らしめる絶好の機会になるのではないだろうか。



在住外国人と協働する宮城県気仙沼の復興活動の支援

代表教員：長津 一史

社会学部 社会文化システム学科

■活動内容

活動時期と内容は、先方の都合・学生の都合の双方を鑑みて、適宜変更している。内容は予定を上回ってより充実したものになっている。具体的な活動は、以下の通り。

- (1) 7月13、14日：気仙沼市唐桑町 NPO「森は海の恋人」事務所、本吉町大谷海岸、市内イスラム礼拝所、気仙沼市営クッキングスタジオにおいて、NPO 副代表、インドネシアパレード組織者、気仙沼市議、他の市民と「在住外国人と協働する気仙沼の復興活動」に関する対話を行った。また、気仙沼市立図書館のユドヨノ友好子ども館を訪問し、インドネシア関連書籍の整理作業に協力した(参加者計9人、うち本学学生1名、教員1名)。
- (2) 8月2～4日：市の港祭りの一環をなすインドネシア・パレードの組織運営にボランティアとして参加、この際在東京インドネシア大使と面会、後市内食堂にてインドネシア人技能実習生と対話集会を行った(参加者計50人以上、うち本学学生10名、教員2名)。
- (3) 9月28日：8月のボランティア受け入れへのお礼と(3)の交流会の事前打合せ(参加者計5人、うち学生1名)
- (4) 10月5日：気仙沼小学校にて学生5人が学校祭にボランティアとして出席。PTAによる食品販売やアトラクションのブースを手伝い、小学生との交流会を開催。同校の校長先生と対談した(参加者計20人以上、うち本学学生5名)。
- (5) 1月11～12日：気仙沼市立図書館のユドヨノ友好子ども館を訪問し、インドネシア関連書籍の整理作業およびインドネシア人の利用登録の手伝い。気仙沼市成人式においてインドネシア人技能実習生の参加協力(参加者計10人、うち本学学生1名、教員1名)。

■活動の成果概要

本活動の目的は、本学学生が気仙沼の市民・外国人と協働して気仙沼の復興活動を支援することにある。現在気仙沼市には、632人の外国人が居住する。東日本大震災から8年を経た同市では、復興と町おこしのために外国人との協業が不可欠になっている。なかでも最大の外国人人口229人のインドネシア人技能実習生との共生関係を構築することは、同市にとってきわめて重要な課題になっている。

本年度、本プロジェクトの活動では、こうした同市の外国人と協働する復興・町おこしの①「インドネシア人・市民との対話・交流」②「町おこし事業(港まつり)への共同参加」③「知的インフラ(図書館)の整備」の3点において貢献することができた。震災後の若年人口の減少が顕著な同市では、上記3つのいずれの活動においても、本学学生の精力的な参加は大きな意味を持った。とりわけ港まつりの「インドネシアパレード」へのインドネシア人技能実習生と同世代に属する本学学生の参加は、同パレードを大いに盛り上げることになった。その協働の様子は、民衆間の日イ間交流の重要性が気仙沼に根付いていることを参加者・見学者のいずれ

に対しても強く印象づけるものであった。同パレードの組織者から本学の学生はたいへんに厚遇され、次年度以降の継続的な参加を強く求められた。またインドネシア人技能実習生と学生との直接対話とそこで得られた知見の提供は、今後、気仙沼市が外国人と協働して復興・町づくりを進めていくうえでも大きな意味を持つ。

東京から気仙沼市への交通アクセスは決して良いとはいえない。参加学生は時間と費用を工面して、このプロジェクトに参加した。本プロジェクトによる資金面での支援は、そうしたかれらのボランティア精神を支える重要なサポートになっている。かれらの参加は、アクセスの悪さゆえに、震災からの年数が経つにしたがってボランティア・来訪者が減少している同市の「復興後の町づくり」を支援するうえできわめて大きな価値を有する。



香川県さぬき市とアイゼンシュタット市（オーストリア）との 姉妹都市交流協力

代表教員：田中 雅敏
法学部 法律学科

■活動内容

本活動は、2019年11月23日(土)に開催した「親子イベント」を活動のハイライトにしつつ、同時にオーストリア姉妹交流展示も行った。地方における一般市民レベルの国際交流の意識の水準や問題点についても知ることができた。

まず、2019年6月17日(月)に、ゼミ生2名と教員1名の3名でさぬき市役所総務部男女共同参画・国際交流推進室の担当者を訪問し、(途絶えているという)さぬき市の国際交流の現状や、市が抱える外国人問題について聞き取り調査をした。その上で、11月のイベントについて打ち合わせをした。姉妹交流展の展示会場の選定(さぬき市役所ロビーに決定)も行った。結果をゼミに持ち帰り、情報共有をした。

2019年11月22日(金)に、ゼミ生11名と教員1名の計12名がさぬき市入りし、イベントの準備をした。展示班(さぬき市役所)と親子イベント(さぬき市みろく自然公園)に分かれて作業し、最後に集結した。23日(土)は、午前の部・午後の部の二部制で各部親子10組に参加していただき(午前・午後を合わせて20組)、オーストリアのクリスマスリース制作をした。さぬき市が姉妹都市を結んでいるオーストリアのことも紹介する講座も設けた。予定通り、20組の参加があった。

■活動の成果概要

- ①地方自治体は、国際交流にあてられる職員の数が限られており、さぬき市も例外ではない。総務部内の職員が2名国際交流推進にあたっているが、それは男女共同参画の担当と兼務である。市民レベルでも、国際交流について関心や意識が高いとはいえず、国際感覚を涵養することは容易なことではない。そこで、本取り組みでは、新しい文化に敏感で、またこれからの社会を担っていく小学生をターゲットにし、若年層からの国際感覚のつきあげを狙った。子供が関心を寄せれば、その親世代も刺激を受けるだろうし、SNSなどのネットワークを介してさぬき市民の意識も変わってくるのが期待できる。本取り組みは、限られた人員で工夫されているが頭打ちとなっているさぬき市の国際交流を、大学の知をもって、さらに遠隔からサポートするものであり、本学の社会貢献活動に資するものであった。
- ②当ゼミは、ゼミ生のほとんどがドイツ語圏に生活した経験を持つ、オーストリア研究のゼミである。「日本を外から見た」自分たちの経験をもとに、さぬき市の小学生親子を対象にオーストリアを紹介する講座を行い、オーストリアのクリスマスリースを制作するイベントを催した。さぬき市の小学生たちにとっては、自分たちの町の姉妹都市のことや遠く離れた欧州の文化について、ヨーロッパを知る大学生が目の前におり、その人たちからレクチャーを受けることで、今後、同じように自分の目で世界を見てみたい、という気持ちになってもらえることを狙った。後日、イベントに参加してくれた小学生のうちの何人かからメー

ルがゼミに届き、当日に制作したクリスマスリースを自宅で飾っている様子が送られてきた。小学生を呼び水に、まだほんの数歩ではあるが、国際交流への意識の高まりの萌芽を感じることができた。

- ③親子イベントの他、さぬき市役所本庁舎ロビーを提供していただき、「さぬき市・アイゼシュタット市交流史」と「オーストリア紹介」のパネル展示を行った。両市の交流は3年間ほど休止しているが、それまでは細く長く交流があったため、その歴史を紹介した。パネル展示については、掲示物やレイアウトなど、すべて遠隔でさぬき市に伝え、依頼することによって設置してもらうことも可能ではあったが、それではゼミの活動として不十分である。ゼミ生たちが自ら、「世界から見た日本」「世界の中のオーストリア」を見て感じた経験が、ダイレクトに展示に反映されていなければならず、それはゼミ生が現地に赴き、その場でさぬき市の空気感も感じながら作り上げるものでなければならない。ゼミ生が現地入りし、展示の設営や、イベントの対象者である小学生たちと直に向き合うことができたことが極めて重要である。



北海道壮瞥町における農業と観光を核にした地域活性化活動の検討

代表教員：左地 亮子

社会学部 社会文化システム学科

■活動内容

本活動は、学生が少子高齢化と過疎化問題を抱える農村地域を調査することにより地域活性化に関わる諸問題についての理解を深め、問題に対する解決策を地域外部の若い世代の視点から新たに提案することを目的としている。具体的には、北海道壮瞥町を含む洞爺湖地域にて、「農業」「観光」「移住」をもとにした地域活性化活動の調査を以下の通り実施した。なお年度末には、現地調査で得た知見、当該地域を今後さらに盛り上げていくための提案を報告書にまとめ、すべての調査協力者に送付した。

2019年9月3日 午後：洞爺湖地域到着

洞爺湖地域におけるフィールドワーク

移住者を対象にしたインタビュー調査

9月4日 午前：サミット記念館のフィールドワーク、関係者へのインタビュー調査

午後：壮瞥町役場産業振興課農業振興係にてインタビュー調査

農園を訪問し、新規就農者を対象としたインタビュー調査

9月5日 洞爺湖町洞爺総合支所農業振興課にてインタビュー調査

9月6日 午前：一般財団法人洞爺湖温泉観光協会にてインタビュー調査

午後：移住者を対象としたインタビュー調査

9月7日 午前：JA とうや湖にてインタビュー調査

午後：果樹園経営者を対象としたインタビュー調査

9月8日 洞爺湖地域を出発し、新千歳空港に移動

活動参加者数：学生7名+教員1名

■活動の成果概要

本活動の活動主体は、社会学部社会文化システム学科「社会文化システム論演習Ⅱ・Ⅲ」を受講する本学3年・4年生であり、これまで日本の農村地域が抱える諸問題を実際に見聞きする機会がほとんどなかった関東大都市圏在住の若い世代である。本活動では、こうした都市圏在住の学生たちが自ら活動を企画し、地域社会を実際に訪れ、当該地域の地域活性化のために活動する様々な現地関係者との対話を通して、少子高齢化、都市一極集中という日本社会が抱える問題、近年の観光現象をめぐって地域社会が抱える課題を学び取ることを目的としている。

9月の現地調査では、学生は、地域行政に携わる人々や観光産業に関わる人々、また農業従事者、地域外部からの移住者、その他の地元で長年暮らす住民等、実に様々なかたちで地域

社会で活動する人々のもとを訪れ、熱心に話をうかがい意見を交わし、地域社会が抱える問題に対する理解を深めることができた。現地調査に赴く前に学生は、様々な文献を通して少子高齢化や過疎化、農業や観光に関わる社会問題の知識を深めていたが、地域の人々の姿と声から実際に得られた知は非常に大きかったとみられる。洞爺湖地域の様々な人々がこのような貴重な支援と知見を本学学生にくださったことには感謝の気持ちでいっぱいであるが、このことには、都市に住む若者という立場から、新鮮なまなざしと好奇心、かつ真摯な姿勢で地域の問題を学び取ろうとした学生の関わり方も大きいだろう。これらの経験を通して、学生はさらに本活動調査地である北海道洞爺湖地域、および、より広く日本社会における地域活性化活動に対する関心を大きくした。

以上の点は、社会との連携をもとに地域・社会に広く貢献できる人材を育成することを目標とする本学社会貢献活動の趣旨に沿い、その発展に貢献すると評価できる。

また本活動では、地域社会での学びのみならず、学生が現地調査において得られた知見を自らの視点と大学での研究活動を通して捉え直すことで、地域活性化に関わる諸課題解決のためのアイデアを自ら提案することを重視している。都市に暮らす若者が地域の人々からじかに学び取ること、また地域社会外部に暮らす若者ならではの柔軟で斬新な発想を活かして地域の諸課題にアプローチし、大学での研究活動を地域社会に還元することを目的とした本活動は、大学の強みを活かした社会貢献のかたちであるといえる。

以上のように、少子高齢化に悩む地域社会に地域外部の若い世代の視点を提供し、調査活動の成果を社会に還元するという点で、学生の参画は必要不可欠であり、社会に広く貢献する人材を育成するという観点からも非常に有意義であった。



異世代交流会：独居等高齢者のゆるやかなネットワークづくり

代表教員：川原 恵子

社会学部 社会福祉学科

■活動内容

活動日：2019年6月22日（土）11：00～14：30

7月～8月：御礼状の作成・郵送

秋学期：当日撮影したビデオ編集

参加者：102名（高齢・障害者37名、学生40人、教員3名、文京区社会福祉協議会5人、Join For Kaigo 4人（+学生スタッフ2人）、早稲田エルダリーヘルス事業団3人、NPO バタフライ1人（+付き添いスタッフ7名） なお、お孫さんを連れてこられた高齢者もおられた。

文京区内の介護予防活動等に参加している近隣の高齢者と障害のある方を本学にお招きし、一緒に学食で食事をとったり、スカイホールで「カーレット」「風船バレー」「魚釣り」「パフェづくり」「輪投げ」「歩行テスト」等の軽い運動で交流を図った。

■活動の成果概要

文京区社会福祉協議会の活動の一環として実施している本交流会は、ここ数年本学においてゼミが主体となって開催し、高齢者も毎年楽しみにして下さっている。本活動以外にも、ゼミでは区内の地域活動に参加し、近隣の高齢者や地域の支援者と交流を重ね関係構築を図っている。本交流会を学内で実施することにより、高齢者には外出と異世代の人びととの交流の機会を提供し、学生にとっては多様な方々とかかわる機会となった。学生が様々な主体と協働してイベントを企画実施することで、高齢期の生活や課題について学ぶとともに、これまで関わりのなかったアクター同士が関係性を築く等、この活動を通じて多様な貢献を果たすことができた。今回のイベントでは、障害児者支援のNPOにもご協力を頂き、障害のある方々の余暇活動の一環として大学にお越しいただくことが出来た。高齢者支援、障害児者支援等の支援者だけでなく、当事者ともゆるやかなネットワークの構築に寄与することができた。



社会貢献活動助成・表彰制度

■本事業の概要

2019年度、社会貢献部門の活動における新たな取り組みとして、学生の社会貢献に対する「活動助成」と、個人の活動を含む学生の社会貢献活動に対する「表彰」を行う制度を設立した。これは、2018年度まで本学学生支援課で行っていた表彰制度を一部引き継ぐ形で作られたもので、学生の社会貢献活動のサポートをするボランティア支援室が社会貢献センター内に来たことによる。社会貢献センターにおいては初年度となる2019年度の概要は以下のとおりである。

I 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業の目的

本事業は、本学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

II 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

1. 助成対象となるプロジェクト活動

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト(ボランティア活動を含む。)で、次の2区分による活動を対象とする。

	新規活動助成	継続的活動助成
対象	1. 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。 2. 応募年度が初めての活動になること。	1. 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。 2. 団体として最低1年以上の活動実績があること。
学生団体	本学の学生(大学院生を含む)が活動する団体で、1団体あたり本学学生が最低3名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。 ただし、ゼミ活動は対象外とする。	
助成金額	年間1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)。	年間1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)。
採択件数	年間5件程度を目安。	年間5件程度を目安。
選考	社会貢献センター運営委員会にて、 第1次審査(書類審査結果発表)、第2次審査(プレゼン審査)	

Ⅲ 社会貢献活動による表彰

対象	(1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。) (2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。) (3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。
内容	次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。 (1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。 (2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。
選考	社会貢献センター運営委員会にて書類選考

Ⅳ. 年間スケジュール

●学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2019年1月4日～2月28日	募集期間(第1次)
2019年3月中	社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考(申請数:3団体)
2019年3月28日	第1次書類選考結果通知(第1次通過団体数:3団体)
2019年4月5日	第2次プレゼン審査(3団体)
2019年4月8日	決定通知(採択数:3団体)
2019年4月1日～5月10日	追加募集期間(第2次)
2019年5月29日	ボランティア支援室専門部会にて追加応募団体、 第1次書類選考(申請5団体)
2019年5月30日	追加応募団体第1次書類選考結果通知(第1次通過団体数:5団体)
2019年6月26日	追加応募団体第2次プレゼン審査(5団体)
2019年6月28日	決定通知(採択数:4団体)
2020年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2020年3月	社会貢献センター運営委員による活動報告に対する評価およびコメントのフィードバック ※当初報告会実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
2020年3月末まで	支援金額の支払い

●社会貢献活動による表彰

2019年11月18日～12月16日	募集期間
2020年1月17日	社会貢献センター運営委員会にて書類選考 (申請数:[個人]5名[団体]2団体 ※内1団体選考対象外)
2020年1月23日	結果通知(受賞:[個人]2名)

V. 2019年度実績

●プロジェクト助成 応募数 8団体 採択数 7団体(内1団体中止、1団体辞退)	●表彰 応募数 5名、2団体 受賞数 2名
---	-----------------------------

2019年度 採択団体および表彰者

■学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

応募数 8団体／採択数 7団体（内1団体中止、1団体辞退）

●読み聞かせ朗読会／継続的活動助成

文京区本郷「まちぷら」では0～1歳児親子を対象に、板橋区立富士見台小学校では小学校低学年から中学年を対象におはなし会を開催。絵本や紙芝居などを読み聞かせ、パネルシアターと手遊びを用いた参加型のおはなし会。来年以降も毎月開催の予定である。



●GoodNeeds（グーニーズ）／継続的活動助成

小学校程度の子供たちと毎月一回、一緒に山登りやデイキャンプなどのアウトドア活動をして楽しんでいます。二大目玉企画として、夏には二泊三日のキャンプ、冬にはスキー・スノーボードなどの雪合宿を行っています。子供の成長はもちろん、学生も一緒に成長できる居場所づくりを心がけています。



●国際ボランティアサークル salamat / 継続的活動助成

国際ボランティアサークル salamat は、フィリピン・セブ島にあるコミュニティにデイケアセンター（幼稚園）を2018年夏から建設中である。今回の活動では、前回の活動に引き続いてセメント作業、ブロック積みなどの建設作業を住民達と協力しながら全て手作業で行った。デイケアセンターの完成・運行開始は来年を目標としている。



●福島県いわき市の活性化を考える会 / 新規活動助成

本活動では、福島県いわき市で行われ、歴史ある伝統的な祭礼の大國魂神社例大祭、並びに平下高久八剱神社例大祭に参加・行事の運営補助にあたり、地域の方々の交流を深めつつ、地域における祭礼の意義について考えを深める活動を行った。

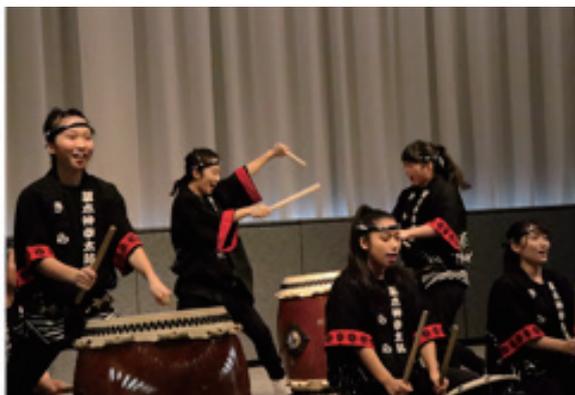


●国際地域能登太鼓チーム／新規活動助成

石川県能登半島の人々が地域に誇りを持ち地域を創造する事をビジョンに掲げ、地域資源の再評価をミッションとして活動する。「能登の太鼓」を地域資源とし、地元太鼓団体を東洋大学白山祭に誘致しコラボ演奏を披露した。地域との交流・再評価を通して地域の人々に変化与え、学生・大人・子ども達全員で作り上げた。



観客と演奏者(前列)



学生(中央でバチをあげている女性) とのコラボ演奏風景



体験コーナーにて演奏者から叩き方を教わる観客
(左2名)



煌による演奏風景

■社会貢献活動による表彰

応募数 5名、2団体／受賞数 2名

●山下未玖さん(社会学部)

私は2019年2月末から同年9月までの半年間アフリカのタンザニア、ザンビア、ウガンダの3ヶ国でボランティア活動を行いました。3ヶ国での主な活動は幼稚園での英語教育、また現地で自ら課題を見つけ、青空教育やウガンダでは飲み水の水質改善のために、子どもたちと濾過器を作る活動も行いました。



●三澤 岳志さん(社会学部)

ラオス・チャンパサック県パクソン郡の2つの小学校で、「九九の歌普及活動」を実施してきました。ラオスの小学校5年生を対象とした算数の学力テストでは、約73%の生徒が「社会生活不可」に位置付けられました(国語は約2%)。この現状を解決するための第一歩として、ラオス語版九九の歌を用いたプログラムを小学校で実施しようと考えました。



被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業

■本事業の概要

2018年度は、大阪府北部地震にはじまり、平成30年7月豪雨、台風21号災害、北海道胆振東部地震など、災害救助法の適用を受ける自治体が相次ぐ大規模災害が多発した。

また毎年のように、夏期は、豪雨災害が国内のいずれかの場所で発生するなど、大規模災害発生は珍しいことではなくなっている。

このことを受け、東洋大学では、出身県が被災した場合に、復興のために行動する学生を支援する取り組みの一環として、被災地域でボランティア活動を行う際の経費一部助成を行うこととなった。

2年目となる2019年度概要は以下のとおりである。

目的	被災地でボランティア活動を行う際の経費を一部補助することで復興のために行動する学生を支援する。
対象	出身県が過去3年間において被災している東洋大学生で、帰省時など出身地での災害ボランティア活動を計画している方。(1人年度内1回まで申請可能)
助成額	往復の交通費(10,000円上限)

■2019年度スケジュール

	第1期	第2期	第3期	第4期
申請期間	2019年4月1日 ～ 4月19日	2019年6月3日 ～ 7月19日	2019年9月18日 ～ 10月31日	2019年11月1日 ～ 12月13日
申請件数	0件			

■今後の課題

本助成制度ができて2年経過するが、問い合わせや結果的に対象外となる学生からの申込みはあったものの、実際に活用された実績はないのが現状である。制度設計の一部見直しとして、助成対象の「『出身県』が被災している学生」という限定や周知方法の見直しを検討している。

社会貢献センター 外部評価

社会貢献センター 外部評価

日 時	2020年3月
場 所	新型コロナウイルスの影響により事前面談の上、書面での回答
外部評価	東海大学講師 市川 享子

当センターでは、2019年度に初めて外部評価者を招き、社会貢献センター長、運営委員他とともに評価をいただくことになっていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、書面での評価となりました。

I 判定(S～C)：A

S	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A	おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総 評

貴学は井上円了を創設者とし、「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して生涯活動していた。創設者の志「大学の教育を広く民衆に届ける」が大学教職員や社会に広く浸透し、社会貢献センターがその中心的な推進役を果たしている。創設者の全国巡講の実践を引き継ぎ、センターと教職員により公開講座、講師派遣とも、大変活発に展開されている。特にセンターの特色の一つである生涯学習部門の総講座数が554に達しており、他大学の類似の機関の現状と比較しても特筆すべき状況であり、東洋大学がこれまで培ってきた社会貢献活動の歴史と実績の証左である。哲学系の講座開催が多いことから、建学の精神にのっとった、高い社会貢献を果たしているといえる。社会貢献部門のボランティア支援室は設立から3年という短い期間のなかで、目覚ましい成長がある。今後のさらなる発展が期待される。ボランティア支援室が推進する活動のテーマの広さと学生の安定的な参加は総合大学としての強みとして発揮されており、さらにガイダンスや講座、研修、宿泊型のプログラムなど、段階に応じた支援がきめ細やかに整えられている。今後はこうした幅広いテーマやプログラムを維持しつつ、東洋大学らしいテーマを社会とともに作り上げていくことで、よりボランティア支援室の存在が広く学生等の学内関係者と社会に浸透していくと思われる。また地域活性化活動支援事業は教員と学生がともに取り組むものであるが、教員の指導のもとに、積極的な地域参画・貢献が進められていることも評価できる。

Ⅲ 概評及び提言

理念・目的

<概評>

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか

社会貢献を大学の第3の使命と位置づけ、社会に開かれた大学を体現する中心的機関として、大学側の積極的な支援を基盤に多方面に活動を広げていることはセンターの強みであり、高く評価できる。学生の社会参画を進めるために社会貢献センター内にボランティア支援室を設立し、多数の学生が活動していることから、社会貢献という使命が実現・発揮されているといえる。一方で大学の使命となる教育と研究がセンターの進める公開講座や出張事業、ボランティア支援の活動と関連づけが明示されていないことから、今後はサービス・ラーニングのような社会貢献と教育と統合した「教育プログラム／カリキュラムの開発」やアメリカの大学で進められている研究と社会貢献を有機的に結び付けた Engaged Scholarship のように、相互の関係づけを進めることも期待したい。

② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか

大学の知と学生の力を社会に生かす仕組みとして継続的に公開講座や講師派遣で高い実績を上げ、ボランティア支援室が短期間の間に大きな成果を上げていることは特筆できる。今後はこれらの取り組みを継続発展させるとともに、大学の中期計画にも挙げられているように、SDGsのようなグローバル社会との関わり、人生100年時代の進展による新しいニーズへの対応など、時代の変化に応じた事業を進めることで貴学の強みがより鮮明になると考えられる。

③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか

「TOYO グランドデザイン」として社会貢献・社会連携部門の中期計画が立てられている。そこで掲げられているテーマは現代社会における最重な課題であり、その実現が社会からも高く期待されていると思われるとともに、浸透は教育的観点においても重要な影響をもたらすことが予想される。さらに、中期計画で示されている「活動のなかで奮闘する」は貴学独自の理念や特徴であり、その体現がより貴学の価値を高めるものと思われる。計画の実施にあたっては社会貢献センターが中心になるだけでなく、複数の拠点やキーパーソン（各キャンパスや各部門で中心となる教職員や学生、地域関係者）を発掘し、目指す方向性を相互に確認・構築しながら、リソースも共有しながら展開することも効果的と思われる。

<概評>

長所
創設者の建学の精神に基づき、貴学独自の特徴を有する社会貢献センターを発足され、着実に発展させていることは大変貴重であり、大きな長所である。現在社会貢献センターで進めている中心的事業はどれも教職員や学生の活発な参加が進み、それを支援する仕組みが整っている。建学の精神にのっとった形で時代の変化やニーズに応じて、創意工夫に基づいて各機能・事業を充実させていることは特筆に値する。
改善課題
<ul style="list-style-type: none">・社会貢献センターによる講座においてより双方向性を持たせること、在宅や海外に居住しても学習できる機会を広げるようなオンライン配信等のICTを活用した生涯教育の充実等、貴学の教育のさらなる浸透をはかるための支援について、時代に応じたさらなる工夫の可能性も考えられる。加えて、日本語や英語で学習できる外国人学生向けの講座（オンライン講座）が一部導入されることで、将来の学部生や大学院生などの留学生の獲得につながる可能性もあるものではないか。・ボランティア支援を受ける学生がキャンパスによって偏りがあるため、その差を縮小するための手立てが必要である。各キャンパスの潜在的な力を生かすため、キャンパス近隣地域の人や機関との連携を含めて、予算や人の配置の仕方等の構造的な部分での検討の可能性もある。

2019年度

東洋大学 社会貢献センター年報【詳細版】

発行 2020年7月28日

東洋大学 社会貢献センター（エクステンション課）

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

TEL：03-3945-7635 FAX：03-3945-7601

